

式ニハ何等承知セスト答ヘタル処同代理公使ハ米國ハ現ニ支那ヨリ増派軍撤退ノ要求ヲ受ケ居ルモ撤兵ノ意向ナシ然ルニ日本カ先ツ其増派軍ヲ撤退スルニ於テハ米國ノ立場甚

タ困難トナル殊ニ現在ノ増派軍ハ米本國ヨリ来レルモノニシテ之カ撤退ニハ多大ノ費用ト時日トヲ要スヘク旁々米國トシテハ日本軍撤退ヲ希望セサル旨ヲ語レル由

## 六 南 京 事 件

付 漢 口 事 件

401 昭和2年3月29日 在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京領事館、在留邦人が掠奪を受けたとの情  
報について

上海 発  
本省 3月25日後着  
※  
第三二〇号

在南京第二十四驅逐隊司令ヨリ(二十五日午前十一時四十分發)当地海軍司令官宛(十二時二十五分着)左ノ通  
城内領事館在留民一物ヲモ残サス掠奪サレ生命ニハ異状無シ  
輕傷者二名御真影電報暗号等大丈夫

402 昭和2年3月29日 在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件の波及なきよう上海の秩序を維持す  
べき旨白崇禧へ申し入れについて

上海 発

本省 3月25日後着

※  
第三二三号

往電第三〇三号ニ関シ

二十四日午前白崇禧本官ヲ来訪シタルニ付南京事變ヲ略述シ日本領事館及之ニ収容シタル在留民ノ運命不明ノ此際事態ノ如何ニ依リテハ重大ナル國際問題ヲ惹起スル虞アリ本官ハ深甚ナル憂慮ヲ抱キツツ南京ヨリノ消息ヲ俟チツツアル次第ナリト述ヘ本官ノ切望スル点ハ右事件ノ当地ニ波及セサルコト是ナリ貴下カ全力ヲ挙ケテ当面ノ秩序維持ニ当ルコト國民政府將來ノ為ニモ必要ナルヘシト警告シタルニ白ハ心配ラシキ顔色ヲ示シテ多クヲ語ラス上海ノ治安維持ハ必ス為スヘキ旨ヲ約シテ引取りタリ

猶當日ハ解除兵問題ニ関スル要求アルヲ予期シ荒城司令官モ同時ニ会见スル筈ナリシモ急ニ之ヲ見合ハセタリ本官ノ態度右ノ如クナリシ為カ今朝迄使者ヲ立テ五月蠅ク本官ニ

迫リタル山東兵引渡問題モ口ニセスシテ引取りタリ

403 昭和2年3月25日 在米國松平大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件の対策に関するケロッグ國務長官の  
談話について

ワシントン 3月25日後発  
本省 3月26日後着

第一〇七号

二十五日國務長官往訪ノ際南京ノ事變ニ言及シ此際米國側ニ於テ特別ノ行動ニ出ツル事アルヘキヤヲ尋ネタル処長官ハ本日迄ノ情報ノ大略ヲ告ケタル後未タ詳細ノ事情判明セサルモ最初伝エラレタル程多数ノ米國人殺害セラレタルニハアラサルカ如ク最後ニ接到セル電報ニ拠レハ行衛不明ヲ案セラレタル百余名ノ米國人モ漸次外國船舶ニ引揚ケ来ル様子ニ付事態ハ幾分緩和シタルヤニ認メラレ且「ウイリアム」提督ノ希望ニ依リ布哇及馬尼刺ヨリ軍艦ヲ増派スルコトトシタルニ付旁海兵隊及水兵ノミニテ十分ナルヘク此際陸兵派遣ノ意向ナシト答ヘタリ尚右軍艦ニ付新聞ノ發表スル処ニ拠レハ輕巡三隻布哇ヨリ驅逐艦六隻馬尼刺ヨリ急航

中国兵の南京領事館乱入在留邦人に対する暴  
行掠奪状況について

南京(海軍無線経由)  
本省 3月26日後着

※急

昨二十四日前七時頃ヨリ十一時半ニ互リ党軍第二軍六軍所属支那兵約一五〇名驢馬車等ノ運搬具ヲ用意シ来タリ入替リ立替リ制服制帽ニテ小銃ヲ携ヘ当館ニ乱入シテ直ニ武力掠奪ニ移リ一隊ハ事務所及館員官舎ヲ一隊ハ領事官邸ヲ襲ヒ本官以下館員家族上陸中ノ海軍士官水兵及避難中ノ男女在留邦人一〇〇余名ニ向ヒ間断ナク実弾ヲ発射シ或ハ「ベイヨネット」ヲ擬シ甚シキニ至リテハ足ノ病氣ニテ臥床中ノ本官寢具寝巻キヲ剥取りタル後枕元ヨリ前後ニ回実弾狙撃ヲ為シ或ハ婦人連中ニ対シ幾回トナク忍フヘカラサル身体検査ヲ行ヒ之ニ附随シテ数百ノ無賴漢乗込ミ当館備品及館員ノ私有品及引揚在留民荷物等ヲ徹底的ニ掠奪シテ以テ余サス床板、便器、空瓶迄持去リタリ此騒動中ニ木村署長右腕ニ貫通銃創ト左胸側ニ刺創ヲ根本少佐ハ左胸部ニ刺創腰部ニ打撲傷ヲ受ケタル処兵士ノ暴力ハ停止スル処ナク自

ヲ命セラレタル由  
英ニ転電シ仏ニ暗送セシム

404 昭和2年3月25日 在蕪湖藤村領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件の解決に全責任を負う故英米兩國当  
局に砲撃中止を伝達方蔣介石申出について

蕪湖 3月25日 発  
本省 3月29日後着

※第七一号

蔣介石ハ昨夜九時代表ヲ当館ニ派シ南京事件ノ善後問題ハ蔣自ラ全責任ヲ負フニ付英國米國兩國当局ニ対シ砲撃中止ヲ伝達シ呉レトノ申出アリ右上海總領事並海軍側ニ伝ヘ置キタル処本二十四日交渉員代理ノ来談ニ依レハ蔣介石ハ昨夜十一時ニ至リ当地ニ南京領事館員アルヲ聞キ交渉員代理ヲ派シ本官ニ申出タルト同様ノコトヲ同人ニ申込ミ其承諾ヲ経タルニ安心シ且蔣自ラ南京ニ赴クコト事件ノ解決ニ便ナリトシ突然今朝当地發南京ニ向ヘリト

405 昭和2年3月26日 在南京森岡領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

動車庫ヨリ「ガソリン」ヲ持ち出シ当館ニ放火シ一同ヲ燒殺サント放言スルニ至リタルヲ以テ一同(同時引揚ケ洩レノ男在留邦人三名アリテ支那人ノ家ニ隠レ居リ何レモ安全ナリ)ハ死ナハ諸共ノ決心ヲ以テ十一時頃領事館裏庭ニ集合シ掠奪兵ノ最後ノ脅迫ヲ受ケ居リタル矢先会々党軍第二軍党代表兼第二軍第六師政治部主任ノ肩書ヲ有スル楊ト云フモノ現場ニ馳セ付ケ党軍ノ方針ハ飽迄外僑ヲ保護シ特ニ日本ニ対シテハ好意ヲ有スルニ拘ラス無智ナル軍隊カスカル暴力ヲナシタルコトハ深く遺憾トスル処ナルカ今後ハ嚴重取締ヲ加フヘク又不自由ノ事有ラハ何レニモ申出有リタシトノ丁寧ナル挨拶ヲ述ヘ同時ニ護衛兵四名当館ニ来リ一同愁眉ヲ開キタルニ引続キ第六師長モ現場ニ来リ右兩人ノ連名ヲ以テ保護ノ告示ヲ門前ニ貼付シタル為多少安全ヲ得ルモ目下引続キ殺人掠奪事件頻発シ且在留官民ハ何レモ着ノミ着ノ儘ナリ食物モ菓子モ無く困難解カラサル為全部第二十四驅逐隊ニ避難セシメツツアリ本件急變ニ際シ在留官民一同終始沈着ナル態度ト周到ナル用意トヲ以テ御眞影ト運命ヲ共ニスル決心ヲ為シ一糸乱サス行動シ得タルコトハ本官ノ特ニ満足スル所ナルト同時ニ有ラユル迫害ノ下ニ御

真影及極秘書類入金庫ノ鍵ヲ苦心監督シテ絶対安全ヲ保チ得タルコトハ美ニ 天皇陛下ノ稜威ニ依ルモノニシテ一同ノ恐懼感泣ニ堪ヘサル所ナリ

尚日本人小学校城内蓬萊館栗林医院及松崎医院ハ右ト同時ニ完全ニ掠奪ヲ受ケ軍隊ノ本署トナリ其ノ他全部目下掠奪中ナリ当館南隣金陵大学モ昨日掠奪ヲ受ケ米国人副院長外一名掠奪セラレ天主堂ハ焼カレテ婦人数名死亡シタル趣ナルカ英国側ハ総領事カ負傷セリト伝ヘラルル外被害程度不明ナリ(二十六日)

406 昭和2年3月26日

幣原外務大臣より  
在上海矢田総領事宛(電報)

南京方面の形勢を考慮し軍艦派遣方海軍側と協議について

別電 三月二十六日付幣原外務大臣より在上海矢田総領事宛第八三号

南京事件に関し蒋介石に迅速処理方勧告について

本省 3月26日後發

※  
第八二号  
貴電第三三一号ニ関シ

## 六 南京事件

員及館内ニ收容ノ邦人避難民全部ヲ下関ニ引揚ケシメタルモ従来我カ海軍側ニ於テハ南軍幹部ノ節制ニ信賴シ是等乱暴ナル軍隊トノ接戦ヲ避ケ隱忍ニ隱忍ヲ重ネ専ラ居留民保護ニ努力シ城内邦人救出ニ際シテモ司令自ラ武装セス危険ヲ冒シテ城内ニ入りタル程ナリ然ルニ右ノ如ク従来其例ヲ見サル暴行カ自ラ国民革命ヲ標榜シ規律正シキコトヲ誇トスル南軍ノ手ニ依リ行ハレタルコトハ日本朝野ノ齊シク意外トスル所ニシテ折角南軍ニ対シテ同情ニ傾キツツアル日本ノ国論モ之カ為メ一大変化ヲ来サムトスル兆アリ

加之同地在留英米人百数十名モ或ハ南軍ニ抑留セラレ或ハ避難ノ途次射撃セラレ遂ニ兩國軍艦ハ是等避難民救助ノ為メ発砲応戦スルニ至レルモ今猶救出ヲ完ウシ得サルカ如キ紛糾状態ニ在ルノミナラス支那側地方官憲ハ何レモ責任回避ノ言辞ヲ以テ却テ暴慢ナル態度ニ出テ英米人ノ憤激ヲ買ヒツツアリ為メニ英米兩國ニ於テハ非常手段トシテ今後ノ措置ニ就キ重大ナル決心ヲ為スニ至ルヤモ測リ難ク旁々事態頗ル重大ナル形勢トナレリ若シ此際蒋介石ノ如キ責任アル南方有力者カ一刻モ早ク南京ニ赴キ如上ノ紛糾事態ヲ処理シ列國ノ満足スル解決ヲ自ラ進ンテ迅速実行スルニ非ス

南京方面ノ形勢ニモ顧ミ海軍ト協議ノ結果不取敢  
(一)二十九日頃寄港ノ予定ナリシ第一艦隊ヲ繰上ケ青島ニ入港碇泊セシム

(二)青島方面ノ第一遣外艦隊所屬艦ヲ貴地方面ニ回航セシム  
(三)以上ハ一時的の応急措置ニ過キサルモ必要ノ際更ニ貴地方面ニ陸戦隊ヲ増遣シ得ル様内地ニ於テ準備ニ着手ス

尚南京事件ニ関シ別電第八三号ノ通り蕪湖領事ヲシテ蒋介石ニ警告セシムル筈ナルカ目下森岡ハ病臥中ニ付事件ノ急速解決ノ為メ日英米三國領事協同シテ蔣ト対商ノ必要アル場合或ハ一時貴官ニ南京出張ノ上交渉方電命スル事アルヤモ計ラレサルニ付予メ御含置アリタシ

(別電)

第八三号

左記電報然ルヘキ方法ニヨリ蕪湖ニ転達アリ度シ

本大臣発在蕪湖領事代理宛電報第一七号

二十四日南軍兵士帝國領事館ニ闖入シ射撃、破壊、掠奪等暴行至ラサル無ク遂ニ我カ駐在武官及警察署長ヲ負傷セシメ二十五日朝我驅逐隊司令以下ノ決死隊ニ依リ纒ニ領事館

ムハ国民軍並國民政府ノ将来ニ由々敷悪影響ヲ及ホスノ虞アリ

就テハ貴官ハ至急蒋介石ニ直接面談シ上述ノ趣旨ヲ申入レ事態ノ悪化セサルニ先チ蔣自ラ南京ニ入りテ善後措置ヲ講シ責任者ノ処罰其他日英米ノ責任者ト事件解決ニ付迅速協定ヲ遂クルノ必要ナルコトヲ嚴重ニ勧告セラレ結果電報アリ度シ

407 昭和2年3月26日

在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件に対する処置を自発的に実施方間接の方法にて蒋介石に勧告について

上海 3月26日後發  
本省 3月27日前着

※  
第三四七号

往電第三四二号ニ関シ

南京事件ニ関スル列國ノ要求ハ要スルニ一、謝罪ニ、賠償三、処罰四、保障ノ四ケ条ヲ出テサルヘシト思ハルルニ付右条件ヲ即時実行スヘキ旨自發的ニ声明方明二十七日朝間接ノ方法ニテ蒋介石ニ勧告方取計ヒタリ

408 昭和2年3月27日

在南京森岡領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

在留邦人駆逐艦に引揚げ同艦内に臨時領事館事務所開設について

南京(海軍省経由)  
本省 3月27日後着

※(無号)

其ノ後引続キ共產黨員ノ手引ニ依ル党軍一部ノ排外暴行未  
タ熄マス程潜ハ昨日蔣介石ハ本日到着シテ掠奪兵ヲ発見次  
第斬殺スルト同時ニ共產党南京支部ヲ解散シ極力鎮圧ニ努  
メ居レルモ未タ其ノ効無ク英米側共ニ下関ニ領事館仮事務  
所ヲ移シ金陵大学ニ避難中ノ米国人約百名モ愈々本日午後  
ヨリ最後ノ引揚ヲ断行セルヲ以テ本官ハ本二十五日午後四  
時御真影ヲ駆逐艦に移シ奉リ次テ電信暗号以外ノ書類全  
部ヲ焼棄テ午後吉田司令以下海軍士官兵員数名保護ノ下ニ  
在留官民一同完全ニ駆逐艦ニ引揚ケ臨時当館事務所ヲ檣ニ  
設ケタリ右引揚間際ニハ楊杰本官ヲ来訪シ総指揮ヲ代表シ  
テ今回ノ事件ニ対シ遺憾ノ意ヲ述ヘ且掠奪ハ在南京共產党  
部員カ悪兵ヲ煽動案内セルニヨルモノニシテ即時徹底的ニ

見御訓令ノ趣旨ヲ好ク徹底セシムルト共ニ本官ト蔣介石ト  
ノ会见ヲ「アレンジ」セシムル様取計ハシメタリ黄ハ直ニ  
蔣ヲ往訪セリ本官ハ其ノ後仏米両総領事ヲ訪問シ本官カ訓  
令ニ基キ蔣ト会见スヘキ旨諒解ヲ求メ置キタリ(英国総領  
事ハ未タ捉ヘ得ス)

尚本日ノ支那新聞ニ掲載セラレタル蔣介石ノ談ニ拠レハ蔣  
ハ南京事件ヲ山東軍ノ宣伝部長何海鳴ノ仕業ナリト述ヘ外  
国人ノ損害程度ハ大シタモノニ非スト称シ居ルニ付其ノ点  
ヲ黄鄂ニ指摘シテ蔣ノ誠意ヲ疑ハシムルモノ有リト批難シ  
タルニ黄鄂ハ南京上陸ノ考ナリシモ該事件突発セルヲ以テ  
急遽上海ニ来リ本件交渉ニ当ルト共ニ上海ノ秩序維持ニ全  
力ヲ集中スル決心ヲ固メ南京ニハ数時間滞在シ程潜ヨリ事  
情ノ報告ニ接シタルカ程ノ説明ハ前記新聞記事ノ如キモノ  
ナリシ次第ニテ誠意ナキニ非スト弁明セリ

410 昭和2年3月28日

在南京森岡領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京交渉員の着任および南京事件に対する遺憾の意表明について

南京(海軍無線経由)

取締ヲ為シ外交部ノ設置ト共ニ賠償ノ交渉ニ応スヘキ旨ヲ  
述ヘ程潜モ昨日到着ト同時ニ特ニ私信ヲ本官ニ送り今回ノ  
事件ニ対シテハ直ニ取締リノ手段ヲ講シツツアルニ付之ヲ  
口実トシテ武力ヲ用ヒ事端ヲ滋カラシムルコト無キ様希望  
スル旨申出テタリ尚今回ノ対策ニ関シテハ初ヨリ吉田司令  
及本官期セスシテ所見一ニシテ徹頭徹尾無抵抗主義ニ決シ  
英米海軍側ハ昨日城内ヘ向ヒ大砲ヲ発射セルモ日本海軍ハ  
発砲セス英国総領事館保護英水兵ハ掠奪兵ニ向ヒ発砲用自  
動車二台及護衛兵若干ヲ付シ與レタリ(二十五日)

409 昭和2年3月27日

在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件の迅速解決を黄鄂に警告し且つ蔣介石との会談申し入れについて

上海 3月27日後発  
本省 3月28日前着

※第三五三号

(四〇六文書)

貴電第八三号御訓令ハ二十六日夜接到シタルニ付直ニ黄鄂

(四〇七文書)

ニ対シ(往電第三四七号)蔣介石ニ対スル勸告ハ本官ト今  
一応打合セタル後ニスル様申入置キ二十七日日本官黄鄂ト会

本省 3月28日前着

※(無番号)

林赤民南京交渉員ノ辞令ヲ受ケ本二十七日当地着明日就任  
ノ筈ナリ尚同人ハ本日蔣介石ノ代表トシテ本官ヲ来訪シ今  
回ノ事変ニ対スル遺憾ノ意ヲ表シ後藤機関兵ノ葬儀ニ参列  
セリ(二十七日)

411 昭和2年3月28日

参謀本部第二部

南京事件等に鑑み蔣介石総司令および武漢政  
府に対する方針について

対南方方針

昭和二年三月二十八日参謀本部

松井第二部長持参

一、帝國政府ハ南京事件ニ関シ蔣介石総司令ヲ問責シ適宜  
ノ解決法ヲ講スルト共ニ同総司令及在漢口自称國民政府  
ニ対シ左ノ要旨ノ警告ヲ与ヘ且之ヲ一般内外ニ公表ス

警告ノ要旨

帝國ハ從來支那南北ノ抗争並夫レ自体ノ革新運動ニ関シ  
全く干渉主義ヲ取り且支那國民ノ覚醒運動ニ同情シ其

ノ國際的要求ノ正当且穩健ナルモノニ對シテハ常ニ好意  
的態度ヲ持シツツアルコトハ内外ノ周知スル所ナリ  
然リト雖モ過去數ヶ月間廣東、湖南、湖北乃至ハ上海方  
面ニ於テ屢次繰返サレタル各種ノ共產主義的社会的行動  
殊ニ曩ニ漢口、九江等ニ於テ實現セラレタル不法ナル租  
界奪回暴動ノ如キ延テ帝国及其ノ國民ノ既得權ニ影響ア  
ルモノニ對シテハ固ヨリ無關心ナルヲ得ス而モ隱忍今日  
ニ至リタルモノノ只管時日ノ経過ニ伴フ支那國民ノ自覺反  
省ニ望ヲ囑シ努メテ自然的推移ニ依ル時局ノ解決ヲ期待  
シ以テ東亞大局ノ紛糾ヲ免レシメムコトヲ冀望セシニ他  
ナラス図ラサリキ最近南京ニ於テ實行セラレタル革命軍  
ノ暴挙此ノ如ク其ノ橫暴ナル排外的行動ハ実ニ三十年前  
團匪事變ノ再来ヲ思ハシムルニ至ラムトハ思フニ事ノ茲  
ニ至レルモノノ所謂過激者流ノ煽動擾亂ニ係リ恐ラクハ真  
正ナル支那國民ノ心ニ非ラス其ノ禍ノ及フ所独リ支那四  
億萬民衆ノミニ非ス真ニ東亞ノ治平ノ為寒心ニ禁ヘサル  
モノアリ革命當事者ニシテ今ニシテ深く反省自覺シ自ラ  
禍根ヲ排除シテ速ニ公正文明的態度ニ改ムルコトニ急ナ  
ラスムハ帝国亦從來ノ隱忍ヲ破リ列國ト共ニ進ンテ自衛

定ス

412 昭和2年3月28日

幣原外務大臣より  
在中国芳沢公使宛

(電報)

南京事件交渉は英米兩國と協同して行方針  
について

第一五二号

本省 3月28日發

本大臣發在蕪湖領事代理宛電報第一七号ニ関シ

蔣介石ハ既ニ上海ニ到着シ矢田總領事來電第三四七号ノ次

第モアルニ付前記訓電ノ趣旨ハ既ニ蔣介石ニ傳達セラレタ

ルモノト見ル可ク当方ニテハ其ノ結果ヲ注視シ居ル次第ナ

ルカ一方本件ノ發生ニ依リ英米ハ勿論本邦ニ於テモ國論一

時甚シク沸騰セリ尤モ在米大使來電ニ拠レハ其後米國人ノ

被害モ最初伝ヘラレタル程甚シカラサルコト判明スルニ

及ヒ米國側ノ激昂モ幾分緩和シツツアルモノノ如ク主ナル

新聞ハ生命財産保護以外ニ戰爭ニ入ル強硬手段ヲ避クヘシ

トノ論調トナレル由ナルカ此際蔣介石ノ如キ南軍ノ最高責

任者ニ於テ急速事件解決ノ誠意ヲ示シ關係三國側ヨリ強要

セラルルニ先チ自發的ニ治安維持ノ責任ヲ執ルノ態度ニ出

的手段ニ出ツルノ已ムナキニ至ルヘキコトヲ予告セサル  
ヲ得ス

二、南京事件ノ解決ニ關シテハ努メテ蔣介石等南方派中ノ  
穩健分子ヲ擁護シ其ノ責任ノ所在ヲ同派中ノ過激分子即  
チ共產派ニ歸スルノ趣旨ニ因リ尚英米諸國ト蔣介石トノ  
間ヲ調和斡旋シ平和的解決ノ手段ニ努ムルヲ可トス

之カ為メ英米兩國ニ對シ努メテ冷靜的態度ヲ德憑シ尚第  
一項帝國政府ノ方針ヲ伝ヘテ支那時局ニ對スル日英米諸  
國ノ協調ヲ謀ルヲ要ス

三、以上ノ目的ヲ達スル為メ帝國政府ハ非公式手段ニ依リ  
南支那各地所在文武諸官ヲシテ南方穩健分子ノ團結殊ニ  
國民黨右派トノ提携促進ヲ図ラシメ要スレハ所要ノ援助  
ヲ与フルヲ可トス

四、以上平和的交渉容易ニ奏効セス尚今後本事件ニ關連シ  
更ニ上海其ノ他ノ方面ニ於テ列國ノ間ニ戰亂的事變ノ勃  
發ニ備フル為帝國ハ今ヨリ動員セル一師團ノ派遣ヲ準備  
スルヲ要ス

五、將來南方派ト北方派トノ妥協統一等支那全局ニ對スル  
方針ニ關シテハ今後河南安徽方面戰局ノ一段落ヲ俟テ策

ツルニ非サレハ關係國ノ態度モ逆轉シテ益々強硬化シ本件  
ノ帰趨甚タ寒心ス可キモノアルニ至ル可ク旁々蔣ニ對シテ  
ハ前記警告ノ趣旨ヲ徹底セシメ度希望ナル処蔣ニ於テ(一)關  
係國ニ對スル正式謝罪、損害ノ賠償、責任者ノ処罰及將來  
ノ保障等本件解決ノ一般原則ヲ承認スルニ於テハ(二)進ンテ  
具体的交渉トシテ現場ニ於ケル實地調査ニ移ルコトトナル  
次第ナルカ今次事件解決ニ關シテハ我方ハ英米軍艦ノ南京  
砲撃ニ加ハラズ支那人間ニモ之ニ好感ヲ抱キ居ル者アル關  
係上外國側ニテ多少妙ニ邪推スル向モアリ此ノ際列國トノ  
協調維持ノ要アリ且損害賠償及將來ノ保障等ヲ有利ニ取付  
クルニハ共同交渉ヲ得策トス將又我方ニハ前記砲撃ニ因ル  
支那側ノ被害問題無キ關係上英米及支那側トノ間ニ介シテ  
周旋ヲ為シ得ルノ余地アルコト等ヨリ見テ此際英米ト協同  
シテ交渉ヲ進ムルヲ大局上得策ト認ムルニ付不取敢責地ニ  
於テ三國ノ外被害關係國ハモ加ヘ前記(一)(二)ノ要求ニ付協  
同交渉ノ主義協定ノ上(一)解決条件ノ原則承認ニ付テハ在上  
海總領事ヲシテ(二)協同調査ニ付テハ在南京領事ヲシテ夫々  
支那側ト会商セシムル等其ノ交渉ノ順序方法ニ付協議ノ上  
必要ナル訓電ヲ發スルコトニ尽力アリ度シ目下森岡ハ病臥

中英国領事モ負傷セルコトニテモアリ列国側トノ話合ノ如

何ニ依リテハ在北京公使館ヨリ夫々代表ヲ派シテ一切ノ交  
渉ノ任ニ当ラシムルモノノ弁法ナリト思考ス就テハ貴官ハ  
貴地英米公使ト前記ノ趣旨ニ依リ適宜折衝セラレ本件交  
渉ノ方法ニ関スル先方ノ意向御確メノ上何分ノ儀至急回電  
アリ度シ

上海、南京、漢口、広東、奉天ニ転電アリ度シ

413 昭和2年3月28日 幣原外務大臣より  
在上海矢田総領事宛(電報)

南京事件に際する在留邦人の無事避難に關シ

森岡領事宛転電について

付記 南京事件に於ける各国死傷者数調

本省 3月28日發

※第八九号

森岡へ左ノ通り転電アリタシ

本大臣發南京宛電報第二九号

今回ノ事變ニ付テハ貴官病臥中ノコトニモアリ殊ノ外苦心  
セラレタリト察セラル居留民カ何レモ無一物ト成ル迄掠奪  
暴行ヲ受ケタルニ対シテハ同情ニ堪ヘス領事館亦前例無キ  
被害ヲ蒙リタルハ甚タ遺憾トスル所ナルモ支那兵ノ暴状ノ  
甚シカリシニ比シ貴館海軍側及居留民カ終始隱忍自重一致  
協力ニ依リ二名ノ負傷者ノ外居留民ニハ一名ノ死傷者モ無  
ク全部ヲ無事避難セシメ得タルハ同慶ニ存ス

(付記)

※南京事件ニ於ケル各国死傷者数調

国	死者	負傷者	行方不明	計
日本	一 (後藤海軍一等機関兵)	二 (駐在武官根本少佐 領事館木村警察署長)	三	三
英国	二 (「スミス」博士、水兵)	二 (総領事「ジャイルス」外 一名 Capt. Speer)	六	六
米国	一 (金陵大学「ウエリアムス」博士)	二 (領事館員及婦人一名)	三	三

国	死者	負傷者	行方不明	計
伊国	一 (宣教師)	一	一	一
仏国	一 (宣教師)	一	一	一
丁林	七 (港務長 Huber)	一	一	一
計	六	二	二	一五

414 昭和2年3月28日 在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件交渉相手を蔣介石とすることにラン

プソン英国公使同意について

北京 3月28日後發  
本省 3月29日前着

※第三一五号  
往電第三〇九号ニ関シ

三國公使ノ会談中陳友仁ヲ經テ武昌政府ニ対シ本件交渉ヲ  
為スヘキヤ否ヤノ議論アリタル処本使ハ今回ノ事件ハ全然  
軍隊ノ行動ニ関スルコトニテモアリ且非常ニ重大ナル案件  
ニ付陳友仁ヲ相手ニ交渉ヲ為スモ徒ラニ時日ト議論ヲ空費  
スルノミニテ其効ナカルヘク旁々日本政府ノ考案通り軍ノ  
最高指揮者タル蔣介石ニ交渉スル方最適切有効ナルヘシト  
南 思考スル旨ヲ述ヘタルニ英國公使ハ全然同感ナリト述ヘ前  
六 記往電通り決定ヲ見タル次第ナリ

415 昭和2年3月28日 在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

蔣介石側の不手際により二十八日予定の会見

延期について

上海 3月28日後發  
本省 3月29日前着

※第三六五号  
往電第三五三号ニ関シ

二十七日夜黄郛ヨリ電話アリ蔣介石ハ黄ノ忠告ヲ容レ二十  
八日不取敢被害関係國領事館ニ何代理交渉員ヲ派シ南京事  
件ニ関シ遺憾ノ意ヲ表セシムルト共ニ事件ノ真相分明ヲ俟  
チテ処罰、賠償ノ責任ヲ執ルヘキ旨ヲ申入レシムル事トナ  
リ尚蔣ハ二十八日午前十一時交渉署ニ於テ本官ト会見スヘ  
キ旨申越シタリ同二十七日夜交渉署王科長ヨリモ会見ノ日  
時ニ関シ同様ノ申越アリタルニ付本官ハ二十八日午前十一  
時交渉署ニ至リタル処蔣ノ命令徹底セサリシモノカ門前ノ

番兵ハ本官ノ自動車ヲ遮リタルニ付草野ヲシテ之等番兵ニ  
対シ約ニ依リ本官カ蔣總司令ヲ来訪セル旨告ケシメタルニ  
拘ラス彼等ハ是非普通来訪者ト同様門内ニ入り面会人受付  
ノ手續ヲ為スヘシトテ聞入レス其ノ態度亦面白カラサリシ  
ヲ以テ本官ハ本来ナラ蔣自身来訪陳謝スヘキ筋合ニテモア  
リ強テ彼ト会見ノ必要ナシト認メ直ニ引返シタリ然ルニ本  
官帰館後交渉署員ヨリ電話ニテ蔣介石カ本官ヲ待チ受ケ居  
ル旨通知アリタルニ付前記ノ事情ヲ述ヘ右行違ニ関シ陳謝  
スルニ非サレハ訪問セスト断リタルニ折返シ電話ニテ手落  
チヲ陳謝スルト共ニ交渉署員ヲ門衛ニ立タシメ間違ヒナキ  
様取計ヒスヘキニ付是非来訪アリタシトノコトナリシモ本  
日ノ支那紙ニ本官蔣總司令ニ拜謁云々ノ記事アリ英米仏等  
ノ同僚ノ思惑モ顧慮セラレ且御訓令ノ趣旨ハ黃郛ヲシテ徹  
底セシメアルコトニテモアリ暫ク蔣ノ態度ヲ見ル方宜シカ  
ルヘシト存シ他ニ約束アリトテ断リ置ケリ

416 昭和2年3月29日

在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 南京事件の要求条件等に関する日英米三国公

#### 使会議の顛末について

司令官等ノ意見ニ依レハ南京ニ於テ受ケタル損害及侮辱ト  
今後ノ行動ノ「コンプロマイズ」ヲ避ケンカ為メ南京事件  
ニ付共同又ハ個々独立ノ行動ニ出ツヘキヤ否ヤニ関シ的確  
ナル方針ヲ示サレンコトヲ本国政府ニ請求スルコトヲ必要  
ト認メタリ就テハ何分ノ指令ヲ請フ「ウイリアムス」及荒  
城司令官ヨリモ夫々同様ノ請訓ヲ為シタリト有リ  
就テハ右司令官ノ請訓ニ関シ日米兩國公使ト協議ノ上大至  
急意見上申方今朝電訓ニ接セリト披露シタル上篤ト意見ノ  
交換ヲ遂ケタルカ本使ハ在上海總領事宛貴電第八三号ニ基  
キ帝國政府ニ於テハ既ニ在上海總領事ニ対シ蔣介石ニ勸告  
ノ上南京ニ於テ日英米三国ノ責任者ト事件解決ニ付迅速協  
定ヲ遂ケシムル様訓令ヲ發シ同總領事ニ於テ右ニ依リ目下  
行動中ナル旨ヲ内話シタル所両公使トモ満足ノ意ヲ表シタ  
ルカ午後会見ノ際偶々在上海總領事閣下宛往電第三六五  
号接到シタルニ付其大体ノ内容ヲモ内話シ置キタリ之ヲ要  
スルニ今回ノ南京事變ハ事態ノ性質上相当ナル要求ヲ提出  
スヘキモノニシテ右要求容レラレサル場合ニハ又之ニ対ス  
ル方策ヲ講スヘキモノニシテ此ノ見地ニ基キ要求条件ヲ起  
草スルコトトナリ種々論議ノ結果要求条件ノ骨子トシテ責

別電 三月二十九日着在中国芳沢公使より幣原外務大

臣宛電報第三一〇号  
右要求条件に関する協定

北京 3月29日前発  
本省 3月29日前着

第三〇九号

三月二十八日英国公使ヨリ至急会見ノ希望ヲ本使及米国公  
使ニ申入レタル結果午前及午後ニ互リ英国公使館及当館ニ  
テ三公使会合ノ上協議ノ顛末左ノ通  
英国公使ハ本国政府ヨリ電訓ニ接シタリトテ上海英国司令  
長官ヨリ同国政府ヘノ電報ニ依レハ在南京日英米三国ノ先  
任海軍將校等ハ南京ニ於ケル支那軍憲ニ対シ或一定時刻ニ  
該前任將校等ノ軍艦ニ来リ責任ヲ認メ謝罪ヲ為シ賠償ヲ為  
ス旨ヲ通告スヘキ旨ノ要求ヲ為ス事ヲ提議シ且支那軍憲ニ  
シテ此ノ要求ニ応セサル場合ニハ前任將校等ハ司令部其ノ  
他ノ軍事設備ヲ砲撃スヘク但出来得ル丈一般市民ニ損害ヲ  
与ヘサルヘシ但前任將校等ハ各其ノ所属司令長官ヨリ許可  
ヲ得ル迄ハ何等措置ヲ執ラサルヘシト申越シタルカ右ニ対  
シ日英米三国ノ司令官ハ二十七日差当リ開戦ニ至ルヘキ此  
ノ種ノ提議ヲ許可セサル事ニ協定シタリ

任者ノ処罰、賠償、謝罪、今後ノ保障及「タイムリミッ  
ト」ノ五項ヲ網羅スルコトトシ別電第三一〇号ノ通要求条  
件ヲ三人限リニテ協定シタリ「タイムリミット」ニ付テハ  
最初英国公使ヨリ要求条件提出ノ瞬間ヨリ幾日カノ日限ヲ  
限ルコトヲ提議シタルモ本使及米国公使ニ於テ多少ノ余裕  
ヲ設クルコトノ得策ナルコトヲ説キタル結果別電案ノ通  
協定ニ至リタル次第ニテ尚本使ヨリ仏国人二名殺害セラレ  
タル事実ト仏伊兩國ノ参加ヲ求ムルコトノ得策ナルヲ説明  
シタル結果明日本使ヨリ兩國公使ニ対シ別電要求条件ヲ試  
ミニ三公使限リニテ起案シタリトテ兩國ノ参加ヲ求ムルコ  
トトナレリ本使ハ両公使ニ対シ今回ノ交渉ハ非常ニ重大ニ  
シテ種々ノ考察ヲ要スル次第ナルカ此ノ要求条件ヲ貫徹セ  
ントセハ各關係国政府ニ於テ非常ナル決心ヲ要スヘク本使  
ノ観ル処ヲ以テスレハ此ノ要求条件ヲ提出シテ直ニ蔣介石  
ノ容ルル処トナレハ此ノ上モナキ都合ナルモ蔣モ直ニ之  
ヲ承諾セサルヘク而シテ一方武昌政府及左傾派ノ分子ハ之  
ヲ機會トシテ蔣ノ失脚ヲ図ルヘク蔣カ要求条件実行ノ後失  
脚スルコトハ我々ニ於テ別段痛痒ヲ感セサルモ実行前ノ失  
脚ハ實ニ我々ノ得策トセサル処ナリ且又左傾派ノ外勞農顧

間等ノ活動等モアルヘク要求条件カ容易ニ貫徹セサルヘキハ強テ無理ナル想像ト云フ可カラス從テ大体ニ於テ軍事行動ニ出ツルコトノ余儀ナキニ至ルヘキ処南京乃至江陰ニ対スル砲撃ノ効力如何ト述ヘタル処英國公使ハ自分ハ元來揚子江及広東ノ封鎖ヲ得策ト認ムルモノナルモ(同公使ハ漢口事件ノ際モ封鎖ノコトヲ本使ニ談シタルコトアリ)右ハ各国少クトモ日英米三国共同シテ之ヲ実行スルニ非サレハ何等効力ナシト思考スト述ヘタリ兎ニ角要求条件ニハ適当ナル措置云々ト認メアルニ付具体的ノ措置ハ各国ノ裁量ニアル次第ナリ

(別電)

第三一〇号

訳文

北京 3月29日 発  
本省 3月29日 前着

二三二二

北京 3月29日 発  
本省 3月29日 後着

第三一六号  
第三一六号  
往電第三〇九号ニ関シ

三月二十九日英米仏伊四国公使ヲ招キ本使ヨリ仏伊両公使ニ対シ要求条件起草ニ至リタル経緯ヲ説明シ三国公使ハ両公使ノ参加ヲ希望スル旨述ヘタル処両公使共全然同感ヲ表シ直ニ夫々本国政府ニ電報スヘキ旨ヲ答ヘ茲ニ五国公使ノ関スル限り要求条件ノ確定ヲ見ルニ至レリ各公使ノ意向トシテハ該要求条件ハ事態ニ比シ「モデスト」ナリト云フニ一致セリ

118 昭和2年3月29日

在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件は共産党の煽動であり南軍の暴行に  
制裁を講ずるべきとの森岡領事の意見具申に  
ついて

上海 3月29日 前着  
本省 3月29日 前着

本國政府ニ次ノ諸項ヲ稟申スルコトニ決定セリ  
甲、在上海各国総領事ハ蔣介石ニ対シ直ニ交渉ヲ開始シ蔣ニ対シ次ノ諸条件ヲ提出スルコト

一、虐殺、身体ニ対スル加害、侮辱及物質的損害ニ対スル責任軍隊指揮官並之ニ關係シタル一切ノ者ヲ適當ニ処罰スルコト

二、國民軍總指揮官ヨリ外国人ノ生命及財産ニ害アル一切ノ暴行及煽動ヲ為ササル旨ノ明約ヲ含ム謝罪狀ヲ取付クルコト

三、生命及財産上ノ被害ニ対スル完全ナル賠償

乙、蔣介石ニ於テ前記諸条件ヲ速ニ応諾スルコトヲ満足ニ表明セサルニ於テハ關係各国ハ其ノ応諾ニ期限ヲ付セサルヲ得サルニ至ルヘク其ノ場合右期限内ニ応諾ヲ得サルニ於テハ關係列國ハ其ノ適當ト思考スル措置ヲ執ルヘキコトヲ留保スル旨併セテ蔣介石ニ対シ各總領事ヨリ通告スルコト

417 昭和2年3月29日

在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件に関する要求に仏伊両国公使も同意

第三七〇号

森岡ヨリ左ノ通り

今回南京ノ掠奪事件ハ第二軍、第六軍及第四十軍(魯滌平、程潛、賀耀組)中ノ党代表及共産派下級將校ト南京共産党支部員トカ予メ計画準備ノ上南京共産党支部員ノ案内ニ依リ特ニ外國領事館、教会及關係学校其他一般外國人ヲ目標トシテ行ヒタル組織的且排外的暴動ニシテ支那人ニハ殆ト被害ナシ蔣介石以下各軍長各師長等カ本件ヲ以テ頗ル遺憾ナル出来事トナシ十分取締ニ努力シツツアル誠意ハ諒トセサルニアラサルモ何分赤化思想ハ下級將校以下軍隊ノ大部分ニ瀰漫シ今日ニ於テハ殆ント手ノ着ケ得ラレサル程度ニ悪化セルモノト認ムルヲ公平ナル判断トスルカ如ク現ニ事件發生及其翌日高級軍憲ハ本官ヲ來訪シテ陳謝ノ辞ヲ述ヘ外國人ノ生命財産ニ対シ十分ノ保護ヲ与フヘキ旨聲明シタルニ拘ハラズ南門外支那街ニ於ケル日本人商店ハ着々支那兵ニ依リテ掠奪ヲ受ケ加之昨二十七日驅逐艦桃乘組一等機關兵(今回ノ事變ニ依リ死亡)ノ葬儀ヲ下関空地ニ於テ営ミ在泊軍艦將卒及在留民一同參列嚴肅ナル儀式ヲ行ヒツツアル時ニ方リ横合ヨリ二名ノ広東兵カ会場内ニ乱入シテ秩

序ヲ擾サントシ我水兵ノ腕力ニ依リ突出サレタル事実アリ  
彼此総合スルニ広東兵ハ一般外国人ヲ排斥スルハ勿論特ニ  
外国領事館若ハ軍艦等ニ対シ故意ニ侮辱ヲ加ヘントスルノ  
意志ヲ有スルモノノ如ク極端ナル一例ヲ挙クレハ眼ニ一丁  
字ナキ兵卒カ我領事館掠奪中ニ方リ露国ト支那トハ一家ナ  
リ日英兩國ハ帝国主義ナルヲ以テ排斥ス日本人ノ有スル財  
産ハ支那人ヨリ捲上ケタルモノナレハ之ヲ取返スカ当然ナ  
リ日英人ハ上海ニ於テ數年來支那人ヲ虐待セリト揚言シテ  
憚ラサルカ如キ明瞭ニ南軍内部ニ於ケル排外過激的傾向ヲ  
察知シ得ヘク此機ニ於テ或種ノ強硬ナル制裁ヲ講スルニア  
ラサレハ意外ナル結果ヲ招来スルナキヲ保セス特ニ河南、  
江蘇ハ殆ト完全ニ南軍ノ手ニ落チントシ直隸、山東ニ於ケ  
ル北軍ノ潰敗ハ向フ二ヶ月ヲ出テサルヘク次テ奉天派内部  
ノ動搖ニ依リ南軍ノ手カ滿州ニ及フヘキハ向フ半ケ年以内  
ト觀察セラルル時ニ方リ南軍ノ暴行ヲ此儘看過スルニ於テ  
ハ近キ将来ニ於テ支那各地ニ於ケル在留民ハ全部引揚ケノ  
外ナカルヘキト同時ニ事滿州ニ迫ルニ至リテ対策ヲ講セン  
トスルモ其機ヲ失スルニ至ルヘシト愚考ス

御参考迄

ヘキ旨至急声明スル事ハ出来難キ内情アリ即チ共產党系学  
生、工人等ニシテ未タ武器ヲ取上ケ得サルモノ鮮カラス若  
シ此際右声明ヲナサンカ彼等ニ好個ノ口実ヲ与ヘ反蔣暴動  
ノ突発ナキヲ保シ難シ依テ熟議ノ結果不取敢交渉員ヲシテ  
關係國領事ニ口頭ニテ往電第三六五号前段ノ趣旨ヲ申入ル  
ル事トセル次第ナリト述ヘ尚陳友仁、孫科、宋子文ハ恐ラ  
ク上海へ來ル事ナカルヘシ右ハ蔣カ再三電報ニテ急キタテ  
タル為メ却テ疑惑ヲ懷キタル結果ナリト付言セリ

420 昭和2年3月30日

幣原外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

共産派による蔣の失脚を避けるため南京事件  
要求条件の緩和方について

本省 3月30日後発

※  
第一五四号

貴電第三〇九号及第三一〇号ニ関シ

(一)御来示ノ条件ハ後段B「タイムリミット」ヲ除ク外往電  
第一五二号ニ合致シ帝國政府ニ於テ異存ナシ

(二)「タイムリミット」ニ就テハ英國公使ノ強硬論モアル処  
上海發本大臣宛電報第三八一号ノ通り蔣介石ハ目下上海

419 昭和2年3月29日

在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

蔣介石の南京事件に関する責任表明は困難な  
る旨の黄郛談話について

上海 発

本省 3月29日後着

※  
第三八一号

往電第三六五号ニ関シ

二十八日夜黄郛來訪蔣介石ノ「メッセージ」トシテ同日朝  
ノ行違ヒヲ陳謝シタル上特ニ極秘ニ願ヒ度シト前置シテ門  
衛兵士カ嚴重警戒スルハ蔣介石外出ノ際兩三回乗車シタル  
自動車ニ昨日潘某カ乗りタル処爆彈隠シアリテ破裂シタリ  
尤モ爆彈ト言フモ鉞力鐘ニ火薬ヲ詰メタルモノニシテ自動  
車内部ヲ破壊シタルニ過キサリシモ右ハ勿論蔣ニ対スル陰  
謀ニテ其共產党系ノ仕事ナルハ申迄モナシ南京事件ノ真相  
ハ愈同一系ノ者カ蔣介石一派ヲ倒サントスル苦肉ノ計事ナ  
リシ事明瞭トナレリ蔣ハ本官ノ勸告ハ能ク諒解シ居ルモ今  
日直ニ本官ノ「サゼスト」スルカ如キ南京事件ニ対スル全  
責任ヲ負ヒ犯人ノ嚴重処罰並ニ被害ノ賠償等ヲ即時実行ス

ニ於テスラ苦境ニ陥リ且漢口發本大臣宛第一六七号末段  
ノ如ク共産派ハ全体會議議決トシテ蔣ノ権限ヲ拘束シツ  
ツ南京事件ノ難局ニ同人ヲ立タシメ之ヲ失墜セシメント  
スル苦肉ノ計ヲ回ラシ居ルハ推測ニ難カラス此ノ上列國  
側ニ於テ一層強硬ナル態度殊ニ同人ニ於テ列國ノ要求ニ  
応シ得サル場合ニハ実力ニ訴フルコトヲ暗示スルニ於テ  
ハ正ニ武昌側共産派ノ計画セル蔣ノ失脚ヲ早ムルニ過キ  
サルヘシ而モ其ノ結果ハ揚子江以南ニ於テ治安ノ維持一  
層困難ナルノミナラス却テ今ヨリ甚シキ無政府状態ニ陥  
リ遂ニ收拾スヘカラサル事態ヲ出現スルナキヤヲ惧ル此  
ノ際列國トシテ最良ノ策ハ支那ノ治安ハ支那人ノ手ニヨ  
リテ維持セシムヘク南軍側ニ於テ不完全ナカラモ統御ノ  
中心トナリ居ル健全分子ニ対シ時局ノ安定ヲ計ルノ機會  
ヲ与フルノ外ナシト思考ス今回ノ南京事件ハ情狀ノ極メ  
テ重大ナルモノアリ当方ノ満足ナル解決ヲ得ムカ為ニハ  
強硬手段ニ訴フルニ十分ナル理由アルニ拘ラス矢田ヲシ  
テ先ツ蔣ノ自發的解決ヲ促カシ更ニ別電第一五五号ノ如  
ク上海總領事ヲシテ蔣ヲ激励セシムルノ本旨ハ前述ノ共  
産派陰謀ニ蔣モ列國側モ引込マレサル様努力シ蔣等健全

分子ヲシテ本件ヲ解決セシメ延テ南方ノ事態ヲモ收拾セシメムトスルニ在リ之カ為ニハ可成列国側ヨリモ蔣等ノ失脚ヲ促カスノ結果ヲ伴フカ如キ措置ヲ避クルコト肝要ナリ右ノ方針ニ就キ貴官ヨリ英米公使ニ懇談ヲ遂ケラレ(四一六文書)貴電第三一〇号B中 unless he トアル he 〆 the Nationalist Army ト改メ又 to specify a time-limit for compliance, failing which they reserve to themselves ノ一句ヲ削除シタシ

(三) 矢田宛電訓執行ノ結果並前記「タイムリミット」ヲ削除セル共同要求ヲ提出シタル上ニテ蔣其ノ他南軍側ノ態度措置ヲ見定メタル後愈々強硬手段ニ訴フルヤ否ヤ徐ロニ対策ヲ講スルコトトシタク日本ノ如ク漢口以上ノ上流ニ二千ノ在留民、六ヶ所ノ領事館出張所ヲ有スル国ニ於テハ之カ救護又ハ引揚ケ等相当日数ヲ要スル準備行為ヲ為ササルヘカラス英國側ノ如ク直ニ強硬手段ヲ執リ得サル点ヲ考慮ニ加ヘ説明シ置カレタシ

(四) 往電第一五二号中段ノ通り共同交渉ニ日本カ参加スル理由ノ一モ亦實際ノ交渉ニ際シ列国側ヨリ過重ノ要求アリタル場合日本カ中間ニ立チ之カ緩和ニ努ムルコトヲモ考

## 六 南 京 事 件

負傷者アリタル点ニ対シ特ニ蔣介石ヲ代表シテ見舞ノ辞ヲ述フル為訪問シタル旨申出テ劉通訳之ヲ日本語ニ翻訳シタルカ之ニ対シ本官ハ病床ニ於テ上半身ヲ起シ嚴肅ナル態度ヲ以テ声ヲ励マシ日本語ヲ以テ今回ノ事件ハ誠ニ意外ニシテ国民革命軍力從來標榜スル処ノ文明的看板ニ鑑ミ山東軍潰走ノ後ハ党軍ノ入城ニ依リ在留外人ハ完全ニ保護セララルモノト考ヘ実ハ歓迎ノ意ヲ表シ居リタル処ヘ第二軍第六軍及第四〇軍ノ兵士カ突然青天白日旗ヲ翳シ正服正帽武装ヲ着シ第一着ニ各領事館次テ外国人教会学校個人商店住宅等ヲ襲撃シ支那ニ於テ未タ嘗テ見サル処ノ残忍酷薄ナル暴行掠奪ヲ行ヒ殆ント尼港事件ニ比較スヘキ慘状ヲ極メタルハ国際上極メテ重大ナル出来事ニシテ党軍ノタメニモ大ニ取ラサル処ナリ殊ニ本件掠奪ハ全然支那人ヲ除外シ特ニ領事館ヲ目標トシテ行ハレタルモノニシテ純然タル組織的排外暴動ニシテ目下我朝野ニ於テ之カ為メ輿論沸騰シ現ニ帝國政府ニ於テハ之カ善後策講究中ナルコト際本官一地方領事トシテハ此ノ点ニ関シテハ何等言及スヘキ自由ヲ有セス唯タ不取敢右ノ次第蔣総司令ニ御伝達アリ度シ尚本日ノ御来訪ニ関シテハ単ニ本官一己トシテ感謝ノ意ヲ表スル旨

慮シタルモノニテ前項ノ趣旨ニ基キタルニ外ナラス御合マテ

421 昭和2年3月30日 在上海矢田総領事より

幣原外務大臣宛(電報)

国民革命軍代表の陳謝に対する森岡領事の強硬態度表明のごとく

上海 3月30日後発  
本省 3月30日後着

\* 第三八七号

往電第三八六号ニ関シ

森岡ヨリ左ノ通

本三十日午前九時国民革命軍總司令部參謀(署カ)所長葛敬恩ハ通訊官劉友恵ヲ從ヘ菊地、山田兩人ノ案内ニ依リ当總領事館内ニ来リ本官ヲ病床ニ見舞上海總領事館草野書記生立会木村署長モ同席シタルカ葛ハ先ツ支那語ヲ以テ今回ノ事件ニ対シ遺憾ノ意ヲ表シ国民革命軍ハ外人ノ生命財産ヲ尊重保護スルモノニシテ暴行者カ軍人タルト將タ非軍人タルトヲ問ハス嚴重調査処分スヘキニ付今後ハ御安心アリ度日本領事カ病床ニ於テ狙撃セラレ木村署長カ重傷ヲ受ケ其他ニモ

峻烈ニ浴セカケタル処葛ハドギマギシ劉ハ色ヲ失ヒ兎モ角モ本件善後措置ニ関シテハ自分等ノ何トモ明言シ兼ヌル処ナルモ御話ノ次第ハ其儘總司令ニ報告スト答ヘコソコト室外ニ引取りタリ今回ノ事件ニ関シテハ南京遭難者ハ勿論上海在留民間ノ輿論沸騰シ從テ本官トシテモ相当手厳シク極メツケ置クノ必要ヲ認メ劈頭一杯喰ハセ置キタル次第ナルカ同人引続キ我荒城司令官ヲ訪問シタル際ニモ右以上ニ猛烈ニ叱リ飛ハサレタル趣ナリ

422 昭和2年3月30日 在上海矢田総領事より

幣原外務大臣宛(電報)

蒋介石が南京事件解決に全責任を負う旨言明について

上海 3月30日後発  
本省 3月31日前着

\* 第三九八号

往電第三六五号及往電第三八一号ニ関シ

二十九日交渉員来訪正式ニ行違フ陳謝シ明日会见願度シトノ申出有リ依テ三十日午前交渉署ニ蔣介石ヲ往訪(門前兵士ハ態度一變堵列シテ本官ニ捧ケ銃ノ札ヲ為セリ)黄郛ノ

通訳ニテ(一)貴下ハ南京事件ノ責任ヲ認め之ヲ回避スルコトナキヤトノ質問ニ対シ全責任ヲ負ヒ取調ヘノ結果ニ從ヒ犯人処罰、賠償等ヲ実行スヘシト答ヘ殊ニ英米軍艦ノ砲撃ニ日本軍艦ノ参加セサリシ事実ヲ知り感佩ニ堪ヘス右ハ国民革命軍初メ支那人一般ニ対シ日本ノ対支外交カ英米ノ圧迫政策ト分離シ独立セルモノナルコトノ証拠ヲ周知セシメ日支ノ關係上多大ノ好影響有ルヘシト信スト述ヘ次ニ本官ハ(二)上海付近ニ於ケル治安維持ニ付之亦全責任ヲ負フテ当ラルルコトヲ希望ス南京事件以來上海ノ日本人ノ神經愈々過敏トナリ今朝ノ新聞ニ依レハ今迄消極的傍觀的ナリシ米國迄千五百名ノ陸戰隊ヲ増援シ十二隻ノ爆撃飛行機ヲ送ル事ニ決定セル旨華府發電今朝ノ新聞ニ見エタルカ英仏ノ銳意兵力ノ充実ヲ計リツツアルハ申迄モナシ今日ハ実ニ危機一髪ノ重大時機ニシテ些細ノ事ヨリ大事件ヲ惹起スヘキ危険性瀰漫シツツアリト云フヘシ此ノ際当地ノ治安ノ責ヲ負フ貴下ニ於テ特ニ深甚ナル考慮ヲ煩ハスト述ヘタルニ貴意ヲ諒セリ必ス嚴重ナル取締ヲ為スヘシト明言シタルニ付夫レニテ引上ケ引取りタリ

尚蔣ハ黃郛ト共ニ二三日中ニ晚餐ヲ差上度ト勸メタルモ

暴行ニシテ而カモ蔣及其ノ一派ノ失脚ヲ早メムトスル陰謀ニ基クコト愈々明白トナレルノミナラス上海其ノ他ニ於テモ此種陰謀ノ計画セラレムトスル傾向アルヤニ伝ヘラル果シテ然ラハ国民軍自体並蔣及其ノ一派ノ運命ニ關シテモ重大機微ノ時ナリト思考セラレ他ノ一方ニ於テ国民軍中本件ニ関シ勇氣果斷ヲ以テ解決ノ衝ニ当ルモノナシトセハ支那ノ國民運動ニ同情セル諸國モ遂ニ國民軍ノ前途ニ望ヲ絶チ列國共同自衛ノ策ニ出ツルニ至ルノ虞ナシトセス現ニ北京ニ於ケル列國公使間協議ノ模様ヲ仄聞スル中ニハ此際蔣ニ對シ最後通牒ヲ發セムコトヲ主張スルモノアリ此ノ間日本ハ徒ラニ事態ノ紛糾ヲ加フルカ如キ強硬意見ヲ緩和調停セムトスルノ趣旨ヲモ加味シ進ンテ列國協調ニ參加スルノ方針ヲ立テタル次第ナリ要スルニ蔣トシテハ今ヤ内外一般ノ信頼ヲ得テ時局平定ノ大業ニ成功スルカ又ハ内部ノ陰謀ニ乗セラレテ遂ニ機會ヲ逸スルカ其運命ヲ決スルノ鍵ハ彼自身ノ決心如何ニアリトイフヘシ

## 六 南 京 事 件

(二)元來我方ニ於テハ支那ノ純真ナル國民運動ニ對シテハ常ニ同情ヲ惜マサルト共ニ支那時局ノ平定ハ飽ク迄モ支那

何レ其ノ機會ハ有ルヘシト断リタリ

423 昭和2年3月31日

幣原外務大臣より  
在上海矢田總領事宛(電報)

南京事件の早期解決に關し蔣介石に警告方訓

令について

付記一 三月三十一日木村重細局長と左近司海軍軍務局長との協議内容

二 南京事件善後交渉経過要領

本省 3月31日發

第九六号

貴電第三八一号ニ関シ

(四一九文書)

(一)蔣カ貴電第三六五号前段ノ如キ姑息ノ解決手段乃至貴電

第三八〇号在留民保護ニ關スル一片ノ訓令ヲ以テ日本其

ノ他列國ノ満足ヲ得ルニ足ルモノト思考スルニ於テハ同

氏ハ共產派ノ跋扈ヲ取締ル決意ニ乏シク自己ニ對スル内

外ノ压力ニ恐ヲナシ南京事件ノ重大性ト之ニ對スル我方

ノ苦心トヲ了解セサルモノト謂ハサルヲ得ス關係領事ノ

報告ニヨルニ今回ノ暴行カ南軍正規軍ノ所屬部隊中共産

党ノ党代表及將校等カ予メ準備計画シタル組織的排外的

國民自身ノ努力ニ依テ成功セムコトヲ祈ルモノナリト雖モ右國民運動ノ口実ノ下ニ排外的破壞運動猖獗ヲ極ムルニ於テハ啻ニ東洋ノ和局ノ為メノミナラス世界人道ノ為ニモ之ヲ容認スルヲ得ス若シ蔣等ニシテ我方ノ苦衷ヲ諒トセス南京事件ノ解決ニ付テモ此ノ上在舊日ヲ重ヌルニ於テハ我國論ノ沸騰ハ最早制止スルニ由ナキニ至ルヘク日支兩國關係ノ前途ヲ思ヒ憂慮ニ堪ヘス

(三)就テハ貴官ハ黃郛ヲ通シテ叙上ノ趣旨篤ト申入レラルルト共ニ今一度其ノ深甚ナル反省ト決意トヲ促サムコトヲ試ミラレタク或ハ貴官ノ考ニテ是等ノ忠告ヲ黃ニ於テ思切リ直言スルノ見込ナシトセハ貴官直接蔣ニ面談シ勸告セラレ結果回電アリタシ

(付記二)

三月三十一日木村重細局長ト海軍軍務

局長トノ協定

一、木村局長ヨリ

南京事件善後交渉ニ關スル帝國政府ノ方針ハ別紙芳沢公使宛回訓及矢田總領事宛訓電ノ通り出来得ル限り支那側

殊ニ蔣介石一派ヲシテ本件ヲ迅速円満ニ解決セシメ度ク從テ「タイムリミット」ヲ付シテ一種ノ最後通牒ニ近キモノヲ提示スルニハ反対ナルト同時ニ蔣一派カ本件解決ニ全責任ヲ負ヒテ列国トノ間ニ満足ナル解決ヲナシ得サル場合帝國カ愈々列国ト共ニ最後ノ強硬手段ニ出ツル前ニハ居留民引揚等ノ為相当ノ時日ノ余裕ヲ残シ置クコト最肝要ナリ即チ目下ノ政府ノ方針ハ(一)政治的解決(二)若シ其不可能ナル場合ニモ居留民保護ニ関スル準備的措置ヲナスノ余地ヲ残シ置クコトノ見地ニ立ツモノナリ依テ右政治的解決カ愈々可能ナリヤ否ヤノ決セラルルニ先立チ第一ニ長江沿岸ニ於ケル居留民ノ人心ニ多少ノ安心ヲ与フルノ措置ヲ執ル必要アリ之カ為外務省トシテハ不取敢上海ニ適當ナル兵力ノ増員或ハ目下巡航ノ途ニアル第一艦隊ノ一部ニテモ上海ニ差回シタキコトニ就キ海軍大臣ニモ上申考慮ヲ煩シ度シ

ト述ヘタルニ  
軍務局長ハ

海軍ニテハ目下

(一)荒城司令官ノ指揮權ノ下ニ兵力ヲ統轄セシムル為ニハ

ハ大体三期ニ分チテ計画ヲ立ツルヲ要ス即

第一期

「タイムリミット」ヲ付シタル通牒ヲ支那側ニ提出スル以前ノ措置トシテハ漢口上流ノ成都、重慶、万県、宜昌、沙市、常德、長沙各地ノ邦人ヲ漢口迄順次引揚ケシムルコト同時ニ漢口下流ニテハ相当ナル軍艦ノ碇泊シ得サル蘇州、杭州方面ノ邦人ヲ上海ニ引揚ケシムルコト

第二期

「タイムリミット」ヲ付シタル通牒ヲ提出スルト同時ニ執ルヘキ措置トシテハ大冶、九江、蕪湖、鎮江等各地ノ邦人ヲ最寄港口又ハ上海ニ引揚ケ集中スルコト南支各地即チ福州、廈門、汕頭、広東等ノ各海港ニハ何時ニテモ邦人ヲ收容シ得ル様適當ニ軍艦ヲ配置シ必要ニ応シテハ是等邦人ヲ收容シテ適當ノ地点例ヘハ台湾等ニ引揚ケシムルノ準備ヲ為スコト

第三期

「タイムリミット」經過シ列国カ遂ニ共同武力手段ヲ用フルニ至ル場合ノ措置トシテハ最早ヤ陸軍ノ力ニ依

先任將官ノ率イル大艦ヲ派遣スルハ面白カラサルニ付不取敢輕巡洋艦ニ隻ヲ派遣スルコト

(二)別ニ八雲級ノ軍艦ニ三百乃至五百ノ陸戦隊ヲ載セテ之ヲ荒城司令官ノ麾下ニ屬セシムルコト

(三)以上ノ補充ニヨリ同司令官所屬ノ駆逐艦等ヲ可成上流漢口迄ノ間ニ派遣配置セシムルコト

ノ三点ニ付略々内議ヲ遂ケツツアルヲ以テ早速海軍大臣ノ決裁ヲ仰キタル上回答スヘシ

ト答ヘタリ

二、更ニ木村局長ヨリ

(一)以上ノ措置ノ外下僚トシテ亜細亞局長ト軍務局長トノ間ニ有ユル場合ヲ仮定シテ予メ之ニ対スル措置方法ヲ講究シ置ク必要差迫レルヲ以テ之カ為ニ亜細亞局第二課長、軍務局軍事課長、軍令部課長ヲシテ至急協議セシメ之ヲ講究シタシ

(二)場合ニヨリテハ以上ノ準備措置実行ノ準備トシテハ長江各地鈔クモ漢口又ハ長沙辺リ迄ハ軍令部員及亜細亞局員ヲ目立タサル方法ニ依リ派遣スルノ必要アルヘシ

(三)全然亜細亞局長ノ私案トシテハ右準備的措置ニ関シテ

ルノ外ナキヲ以テ初メテ上海ノ防備漢口ノ保護等ノ為列国共同シテ陸兵ヲ配置シ我海軍ハ列国海軍ト協同シテ作戦ニ移ルコト

トナルヘキ所右三期ノ措置ニ関シテハ今日輕々ニ計画ヲ樹ツルコト或ハ機密ヲ保チ得スシテ意外ノ障礙ヲ来ス惧アルノミナラス廟議ノ決定勅裁ヲ要スル事項ナルヲ以テ目下内協議タニ為スヘキ時機ニ達シ居ラス畢竟第一期及第二期ノ準備ニ関シテ上局ノ裁決ヲ仰ク前予メ係官間ニ計画ヲ樹テ置カムトスルニ過キス

ト述ヘタルニ

軍務局長ハ

準備的措置ノ時期及計画ニ付テハ大体同感ナリ殊ニ第一期ノ準備ヲ実行スルトスルモ現在ノ長江ノ水流状態ニテハ四月中旬頃マテハ万県上流方面ニ在ル我砲艦ハ下航シ得ス從テ仮リニ第一段ノ政府方針ニ依リ政治的解決ヲ計ル場合ニ於テモ支那側之ニ応セス列国カ遂ニ強硬手段ヲ執ラサルヲ得スト決スル以前ニハ少クトモ二三週間ノ余裕ヲ存シ置クコト居留民保護上絶対ニ必要ナリ此見地ヨリ外務省ノ方針ニ依リ本件カ満足ニ解決スルト否トヲ問

ハス海軍省トシテハ芳沢公使宛電訓ヲ以テ「タイムリミット」ニ関スル点ヲ削除セラルルコトニハ全然同感ナリ  
最後手段ニ決スル迄ニ二三週間ノ余地ヲ残スコトニ付此  
ノ上トモ外務省ノ考慮ヲ仰キ度シ  
ト答ヘタリ

(付記二)

南京事件善後交渉経過要領

(昭和二年三月三十一日発在歐米大使宛電報)

蔣介石ハ二十六日上海ニ入レルヲ以テ蕪湖領事代理宛電訓  
ハ矢田総領事代ツテ執行スルコトナリ二十七日不取敢蔣  
派要人黄郛ニ対シ右電訓ノ趣旨ヲ好ク徹底セシムルト共ニ  
蔣介石トノ会见ヲ手配セシメ置キタルカ蔣ハ二十八日不取  
敢被害關係国領事館ニ交渉員ヲ派シテ南京事件ニ関シテ遺  
憾ノ意ヲ表セシムルト共ニ事件ノ真相分明ヲ俟テ処罰賠償  
等ノ責任ヲ執ルヘキ旨ヲ申入レシメ同夜黄郛ヲ矢田総領事  
ノ許ニ遣ハシ我方ノ勸告ハ好ク諒解スルモ共產党派ノ蔣ニ  
対スル失脚陰謀盛ナル今日処罰賠償等ノ即時実行ヲ速ニ声  
明シ得サル事情アル次第ヲ伝言セシメタリ三十日矢田総領

六 南 京 事 件

於テ日英米三国及ヒ被害關係国仏ノ四公使間ニ共同交渉ノ  
主義協定ノ上(一)解決条件ノ原則承認ニ付テハ在上海総領事  
ヲシテ(二)共同調査ニ付テハ在南京領事ヲシテ夫々支那側ト  
會商セシムル等交渉ノ順序方法ニ付協議セシムルコトナ  
リ二十八日右ノ趣旨ニヨリ關係国公使ト適宜折衝方芳沢公  
使ニ電訓セリ  
之ヨリ先在支英國公使ハ南京ニ於ケル日英米三国海軍先任  
將校ハ同地支那軍憲ニ対シ一定時刻ニ右三国軍艦ニ来リテ  
陳謝シ並損害ヲ賠償スヘキ旨ノ声明ヲ為スヘキコトヲ要求  
シ聴カレサル場合ニハ支那側軍事施設ヲ砲撃スヘキ旨各司  
令官ニ提議シタルモ司令官等ハ之ヲ許ササルト同時ニ本國  
政府ニ今後ノ行動ニ付請訓シタル趣ヲ以テ日米兩國公使ト  
協議ノ上何分ノ意見回申方本國政府ノ訓令ニ接シタリトテ  
二十八日日米兩公使ヲ招キテ意見ノ交換ヲ求メタリ依テ芳  
沢公使ハ蕪湖宛及同公使宛前記帝國政府訓令ノ趣旨ヲ内話  
シ種々論議ノ結果本國政府ヘノ回申案トシテ次ノ協定ヲ遂  
ケ直チニ回電シタリ  
(一)在上海各國總領事ハ蔣介石ニ対シ直チニ交渉ヲ開始シ蔣  
ニ対シ次ノ諸条件ヲ提出スルコト

事ハ交渉署ニ蔣ヲ往訪シタルニ蔣ハ本件ニ対シテ全責任ヲ  
負ヒ取調ヘノ結果ニ從ヒ犯人ノ処罰損害賠償等ヲ実行スヘ  
シト述ヘ英米軍艦ノ砲撃ニ日本軍艦ノ参加セザリシヲ感謝  
シタル上矢田總領事カ南京事件以来外國人ノ神益益々過敏  
トナリ英米仏トモ兵力ノ充実ヲ計リツツアル有様ニテ些細  
ノコトヨリ大事件ヲ惹起スヘキ危険性ヲ蔵スル重大時機ナ  
ルコトヲ指摘シ上海ノ治安維持ニ付特ニ深甚ナル考慮ヲ要  
スル旨警告シタルニ対シ貴意ハ好ク諒承セルヲ以テ必ス嚴  
重ナル取締ヲ為スヘキ旨ヲ明言シタルニ付同總領事ハ之ニ  
テ一旦会谈ヲ打切レル趣ナリ

他方本件善後交渉ハ(一)蔣介石等南軍最高指揮者ニ於テ關係  
國ニ対スル正式謝罪、損害賠償、責任者ノ処罰及将来ノ保  
障等本件解決ノ一般原則ヲ承認スルニ於テハ(二)進シテ具体  
的交渉トシテ現場ニ於ケル实地調査ニ移ルノ段取リトナル  
ヘキ処此際列國トノ協調維持ノ必要アリ且解決条件ヲ有利  
ニ応諾セシムルニハ共同交渉ヲ得策トスルコト並今英米  
軍艦ノ南京砲撃ニ我海軍ノ加ハラサリシ關係上我方ニ於テ  
英米支那側間ニ居中周旋ヲ為シ居ルコト等ノ見地ヨリ英米  
ト協同シテ交渉スルヲ大局上得策ト認メタルヲ以テ北京ニ

イ、虐殺、傷害、侮辱及物質的損害ニ対スル責任軍隊指

揮官並之ニ關係セル一切ノ者ヲ適當ニ処罰スルコト

ロ、國民軍總指揮官ヨリ外國人ノ生命財產ニ害アル一切

ノ暴行及煽動ヲ為ササル旨ノ明約ヲ含ム謝罪ヲ取付ク

ルコト

ハ、生命財產上ノ被害ニ対スル完全ナル賠償

(二)蔣介石ニ於テ前記諸条件ヲ速カニ応諾スルコトヲ満足ニ  
表明セサルニ於テハ關係各國ハ其ノ応諾ニ期限ヲ付セサ  
ルヲ得サルニ至ルヘク其ノ場合右期限内ニ応諾ヲ得サル  
ニ於テハ關係各國ハ其ノ適當ト思考スル措置ヲ執ルヘキ  
コトヲ留保スル旨併セテ蔣介石ニ対シ各總領事ヨリ通告  
スルコト

右応諾ノ期限ニ關シテハ最初英國公使ハ本件要求提出ノ時  
ヨリ幾日カノ日限ヲ明定スルコトヲ提議シタルモ日米兩公  
使ハ多少ノ余裕ヲ設ケ置クノ得策ナルヲ説キタル結果之ヲ  
明定セサルコトトナレル趣ナリ尚右協定ハ翌二十九日芳沢  
公使ヨリ之ヲ伊兩公使ニ提示シテ参加ヲ希望シタルニ兩  
公使全然同感ニシテ直チニ夫々本國政府ニ電報濟ナリ  
右三国公使ノ意見ハ大体ニ於テ帝國政府ノ異存無キ所ナル

モ蔣介石ニ対スル共產派ノ陰謀盛ニシテ南京事件モ蔣ヲ難局ニ立タシメ失脚セシメムトスル苦肉ノ計略ナルコトハ二十五日南京領事館ニ避難民ヲ收容中南軍第十七師長カ森岡領事ヲ來訪シ本件ハ南軍内部ノ不良分子ト南京共產党支部ノ予メ通謀計画シタルモノナルコトヲ明言シ又今回ノ暴行カ特ニ外国領事館教会学校其他一般外人ヲ目標トシ行ハレ支那人側ニハ殆ント被害ナキ事実其他諸般ノ情状ヨリ見テ想像ニ難カラサル所ナルカ此際列國ニ於テ蔣ニ対シ列國ノ要求ニ応セサル場合ニハ実力ニ訴フルコトヲ暗示スルニ於テハ却テ共產派等ノ計画セル蔣ノ失脚ヲ早メ長江以南ハ更ニ甚シキ無政府状態ニ陥リ遂ニ收拾ス可カラサル事態ヲ現出スルノ惧アルヲ以テ南軍側ニ於テ不完全乍ラモ統御ノ中心トナリ居ル健全分子ニ対シ時局ノ安定ヲ計ルノ機会ヲ与フルヲ得策トスルニ付(一)芳沢公使ヲシテ英米側ト協議シテ前記三公使協定ノ要求条件中承諾ノ期限ニ関スル字句ノ削除方懇談セシムルト共(二)右削除ヲ経タル共同要求ヲ提出シタル上ニテ蔣其他南軍側ノ態度ヲ見定メタル後強硬手段ニ出ツヘキヤ否ヤニ付徐ロニ対策ヲ講スルコトトシ度キ処漢口上流ニ二千ノ居留民、六箇所ノ領事館出張所等ヲ有

再応其ノ深甚ナル反省ト決意ヲ促サシメ右間接ノ方法ノ見込ナシト認ムル場合ニハ矢田總領事直接蔣ニ面談勧告スヘキ様電訓セリ

424 昭和2年4月(1)日

在上海矢田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件後の時局に関する在上海ソ連邦總領事との会談について

上海 発

本省 4月1日前着

第四〇七号

三十一日露国總領事來訪時局ニ関スル本官ノ意見ヲ求メタルニ付本官ハ南京事件以來英米國ノ感情沸騰シ我國ノ輿論モ亦一變調ヲ呈シタルハ免ル可カラサル処ナリ而モ当地ノ英國軍憲ハ愈々南軍ニ対スル用意ヲ固メ神經興奮シ居ルハ日々貴下ノ目睹スル処ト信スルカ此様子ニテハ勢ノ赴ク処「モップ」ト外国兵トノ衝突ハ免ル可カラス其結果支那民衆及軍隊ノ排外熱一時ニ高調シ各地ニ不祥事ヲ惹起シ勢我國モ英米國ト共ニ不本意乍ラ武力ヲ以テ干渉セサルヘカサル羽目ニ陥ルナキヲ保シ難シ而モ其場合ニハ赤露ノ人々

スル日本トシテハ之カ救護又ハ引揚等ニ相当日数ヲ要シ英國側ノ如ク直チニ強硬手段ヲ執リ得サル点ヲモ考慮ニ加ヘ適宜英米側ニ説明セシムルコトトシ三十日右ノ趣旨ヲ在支公使ニ訓電セリ同時ニ矢田總領事ニ対シテモ蔣介石カ外國人保護ニ関スル一片ノ訓令ヲ以テ列國ノ満足ヲ得ルニ足ルモノト思考スルトセハ自己ニ対スル内外ノ圧迫ニ恐ヲ為シ事件ノ重大性ト之ニ対スル我方ノ苦心ヲ了解セサルモノト謂フ可ク一方蔣一派ノ失脚ヲ早メムトスル陰謀愈々明白ニシテ國民黨自体及蔣一派ノ運命ニ関シテモ重大機微ノ時ナルニ鑑ミ國民黨中此際勇氣果斷ヲ以テ解決ノ衝ニ当ルモノナシトセハ國民黨運動ニ同情セル諸國モ遂ニ國民黨ニ望ヲ絶チ列國共同自衛ノ策ニ出ツルノ惧アリ

現ニ北京ニ於ケル關係公使間ノ協議ニ於テモ蔣ニ対シ最後通牒ヲ發セムコトヲ主張シタルモノアリ日本ハ徒ラニ事態ノ紛糾ヲ加フルカ如キ此種強硬意見ヲ緩和調停セムトスル意味ヲモ加味シ進ンテ列國協議ニ参加スルノ方針ヲ立テタル次第ナルカ蔣等ニシテ我方ノ苦衷ヲ諒トセス本件解決ニ付此上時日ヲ遷延セシムルニ於テハ我國論ノ沸騰ハ遂ニ制止スルヲ得サルニ至ルヘキ旨ヲ黃郛ヲシテ蔣ニ申入レシメ

ト雖無智ナル支那暴民ニハ他ノ外國人ト區別シ難キノミナラス例ヘハ或人カ故意ニ此混乱不幸ハ赤露ノ仕業ナリト宣伝センカ日英ニ向ヘル増悪ノ念ハ一転シテ貴國ニ向フ惧ナシトハ斷言シ難カル可シ支那民衆ノ先天的排外的本能ヲ思ヘハ殊ニ此危惧アリト述ヘタル処同總領事ハ驚キタル顔色ニテ自分モ其点心配セサルニ非ス先日南京ノ騒中露國汽船モ何人カノ為沈没シタリ然ラハ如何ニスレハ宜敷キヤト反問シタルニ付上海ニ於ケル南軍正規兵ハ「ソー、ファー」心配ナキモ所謂共產黨連中ノ指導シ居ル便衣隊カ問題ナリ彼等カ不法ニ掠奪シタル武器ヲ取上ケサル限り如何ナル暴行ヲ働クヤモ計リ難ク而モ何人モ責任ヲ負フモノナシ本官ハ共產主義ノ可否ヲ論スルモノニ非ス共產主義ノ貴國ト雖日本人ハ安心シテ適法ノ事業ニ従事シ居レリ要ハ秩序治安ノ如何ニアリ若シ貴方ニテ彼等ノ暴行ヲ「ジラスチファイ」スレハ格別然ラサレハ今ノ内ニ何トカセスハ懸テハ貴國人モ危キ時期來ルヘシト警告シタルニ糾察隊ハ其内ニ制服ヲ作り労働衛隊(レーバースガード)トナス由ナレハ決シテ不法ノ事ハ為ササルヘク又公人ノ暗殺等頻發シタルモ南軍上海占領以來ハ之ナキニ非スヤト弁護シタルニ付其辺ノ内

情ハ貴方良ク御承知ナレハ兎角ノ批評ハ控フヘキモ彼等サ  
ヘ充分取締レハ前述ノ如キ大事變ハ防止シ得ヘシ其カ目下  
ノ最大急務ナリト答ヘタリ  
在支公使へ転電セリ

425 昭和2年4月2日 在中国芳沢公使より幣原外務大臣宛(電報)

幣原外務大臣宛(電報)

### 南京事件要求条件修正に関する五国公使会議

#### の顛末について

別電 四月二日付在中国芳沢公使より幣原外務大臣宛

第三三三三号

陳友仁外交部長に対する通告前文

北京 4月2日 前發

本省 4月2日 前發

※ 第三三三二号

(四二〇文書)

貴電第一五四号ニ関シ

三月三十一日英米仏伊四国公使ト予メ必要ノ打合せヲ遂ケ  
タル上四月一日四公使ヲ招キ御訓示ノ次第ヲ読聞セタル上  
帝國政府ノ主旨ハ今直ニ「タイムリミット」ヲ定メントス  
ルモノニ非シテ要求条件ヲ蔣介石ニ提出シタル後事態ノ  
發展ヲ見届ケタル上強硬手段ニ訴フルヤ否ヤヲ決セントス

## 六 南京事件

米、仏、伊四国公使ニ通告スヘシトノ事ナリト述ヘ伊国公  
使ハ他ノ四国公使全部ノ一致スル措置ニハ総テ同意シ差支  
ナシトノ電訓ニ接シタリト披露シ仏国公使ハ同國政府ヨリ  
ハ攻撃ハ絶対必要ノ場合ニ限ルモ其他ニ就テハ五國共同ノ  
措置ニシテ五國協調ノ本旨ニ基クモノナルニ於テハ之ニ加  
ハリ差支ナシトノ電訓ニ接セリト述ヘ米国公使ハ未タ電訓  
ニ接セスト述ヘタリ英國公使初メ他ノ各國公使共日本政府  
ニシテ「タイムリミット」ノ文句ヲ削除スル意見ナリト  
スレハ夫レニテ可ナルモ唯要求条件ヲ承諾セシムル為ニハ  
強力ノ「バック」ヲ必要トスト述ヘ本使ハ日本政府ノ趣旨  
ハ事態ノ推移ヲ見タル上強力ヲ用フルヤ否ヤヲ決シタシト  
言フニアリテ或ハ多少双方ノ趣意ニ差異アルヤ計リ難キモ  
差当リノ所 specify a time limit for compliance, failing  
which they reserve to themselves ノ十二語ノシヲ削  
除スルコトニハ異存ナキヤト尋ネタル処各公使共異存ナシ  
ト答ヘタリ本使ハ尚英國政府ノ意見(一)ハ未タ実益ナク体面  
ヲ重ンスル支那人ニハ不向ノ意見ニテ従前ナラハ兎モ角今  
日ニ於テハ之ヲ見合ハスコト可然(二)ハ形式如何ニ依リテハ  
異存ナキモニケ所ニ於テ同一ノ交渉ヲナス事ハ不得策ナル

ルモノナリト述ヘ修正ニ依レハ(不明)ハ「タイムリミッ  
ト」ヲ削除スレハ交渉ノ遷延スル惧アリトテ異論ヲ述ヘタ  
ルモ本使ヨリ日本ノ修正ニヨレハ「タイムリミット」ヲ削  
除スルモ蔣介石カ要求条件ヲ容レサル場合五國ハ尚其適當  
ト認ムル措置ヲ採リ得ル次第ニテ且我方トシテハ四國ト異  
リ揚子江上流ニ多数ノ居留民ヲ有シ其ノ保護乃至引揚ケニ  
多大ノ手数ヲ要スル次第ナリトテ重慶發閣下宛往電第一一  
号ノ次第ヲ披露シ各公使ノ意見ヲ求メタル処英國公使ハ本  
國政府ヨリ一応ノ電訓ニ接シタルカ右ニ依レハ同國政府ハ  
大体要求条件ニ承認ヲ与ヘタル上其ノ意見トシテ

(一)謝罪ニ就テハ蔣介石ヲシテ親シク被害國ノ Formal Mil-  
itary Parade ニ臨ミ其國旗ニ敬礼セシムルコトモ一案ナ  
リ  
(二)蔣介石ニ要求条件ヲ提出スルト同時ニ漢口ニ於テモ陳友  
仁ニ提出シテ蔣介石ヲシテ要求条件ヲ承諾セシムルニ便セ  
シムルコト可然キ旨申越セリ尚右電訓ニ依レハ英國政府ハ  
蔣介石カ要求条件ヲ承諾セサル場合ニ對スル制裁ニ付テハ  
陸海軍ト協議ノ上成案ヲ得タル後之ヲ在上海「チリット」  
提督ニ電報シテ其ノ意見ヲ徴シタル後同公使ヲ経テ日、

ニ付陳友仁ニ對シテハ唯通告スルコトタケニ留メ置キ度シ  
ト述ヘ他ノ各公使モ同様ノ意見ヲ述ヘタル結果陳友仁ニ對  
スル通告ノ前文トシテ別電第三三三三号ノ文字ヲ協定セリ本  
日ノ会谈顛末ハ右ノ通りナルカ米國政府ノ訓電到着次第更  
ニ会合スル事ニ打合ヲ遂ケタリ

(別電)

Peking, April 2nd a. m.

Rec'd, April 2nd a. m.

Gaimudajin, Tokio.

No. 333

Under the instructions of the……Government I am  
directed by the……Minister to present to you the fol-  
lowing terms (which are also being addressed to Gen-  
eral Chiang Kai-Shek, Commander-in-Chief of the Nation-  
alist Armies) for the prompt settlement of the situa-  
tion created by the outrages against……national com-  
mitted by Nationalist troops at Nanking on March 24th  
last.

426

昭和2年4月2日 幣原外務大臣  
テイリイ英國大使 會談中国に対する強硬手段採択の効果等意見交換  
について\*南京事件ニ関シ在本邦英國大使幣原大臣  
來訪ノ件

昭和二年四月二日在本邦「チリ」英國大使幣原大臣ヲ來訪シ北京ヨリノ電報ニ依レハ南京事件共同抗議ニ関シ日本側ニ於テ原案中「タイムリミット」ニ関スル字句削除ヲ求ムル為在支芳沢公使カ長江上流数千ノ日本人ノ生命財産保護ノ必要上最後ニ於テハ之ヲ安全地帯ニ引揚ケシムルノ要アル処未タ右引揚モ実行セサル場合ニ列国ヨリ最後通牒ヲ以テ強硬ナル態度ヲ示スコトハ日本ニトリテハ危険ナル旨述ヘタル由ニテ日本ノ右立場ハ自分ニ於テモ了解シ得ル所ニシテ多分本國政府ニ於テモ右削除ニ對シテハ異議無カルヘシト思考ス尚英國政府ハ独り南京事件ノミナラス一般對支政策ニ就テモ日英兩國間ニ常ニ自由且率直ナル意見ノ交換ヲ行ヒ歩調ノ一致ヲ期シ度キ意向ナリト述ヘタルニ付

シ案外之ニ堪ヘ得ヘク最大ノ打撃ヲ受クルモノハ却テ外國ノ居留民乃至對支貿易ニ從事スル外國商工業者ニシテ封鎖ノ結果ハ支那ヲ苦シムルヨリカ寧ロ列國自ラヲ苦シムルコトトナラサルカ

第二ニ考ヘラルルハ砲撃ナルカ砲撃ハ所謂兵要地点 (strategic point) ヲ目標トセサルヲ得サル処死命ヲ制シ得ル中心地点即 heart ヲ砲撃シ得レハ相當支那側ヲ屈服セシムルニ足ルヘキモ支那ノ現狀ニ於テ殊ニ南軍ノ勢力範圍内ニ於テハ斯ル致命的兵要地点ハ一モ存在セス寧ロ小ナル「ハート」カ隨所ニ散在スル実狀ナルヲ以テ砲撃モ亦此ノ散在セル小兵要地点ニ對シテ為サルコトヲ要シ而モ之ニ依リテ致命傷ヲ与ヘ得サルヘク結局砲撃ニ就テモ列國軍側ニ於テ窮境ニ陥ルノ結果トナル虞ナキヤ

## 六 南京事件

第三ニ考ヘラルルハ military occupation ナル処右ハ砲撃ノ場合ト同様死命ヲ制シ得ル兵要地点ヲ占領セサルヲ得ス然モ前述ノ通り小ナル兵要地点ハ各地ニ散在スルヲ以テ悉ク占領スルニ非サレハ充分ニ効果ヲ挙げ得サルヘク多数ノ兵要地点ヲ広キ地域ニ互リテ占領スルコトハ軍事上將又事實上ニ於テモ不可能ナラサルカ仮リニ右占領ヲ実行スル

幣原大臣ハ南京事件解決ニ付テハ既ニ在上海矢田總領事ヨリ蔣介石ニ勸告スル所アリタルカ出來得レハ南軍側ノ中心人物タルヘキ蔣介石等ヲシテ速ニ自發的ニ処罰、賠償、陳謝、保障ノ四解決条件ヲ原則ニテモ承認スル旨声明セシメ事件ノ円満解決ヲ計ルヲ得策ナリト信ス此際最後通牒ニ類スル強硬ナル抗議ヲ蔣等ニ押し付クルニ於テハ蔣トシテハ列國ノ最後通牒ニ屈從スルカ又ハ之ヲ拒絕スルカノ二ノ方法以外ニ採ルヘキ途ハナシト思考セラルル処蔣ニ於テ之ニ屈從スルコトハ全然彼ノ立場ヲ破壊シ終ニ國民黨内部關係ニ於テ其ノ部内ヨリ驅逐セラルルハ明白ナルヲ以テ到底之ヲ承認セサルヘク寧ロ彼ニトリテハ不可能ノコトニ屬スルヲ以テ蔣ニ於テ勢此ノ列國ノ強硬抗議ヲ拒絕スル場合右ニ對シ列國ニ於テ如何ニ処スヘキヤ大ニ考慮ヲ要スヘシ自分モ既ニ此ノ拒絕ノ場合ニ於テ支那側ヲシテ列國ノ要求ニ從ハシムルニ足ル efficient coercive measure ヲ考ヘ居ルモ終ニ二名案ヲ發見スルヲ得サル処先ツ斯ル強力手段トシテ

第一ニ考ヘラルルハ封鎖ナルカ南軍ノ勢力範圍内ニ於テ長江一帶広東ノ港灣ヲ封鎖スルモ支那側ニ於テハ差迄苦痛ヲ感セサルヘク最モ苦シムヘキ一般國民ト雖從來ノ例ニ徵トシテモ先年支那ノ内乱ニ際シ我方ニ於テ漢口ニ一大隊ヲ派遣シ結局長期ニ亘リ駐屯セシムルニ至リタルカ此際ニモ支那側ニ於テハ之ニ對抗シ我方ヨリ遙ニ多数ノ兵力ヲ集中シ得タルニ反シ我方ニ於テハ遠隔ノ地点ナル關係上之カ援護後方連絡ノ為ニハ敵ノ集中セル兵力ニ応シテ又大兵ヲ後方ニ準備シ置クノ要アリ旁々大ニ苦心シタル經驗アリ今回仮ニ列國ノ兵力ヲ以テ兵要地点ヲ占領スルトモ支那側ハ列國ノ兵力大ナリト見レハ奧地ニ回避シ小ナリト見レハ虛ニ乘シテ之ヲ襲撃スヘク列國トシテハ此事態ニ對シテ相當長期ニ互リ兵力ヲ駐屯セシムルノ已ムヲ得サルニ至ルヘク然モ之カ援護ノ為ニハ屢々各地ニ兵力ヲ移動セシムルノ要アリ結局列國軍ハ奔命ニ疲レ目的ヲ達セスシテ自己ノ面目ヲ失墜スルカ如キ事態ニ陥ラサルカ

以上ノ諸点ニ就テハ自分ニ於テモ種々考慮ヲ回ラシタルモ何レモ有効ナル手段トハ考ヘ得ス而ノミナラス仮ニ何等カ有効ナル手段ヲ見出し之ヲ実行シ一時ハ國民政府又ハ國民軍力之カ為倒壊スルコトアリトスルモ排外暴動ノ巢窟タル共產派ノ暴民又ハ不規則ナル兵士等ハ何等痛痒ヲ感セス一時各方面ニ潛伏スルニ止マリ到底列國ノ兵力ニ依リ根絶シ

得サルコト明ニシテ却テ彼等ハ随所ニ於テ虚ニ乗シ外国人ニ対シ暴行ヲ逞シウスヘク無政府ノ危険ハ今日ヨリ一層大架釜且深刻ニ支那全国ニ瀾漫スヘキコト疑ヒヲ容レス終ニ收拾スヘカラサル事態ヲ現出スルモノト思考セラル其故ニ自分ハ今猶支那時局ノ收拾策トシテハ武力ニ抛ラス外交的平和的方法ヲ以テスルノ外ナシト考ヘ即前述ノ通蔣介石ノ如キ中心人物ヲ見出シ之ヲ押シ立テ支那人自ラヲシテ問題ヲ解決シ時局ヲ收拾セシムルノ外ナシト思考スル次第ナリト述ヘタルニ

英国大使ハ右ニ同感ノ意ヲ表シ進ンテ蔣介石其他国民軍中ノ穩健分子ニ対シ列国ニ於テ material support ヲ与フル等積極的ニ援助スルノ意ナキヤト尋ネタルニ付幣原大臣ハ武器資金ノ供給或ハ兵力援助ノ如キ所謂露骨ナル material support ヲ与フルハ却テ蔣ヲ仆ス結果ニ終ルノ虞アリ即チ蔣ハ之カ為彼等ノ部内ヨリ売国奴ノ非難ヲ受ケ其他蔣排斥ノ火ノ手ヲ揚ケシメ結果ハ却テ予期ニ反スルモノト思考セラルルヲ以テ列国カ露骨ニ手ヲ出スコト無ク支那人ヲシテ自ラ「イニシヤテイーヴ」ヲトリ時局ヲ收拾セシムルノ外ナシト述ヘタルニ

ニ互リ首肯シ得ヘキモノト信スト述ヘ辞去シタリ

昭和2年4月2日 幣原外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

蔣の自発的声明による南京事件解決のため共

同抗議提出延期方について

別電 四月二日付幣原外務大臣より在上海矢田総領事宛第一〇七号

蒋介石に対する南京事件解決交渉方訓電

本省 4月2日後発

※ 第一五八号

往電第一五四号ニ関シ

(欄外記入)  
此際可成蔣ノ自発的声明ニヨリ事件解決ヲ迅速且良好ニ導クコト可然トノ見地ヨリ更ニ上海総領事ニ対シ別電第一〇七号ノ通訓令シ置キタルニ付貴官至急關係列国代表者殊ニ

英米公使ニ右ノ次第ヲ往電第一五五号ノ趣旨ト併セテ懇説シ蔣力矢田ノ勧告ヲ容ルルヤ否ヤ即其誠意並決心ヲ披瀝セシムル為ニハ矢田兼本大臣宛第四〇四号(王寵惠ノ内話ノ如ク多少時日ヲ借シ遣ル必要モアリ)旁茲処数日間共同抗議提出延期可然旨懇談ヲ遂ケラレ結果当方及上海ヘ電報アリ

英国大使ハ然レトモ支那人自身ノ力ヲ以テ時局ヲ收拾スルコト能ハストセハ如何ニスヘキヤ即チ支那ニ於テ過激ナル共產主義カ全国ニ瀾漫セル場合ニハ如何ニスヘキヤト尋ネタルニ付

幣原大臣ハ自分ハ支那ノ国民政府其他ノ状況ヨリ見テ共產主義カ全国ニ行キ互ルモノトハ信セサレトモ仮ニ共產派ノ天下トナルモ二三年モ経過セハ外国人カ再ヒ居住貿易シ得サル程危険ナル状態トモ思考セス例ヘハ露国革命ノ際欧州列国ハ大ニ其ノ危険ヲ恐レタレトモ現ニ日本ハ数年前日露国交回復以來現在ニ於テハ此ノ共產主義ノ露国内ニ於テ何等危険ナク居住貿易企業ニ従事スルヲ得居ル実状ニ照シ支那ノ場合ニ於テモ同様ニシテ左程恐怖スヘキコトニモ非スト思考セラルル次第ナリ

要スルニ支那時局ノ帰趨カ何レニナルトモ列国ハ寧ロ之ヲ放任シテ隠忍其ノ結果ヲ俟ツノ外ナシト云ヒ得ヘク時局ニ焦慮スルノ余リ慎重ニ考慮スルニ於テハ「イムボツシブル」ナルコトヲ強ヒテ行ハムトスルハ政治家ノ採ルヘキ策ニ非スト述ヘタルニ

英国大使ハ幣原大臣ノ意見ニ対シテハ大体ニ於テ総テノ点

度シ

(欄外記入) 蔣ニ勧告ノ訓電ヲ指ス

(別電)

本省 4月2日後発

※ 第一〇七号

貴電第三九八号及合第四〇四号ニ関シ

(一) 蔣ニ於テハ既ニ責任ヲ以テ事件解決ノ底意アルモノノ如ク察セラルルモ此際矢張往電第九六号ノ趣旨ニ依リ彼ヲ激励シ其ノ決断ヲ促サルト同時ニ事態ノ紛糾ニ先チ速ニ蔣ニ於テ(イ)貴官指示ノ解決条件ノ原則即チ処罰、謝罪、賠償、保障ヲ実行スルノ決意アルコトヲ自発的ニ声明スルカ又ハ(ロ)貴官ニ言明ノ通全責任ヲ以テ事件解決ノ立前ニテ其解決条件ヲ定メムカ為關係国代表者ト共同調査ヲ行フニ躊躇セサルヘキコトヲ自発的ニ声明スルカ二者其一ニ依リ責任負担ニ關スル誠意ヲ披瀝スルコトノ切要ナル所以ヲ懇説セラレタシ

(二) 若シ其際蔣ニ於テ前記貴電第四〇四号第一項黄ノ私語ノ通り先ツ支那側ニ於テ三代表共同調査ノ必要アル旨ヲ主張

シタル時ハ貴官ハ之ニ対シ国民党ノ組織殊ニ蔣ノ立場ニ鑑ミ形式上ニテモ一応此ノ種調査ノ手續ヲ経ル要アルヘキハ我方ノ充分諒察スル所ナルモ本件ニ関スル責任ノ所在ニ付テハ事件当日森岡領事ニ対スル党代表ノ説明並程潜等ノ弁明ニ依ルモ殆ント明白ニシテ支那側ニ誠意アルニ於テハ之カ調査ハ容易ニ結了シ得ヘシ其ノ以外ニ損害額、処罰人員等ノ如キ解決ノ具体的細目ニ至リテハ何レノ途解決ノ原則大綱決定後支那側ト列国側トノ共同立会調査又ハ専門委員ノ交渉等ニ待ツヘク被害関係国側ノ参加ナクシテ予メ右三代表限リニ調査スルモ有益ナル結果アルヘシト思ハレス加右ノ右調査殊ニ斯ル細目調査ノ必要ニ藉口シテ時日ヲ遷延スルニ於テハ関係列国ニ於テ蔣ノ誠意ヲ疑ヒ遂ニ威圧の二要求ヲ提出シ蔣ノ立場一層苦境ニ陥ルヘキハ現ニ在北京列国公使會議ノ形勢ニ徴スルモ明ナリ就テハ右代表ノ調査ハ之ヲ単ニ事件ニ対スル責任所在ニ限定シ極メテ迅速ニ例ヘハ兩三日間ニ之ヲ遂行シタル上蔣ニ於テ直ニ列国ニ対シ前記(イ)(ロ)何レカノ自発的声明ヲ為シ以テ事件迅速解決ノ途ヲ講スルコト肝要ナル旨ヲ切実ニ勸告セラレタク而シテ

(三)蔣ニ於テ右(一)(二)何レカノ勸告ニ従フノ決意アルニ於テハ

※ 第四二二号

貴電第九六号ニ関シ

四月一日夜黄郛ヲ私宅ニ招キ御訓令ノ趣篤ト申聞ケタル処黄ハ御勸告ノ趣旨ハ先日貴下ノ伝言トシテ蔣ニ申聞ケタル処ト大体同様ナレトモ今回ハ特ニ外務大臣ノ厚意アル警告ナレハ慎重ニ取計フヘシトテ要領ヲ書取り明朝早速蔣ニ伝ヘ其ノ結果ヲ御知ラセスヘシトテ引取りタリ其際黄曰ク蔣ノ誠意アルヤ否ヤ早ヤ疑ハルル人ナカルヘク唯疑ハルルハ其実行能力ナルヘシ此ノ能力ニハ列国側ノ出様モ亦与ツテ力アルコトヲ忘ルヘカラス蔣ハ目下ノ急務トシテ断行スヘキニ問題アリ一、南京事件ノ至急解決ニ、上海ニ於ケル工人ノ武装解除是ナリ前者ハ軍規ニ照スモ犯人兵士ハ全部極刑ニ処スヘキモノナレハ報告入手次第断行スヘク賠償モ日仏ハ砲撃シ居ラサレハ簡單ニ片付クヘシ唯憂慮セラルルハ漢口ノ共產派トノ関係ナリ有体ニ申セハ第一回ノ正式抗議ハ国民政府ノ外務大臣タル陳友仁ニモ提出セラレ(極秘ナカラ軍艦テモ漢口ニ集メテ或ル威圧ヲ加ヘ貫ヘハ結構ナリ)実行ハ勿論蔣カ責任ヲ執ルナレトモ此形式ヲ執ラサル時ハ蔣カ如何ナル解決方法ヲ講スルモ彼等ハ良キ口実ヲ得

我方ハ芳沢公使ニ訓令シ列国ヲシテ其ノ共同要求提出ヲ蔣ノ右声明アル迄即チ必要ニ応シ数日間差控ヘシムルコトニ尽力スヘキ旨申添ヘラレ結果電報アリタシ

四將又蔣ニ於テハ或ハ英米軍艦ノ砲撃ニ顧ミ之等兩國ニ対シテハ日本ニ対スルト同様ノ措置ニ出テ難キ旨ヲ唱フルヤモ知レサル処英米ノ砲撃事件ハ共同調査ノ上別ニ適當処理スルコトヲ得ヘク何レニシテモ南京事件ハ関係列国ニ共通ノ性質ヲ有シ其ノ一國トノ解決ハ他ノ數國トノ解決ト互ニ牽連スル所アルヲ以テ我方トシテ単独ニ行動シ得サルノミナラス我方ノ共同措置加入ノ理由ハ在支公使宛往電第一五四号(四二〇文書)ノ如ク必要ニ応シ列国ノ要求緩和ノ為ノ機微ナル考量ニモ基クモノナルヲ以テ其ノ辺特ニ蔣ニ於テ考量ヲ加フル様可然勸説セラレタシ

428

昭和2年4月(2)日 在上海矢田總領事より 幣原外務大臣宛(電報)

蔣介石による南京事件の解決および上海労働者武装解除に関する黄郛の談話について

上海 4月2日後着 本省

テ蔣攻撃ノ火ノ手ヲ揚クヘシ殊ニ英米ノ砲撃ヲ誇大ニ宣伝シテ蔣ニ英米帝國主義ノ走狗等ノ悪名ヲ付スルハ有リ得ヘキコトナリ

後者工人ノ武装解除ハ之ヲ行フ時期方法特ニ注意ヲ要ス急遽断行セハ各所ニ軍隊トノ衝突ヲ惹起シ総工会ノ総罷工ノ命令下ルヘク折角平穩ニ帰シタル上海ヲ再ヒ不安ニ陥入レ蔣介石ニ治安維持ノ能力ナシト非難ヲ蒙ルヘシ云々

429

昭和2年4月2日 在上海矢田總領事より 幣原外務大臣宛(電報)

南京事件は南軍の所為なることおよび共産党との関連を蔣介石が田代参本支那課長に述べたことについて森岡領事報告

上海 4月2日後着 本省 4月3日前着

※ 第四二七号

森岡ヨリ左ノ通

上海發閣下宛電報第三八七号ニ関シ葛参謀署長カ本官ヲ見舞ヒタル際今回ノ掠奪暴行者カ南京ノ兵士ナリヤ將又其他ノ者ナリヤニ関シテハ充分調査スヘシ云々トノ逃口上ヲ述

ヘタルニ付本官ヨリ本件カ第二軍第六軍第四十軍ノ兵士ニシテ青天白日旗ヲ翳シ来リ掠奪暴行セル事実ハ一般遭難者ノ目撃シ居ル所ニ懸リ且組織的計画的排外行動ナルコトハ在南京最高幹部ニ於テモ否定セサル所ニシテ何等疑ヒナシト浴セ置キタルカ同日葛力根本少佐ヲ訪問シタル際ニモ傍ニ在リタル井上大尉ヨリ今回ノ掠奪暴行カ明瞭ニ南軍兵士ノ所為ナルコトハ各国被害者ノ親シク目撃セル所ニシテ今更兎角ノ逃口上ヲ述フルニ於テハ益々蔣介石ノ信用ヲ失墜セシメ列国ノ態度ヲ強硬ナラシムル外何等ノ利益無カルヘキヲ説キ蔣ノ為ニ計ルニ此ノ際進テ右ノ事実ヲ承認シ自発的ニ善後措置ヲ講スル方得策ナルヘシト個人的ニ勸告シタル趣ノ処昨一日目下当地出張中ナル参謀本部田代支那課長(内密ニ出張シタルモノナルニ付御含アリタシ)カ井上大尉ヲ伴ヒ蔣介石ヲ訪問シタルニ蔣ハ南京事件カ南軍ニヨリテ行ハレタル事並ニ之ト共產党トノ関係ニ関シテハ毫モ否認スル所ナク日本領事及在留民ニ対シ誠ニ氣ノ毒ノ至リナリト述ヘテ顔ヲ赤ラメ本件善後措置ニ関シテハ苦心ノ存スル所鮮カラサルヲ以テ深く追窮セラレサル様ニトノ口吻ヲ洩シタル由ナリ

アリ尚右実行ノ前ニ第一ニ為スヘキ事ハ工人ノ武装解除ヲ行フニアリ)

二、特ニ蔣ノ希望トシテ外務大臣ニ御願ヒシ度ハ南京事件ニ関スル抗議ハ日本ハ単独ニ行ハレ度事ナリ若シ右絶対ニ困難ナル事情有ラハ砲撃ニ参加セサリシ伊仏兩國ト共同ニ願ヒタシ仮令同一文句ニテモ苦シカラサルニ付英米ノモノト別々ニ行ハレタシ其ノ理由ハ(一)英国ニ対スル宣伝ハ強ク民衆ノ頭ニ浸潤シ居リ之ヲ一掃スル事容易ナラス日本カ若シ英国ト共同シテ強硬抗議ノ提出ヲ為ス事トナラハ民衆ハ直ニ日英ヲ同一視スルヲ以テ日本ヲ不利ノ地位ニ陥ラシムル虞有リ

三、蔣ノ腹ノ中ニ秘シ居ル考ハ土耳其古ノ例ニ倣ヒ仏國ノ力ニ依リ「ボロジン」ヲ放逐シタル「ケマルパシヤ」タラントスルニアリ從テ南京事件ニ付テモ日本カ砲撃ニ参加シ居ラサルヲ幸英米ト切離シ急速解決シ以テ日本ノ援助ヲ仰キ度希望ナリ現ニ共產党系ノ学生連合会総工会等カ南軍ノ暴行ニハ触レスシテ英帝國主義ノ惨虐ハ同胞二千余名ヲ死傷セシメ五百余戸ヲ破壊セシメタリト大々的ニ排英宣伝ヲ開始シツツアリ

430 昭和2年4月(3)日

在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件に対する抗議は日本単独にて行われ  
たき旨の蔣介石の希望について

上海 発  
本省 4月3日前着

※  
第四三〇号

往電第四二二二号ニ関シ

二日夜黄郛来訪蔣介石ノ回答ヲ齎ラセリ其ノ大要次ノ如シ一、日本政府ノ苦衷ト好意トハ好ク諒解シ衷心ヨリ感謝ニ堪ヘス御勸告ノ点(一)国民政府内部ノ肅正並ニ蔣ノ決心ハ既ニ確定シ居リ目下將領ヲ招集シテ熟議中ニテ準備整ヒ次第断行スヘシ其ノ期間ハ四五日ノ内ナルヘシ(二)南京事件ハ右肅正問題即チ共產派分離問題解決後直ニ実行ニ着手スヘシ(外務大臣ノ電報ニ記載セストノ固キ約束ニテ黄郛ハ其ノ計画ノ大要ヲ説明シタルカ右ニ依レハ目下上海ニ居ル中央執行委員五名中央監察委員十名ヲ以テ武漢派ニ対シ本部ヲ乗取リタル上共產党ヲ排斥セントスルニ

431 昭和2年4月3日

在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件に関し蔣の自発的声明発表はもはや  
困難なることおよび蔣の共產派弾圧状況報告  
について

上海 4月3日後発  
本省 4月4日前着

※  
第四四二号

往電第一〇七号ニ関シ

蔣介石ヲシテ御訓令(イ)ノ自発的声明ヲ為サシムル勸告ハ当初本官ヨリ蔣介石着滬ノ間際ニ黄郛ヲ通シテ為サントシタル時ナリシナラハ或ハ可能ナリシナルヘキモ既ニ蔣介石反(マ)対カ陳友仁及莫斯科(東方電)ト相呼応シテ南京事件ヲ逆用シ英国ノ大虐殺事件(脱)トシ蔣介石打倒ノ目的ヲ以テ大規模ノ宣伝運動ヲ開始シタル以上其矢先ニ蔣ヨリ自発的ニ英米ニ対シ謝罪、保障等ヲ声明スルコトハ即チ共產派ノ術策ニ陥ルモノニシテ蔣ヲ窮地ニ陥ルルハ当然ナレハ蔣ヲ打倒ス手段トシテハ最有効迅速ナル政策ナリト雖彼ヲ守リ

立テ行ク方針ヲ裏切ル次第ニシテ列国ニトリテ極メテ不利ナリト觀察セラレ

現ニ黄郛ニ対シ昨二日夜会見ノ際本官ヨリ右声明ニ言及シタル処黄ハ夫レハ今日トナリテハ到底六ヶ敷ト答ヘタルヲ以テ成否疑ハシキニ付三日黄ト会見ノ上(回)ノ案ニ就キ勸告ヲ試ムル心算ナリ

他方蔣等ノ為ス処ヲ見ルニ白崇禧ノ軍隊ハ着々共産系武装工人ノ整理ニ着手シ四月一日夜先ツ閩北ノ劇場ヲ占領シ居リタル約四十名ノ自称国民軍ヲ包囲シテ数名ノ死傷者ヲ生シタル後武装解除ヲ実行シ昨二日ニハ同時ニ四ヶ所ノ本部ヲ襲ヒテ小衝突ノ後五百余名ノ武装解除ヲ断行シ總テ此等ノ徒ヲ逮捕シ竜華本部ニ護送セシヲ以テ見レハ蔣力黄郛ヲ通シテ本官ニ伝達シタル処ハ只今迄ノ処着々実行サレツツアルモノト判断セサルヲ得ス又杭州ニ於ケル反共産派タル新工会ノ成立ハ黄郛ノ言ニ依レハ蔣ノ差金ニ基クモノナリトノコトニテモアリ本官ハ茲(三)日ノ模様ヲ見テ果シテ蔣ニ実行能力アリヤ否ヤノ疑問ヲ解決スルコト然ルヘキカト存ス

## 六 南 京 事 件

トハ異リ直ニ判明スヘク此等ハ責任者トシテ嚴罰ニ付スヘキ兵卒等ノ「アイデンティフィケーション」其他類似ノ問題ニ就テハ一応南京領事ノ意見ヲ徵スルコトトシテハ如何ト述ヘタルニ英國公使ハ直ニ賛成ノ意ヲ表シ南京領事ノ意見ヲ徵スル際關係領事ノ間ニ意見ノ交換ヲモ行フコトトシ度シト述ヘ米國公使モ之ニ同感ヲ表シタリ尚(一)ニ付英國公使ハ支那側ニ於テ要求条件ヲ承諾セサル場合ニ於ケル制裁ニ付テハ英國政府ニ於テハ目下考量中ナルカ尠クトモ制裁ノ主義ナリトモ速ニ各政府間ニ話ヲ纏ムルコト然ルヘキ旨本國政府ニ上申シ置キタルカ制裁ヲ加フル事丈ケハ各國ニ於テ異存ナカルヘシト述ヘタルニ付本使ハ日本政府ノ意見ニテハ要求条件ヲ提出スル事ヲ數日間延期シ且之ヲ提出シタル後制裁ヲ加フルヤ否ヤニ付テハ支那側ノ態度ヲ見極メタル後ニ決定シタリト言フニアリテ制裁ノ主義ニ付我方トシテ今直ニ同意スル事ハ困難ナリト述ヘ置キタリ

大体以上ノ次第ニテ四國公使ハ日本政府ニシテ今直ニ要求条件提出ニ同意セサル場合ニハ致方ナシト述ヘ彼我双方ノ間協定ヲ見ルニ至ラスシテ散会セリ

432 昭和2年4月4日

在中國芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

四國公使は南京事件要求条件提出延期に反対  
について

北京 4月4日後発  
本省 4月4日後着

※三四一號

貴電第一五八號ニ関シ

四月四日四國公使ヲ招キ右貴電及上海宛貴電第一〇七號ニ基キ詳細説明ノ上懇談ヲ遂ケタル処四國公使共日本政府ノ意見ニハ遺憾ナラ同意シ兼ヌル旨ヲ述ヘ(一)英米兩國公使ハ要求条件提出ノ遅延ハ甚ク面白カラス一日遅ルルコトハ夫レ丈ケ我々ニ不利益ナリト述ヘ(二)伊兩公使共ニ賛意ヲ表シタリ(三)英國公使ハ列國及支那側ノ共同調査ハ交渉ヲ徒ラニ遷延セシムルノ虞アリト述ヘ他ノ三公使モ之ヲ首肯シタルカ本使ハ本使ノ見ル所ヲ以テスレハ多數暴行兵ノ(脱)ヲ為シ何レカ発砲シタリ等ノ事実ヲ今日ニ至リ之ヲ確カ(脱)ヲ一々「アイデンティファイ」スルコトハ我々外國側トシテハ頗ル困難ナリト思ハルルカ南京共産黨支部長及暴行兵ノ直接上長官等ハ兵卒ノ「アイデンティフィケーション」

433 昭和2年4月4日

幣原外務大臣  
テイリー英國大使 會談

蔣介石が列國側の南京事件要求条件を容認し  
ない場合の制裁手段に關し日本の立場表明に  
ついて

※南京事件ニ関シ在本邦英國大使幣原大臣會談要領

昭和二年四月四日在本邦英國大使幣原大臣ヲ來訪南京事件ニ関シ去ル二日貴大臣ヨリ御話アリタル次第ハ自分モ同感ニシテ早速本國政府ニ電報シ置キタルカ蔣介石カ列國側ノ要求条件ヲ容レサル場合列國側ニ於テ執ルヘキ手段ニ関シ貴大臣ニ於テモ日英ノ間ニ意見ヲ鬭ハス事丈ハ御異存ナキモノト思考スト述ヘタルニ依リ

幣原大臣ハ右ハ勿論自分トシテモ異存ナキモ唯タ自分ハ如何ナル手段ヲ取ルヘキヤニ付何等ノ名案モ浮ハサル次第ニテ実ハ其ノ後海軍大臣ニ相談シタルモ同大臣ニ於テモ同様何等ノ妙案ヲ有セサル訳ナルカ聞ク所ニ依レハ英本國政府ニ於テハ制裁手段ニ関シ陸海軍ノ間ニ協議シ在上海「チリット」提督ノ意見ヲモ徵シ何等成案ヲ得ラレムトスルヤノ趣ナル処自分ハ英國政府カ日本政府ヨリモ豊富ナル考案ヲ有セラレムコトヲ希望スルモノナリ唯タ茲ニ御注意ヲ請ヒ

度ハ

一、日本ト支那トノ間ノ貿易額ハ日本ノ全貿易額ノ重要ナル部分ヲ占メ居ルコトニテ英支間ノ貿易モ勿論重要ナルニハ相違ナキモ其ノ英國ノ全貿易額ニ対スル比率ハ日支間ノ貿易ノ日本ノ全貿易額ニ対スル比率ノ如ク重大ナラス從テ我國トシテハ長期ニ互リテ此ノ重要ナル貿易關係ヲ阻止セラルルハ極メテ苦痛トスル所ナルコト並  
二、之ヲ政治上ノ大局ヨリ見ルニ日本ハ支那人ヨリ深怨長恨ヲ受クルハ頗ル忍ヒ難キ地位ニ在ルコト  
ニシテ此ノ二ツノ点ハ英國側ニ於テ充分考慮ニ入レラレムコトヲ希望スト答ヘタルニ  
英大使ハ其ノ点ハ自分ノ充分諒解シ得ル所ナリト述ヘ辭去シタリ

434 昭和2年4月4日

幣原外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

列国の意見纏まり次第南京事件に関する抗議を上海および漢口に於て同時に提出方について

本省 4月4日後發

435 昭和2年4月5日

在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件要求条件提出に関する四国公使との

会談報告

別電一

四月五日付在中国芳沢公使より幣原外務大臣宛第三五八号

二

漢口政府に提出すべき要求条件案  
四月五日付在中国芳沢公使より幣原外務大臣宛第三五九号

第一六五号

(四二五文書)

一、貴電第三三二二号ニ関シ貴官ノ措置機宜ニ適シ英國公使ヲ初メ各国代表共ニ「タイムリミット」ヲ削除セル我方修正案ニ異議ナキ趣ナルハ当方ノ欣幸トスル所ナリ尚貴電第三三三三三号本件要求条件ヲ同時ニ陳友仁ニ通告スルコトハ在上海總領事發本大臣宛電報第四二二二二号中段及漢口總領事來電第一七五号(一)ニ徴シ蔣ノ漢口共產派ニ対スル機微ナル關係ヲ考量スルニ解決促進上却テ好都合ト思考セラル尤モ右蔣ノ立場ヲ考慮シ且列国側トシテモ蔣個人ニ対シテニ非スシテ國民軍全体ノ責任ヲ問フ立前ヲ持スルコト將來ノ為ニモ肝要ナルヘキニ顧ミ貴電第三一〇〇号 B unless / 次ノ he ハ之ヲ the Nationalist Army ト修正スルコト極メテ必要ニシテ右修正ハ往電第一五四号中ニモ申進シ置キタルモ發電ノ際脱漏セル次第ニ付此ノ際可然御取計アリ度右修正ノ上ハ貴電第三一〇〇号 A 要求条件ノミナラス同電 B ノ事項モ同様漢口各領事ヨリ國民政府ニ申入レシメ置クコト可然  
(四三〇文書)  
二、尚上海總領事來電第四三〇〇号ニ依レハ蔣ニ於テハ非常手段ニ出テタル後責任ヲ以テ解決ニ当ラムトスル決心ナ

蒋介石に提出案文

北京 4月5日後發  
本省 4月6日後着

※三五七号

(四三四文書)

貴電第一六五号ニ関シ

四月五日四国公使ヲ招キ列国ノ意見纏リタル上ハ上海及漢口ニ於テ時機ヲ逸セス要求提出方日本政府ノ訓電ニ接シタリト披露シタル処各公使共満足ノ意ヲ表シ同時ニ英國公使ハ本国政府ノ電訓ニ依レハ日米仏伊四ヶ国駐劄同国大使ニ訓令シテ(一)制裁ノ主義(二)要求条件ハ漢口政府ヲ主トシテ提出シ同時ニ蔣介石ニモ提出スル事(三)制裁ノ細目ニ付テハ各領海軍官憲ト共同作成スル事三件ニ付右四国政府ニ交渉中ニテ且交渉ノ結果右四国政府ヨリ夫々在支公使ニ電訓ノ事ト信スル旨ヲ述ヘ且漢口政府ニ主トシテ要求条件ヲ提出スルハ蔣介石ノ地位ヲ薄弱ナラシメサル方然ルヘシトノ日本政府ノ意見ヲ考量シタル結果ナリト付言シタルニ付本使ハ日本政府ハ蔣介石ノ地位ヲ薄弱ナラシムル事ハ大局上不得策ナリトナスカ為數日間要求条件ノ提出方ノ見合ハセテ提議シタルモ条件提出ノ相手方ヲ主トシテ漢口政府トシタシ

トノ趣意トハ了解スル能ハス且要求条件提出ノ時機モ只今披露シタル通列国ノ意見纏マリタル上ハ今日ニテモ提出シテ可ナル次第ナリ本使一己ノ意見ニテハ漢口政府ヲ主タル相手方ト為ス事ハ果シテ得策ナリヤ多少疑無キ能ハスト説明シ置キタルカ元来英国公使ハ最初ヨリ漢口ヲ主トスル希望ナルヤニ見受ケラレタルニ付漢口ヲ主トスル英国政府ノ考案ハ或ハ同公使ノ提議ニ基クモノナルヤモ計リ難キ処今回ノ要求条件ハ一種ノ最後通牒トモ看做シ得ヘキモ支那側ノ出様如何ニ依リテハ其ノ駁論ヲ聞取ル事トナルヘク從テ文句ノ多キ漢口政府ヲ主タル相手方トナスコトハ如何カト思ハル殊ニ蔣介石トハ既ニ多少ノ諒解モ付キ居ル次第ニテ之ヲ基礎トシテ交渉スルコトハ事件ノ解決上便利多キヤニ思考セラル尤モ既ニ英国大使ヨリ閣下ニ申込済ト思ハルルニ付此ノ辺モ亦疾ク御考慮ニ上リ居ルコトト存セラルルニ付何分ノ御意見御電訓アリタク帝國政府ニ於テ若シ英國大使ノ提議ニ同意セラレ他ノ各關係国ニ於テモ同様英國政府ノ提議ニ同意シ其ノ結果各政府ノ電訓当地ニ出揃フニ於テハ始メテ要求条件ノ確定ヲ見ルニ至ル次第ナリ尚本日ノ會議ニ於テ前記英國政府ノ考案及要求条件ノ形式等ニ付研究

ヲ重ネタル結果漢口政府及蔣介石ノ兩者ニ提出スヘキ案文ヲ別電第三五八号及第三五九号ノ通り夫々協定シ且ツ形式ハ individual memorandum ト為シ漢口及上海トモ各國總領事打揃ヒ支那側ヲ訪問シテ之ヲ交付スルコト並ニ交付ノ上ハ直ニ各地ニ於テ「ステートメント」ヲ発表スルコトトシ右起草方米国公使ニ於テ之ヲ引受ケ一兩日中ニ出来上ル筈ニ付其ノ節直ニ電報スヘシ  
以上諸点ノ中御承認ヲ要スル点ハ夫々御承認ヲ得タシ

(別電一)

Peking, April 5th p. m.  
Rec'd., April 6th p. m.

Gaimudajin, Tokio.

\*No. 358

Under the instructions of the ..... Government, I am directed by the ..... Minister to present to you the following terms (which are simultaneously being communicated to General Chiang-Kai-Shek, Commander-in-Chief of the Nationalist Armies) for the prompt

settlement of the situation created by the outrages against.....nationalists committed by Nationalist troops at Nanking on March 24th last :

(1) Adequate punishment of the Commanders of the troops responsible for the murders, personal injuries and indignities and material damage done ; as also of all persons found to be implicated.

(2) Apology in writing by Commander-in-Chief of the Nationalist army, including an expressed written undertaking to refrain from all forms of violence and agitation against foreign lives and property.

(3) Complete reparation for personal injuries and material damage done.

Unless the Nationalist authorities demonstrate to the satisfaction of the interested governments their intention to comply promptly with these terms, the said governments will find themselves compelled to take such measures as they consider appropriate.

Yoshizawa.

(別電二)

北京 4月5日後発  
本省 4月5日後着

\*No. 359

I am instructed by the ..... Minister to hand you the enclosed communication which is being made today to the Nationalist authorities at Hankow : —  
以下往電第三五八号ト同文

436 昭和2年4月5日 在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

英総領事が南京事件に対する日本の態度非難  
について

\*第四六七号

上海 4月5日後発  
本省 4月6日前着

往電第四一四号ニ関シ

四日英国総領事来訪南京事件ニ対スル日本政府ノ態度諒解ニ苦シム關係国国旗ノ前ニ蔣介石ヲシテ謝罪ノ「サリユウ」ヲ為サシムル件ノ如キ是非実行スヘキモノナリ若シ此

際列国共同シテ高压手段ヲ執ラムカ漢口租界事件ハ起ラサ  
リシナルヘシ等ト例ノ如キ硬論ヲ述ヘタルニ付可然応酬シ  
置キタルカ其際同総領事ハ新任交渉員来訪ノ節南京事件ニ  
就キ遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ同時ニ砲撃事件ニ就キ抗議ヲ  
留保スト述ヘタルニ付右陳謝ト抗議ハ両分出来ルモノト解  
スヘキヤ如何ト質問シタルニ分離スヘカラスト言ヘルニ付  
然ラハ陳謝モ受ケ難シト答ヘタリト語レリ猶英米兩國総領  
事トモ未タ蔣介石ト会见セサル趣ナリ

437 昭和2年4月5日

在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛

南京事件に関する森岡領事報告書送付について

て

別紙 南京事件真相に関する報告(森岡領事報告)

※公信第二七二号

昭和二年四月五日

在上海

総領事 矢田 七太郎

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

南京事件真相ニ関シ報告ノ件

貴電第一一七号ニ関シ森岡ヨリ左ノ通り  
南京事件ノ真相ニ関シテハ三月二十五日城内居留民全部ヲ  
取纏メ御真影ヲ奉シテ駆逐艦槍ニ避難スルニ当リ海軍無線  
ヲ以テ概要報告シ其後本官同二十八日上海到着ノ上矢田総  
領事ヲ介シ思付ノ諸点屢次電報済ミナル処今回ノ御申越ニ  
依リ別紙ノ通り報告書ヲ起草セルニ付海軍側トモ御協議ノ  
上適宜御取捨可然御公表相成度シ  
尚本官カ城内引揚ニ際シ海軍無線ニテ発送セル前記真相概  
要ニ関スル電報ハ本省ニ於テ二十六日公表セラレタル顛末  
ト対照スルニ兩者多大ノ懸隔アリテ当地拙電ハ未着ノ疑ア  
ルニ付為念別添一括郵報ス

(別紙)

南京事件真相ニ関スル報告(森岡領事報告)

南北兩軍交戦ニ関シ三月二十一日午後五時頃南京南門外邦  
里約一〇里ノ付近(秣陵関付近)ニ熾ニ銃声起リ直魯軍  
潰敗ノ形勢アリ其後引続キ間断ナク大砲、機関銃、小銃ノ  
響天地ヲ震撼シ党軍ノ入城ハ數日ヲ出テサルヘシト認メタ  
ルヲ以テ二十二日午後七時頃不取敢在留婦女子全部ヲ当館

件 率ノ下ニ兵員九名並通信兵一名ヲ当館ニ派遣シ翌二十三日  
夜ニ入り当館ハ前門ヲ鎖シテ内ニ土囊ヲ積ミ機関銃ヲ備付  
ケ兵員ハ小銃ヲ持テ武装シテ交代警戒シ居リタルカ元來南  
京ハ各国共居留民大多数城内ニ居住シ殊ニ日本商人ハ支那

街ニ散在セル者多キヲ以テ從來各国共事変勃発ノ際居留民  
保護上頗ル困難ヲ感シ特ニ下関ト城内トノ間ニハ堅固ナル  
城壁ヲ有スル為メ支那兵ノ戒嚴ヲ突破シ公然武装陸戦隊ヲ  
上陸セシムルハ殆ント不可能ノ事情アリテ先年当地領事団  
ヨリ支那当局ニ対シ有事ノ際外国居留民保護ノ為陸戦隊上  
陸ニ関シ黙認ヲ与ヘラレタキ旨内交渉ヲ試ミタル事アルモ  
一言ノ下ニ跳ネツケラレ其結果近年ハ各国側共形勢危急ノ  
兆ヲ認ムル場合ニハ成ル可ク早目ニ武装セサル少数ノ水兵  
ヲ各国領事館ニ上陸セシメ小銃ハ現ニ各国領事館ニ備付ケ  
ノモノヲ使用セシムルコトトシ更ニ領事館ノ安全カ脅カサ  
ルル虞アルニ到ラハ各国領事館軍艦側間ニ適當ノ方法ヲ以  
テ通信協議ノ上列国共同ノ陸戦隊ヲ組織シ城門ヲ破壊シテ  
城内ニ進入シ金陵大学、日本領事館、英国領事館ノ途順ニ  
テ各国居留民ヲ全部城外ニ撤退セシムルコトノ内約成立シ  
今回モ予テヨリ其趣旨ニ從ヒ各国文武官憲協議ノ結果第一  
着ニ日英在留民ハ日英領事館ニ米國在留民ハ金陵大学ニ避  
難セシメ其後ノ事ハ臨機応変ノ措置ヲ為スコトトナリ居リ  
タル処意外ニモ各国領事館共第一着ニ暴行掠奪ヲ蒙リ電話  
ハ壞サレ(当館ニハ早くヨリ内密ニ海軍無線ヲ取り寄セ居

リタルモ掠奪セラレタリ) 各国領事館相互ハ勿論海軍トノ通信連絡モ不可能ニ陥リ遂ニ今回ノ如キ一大惨劇ヲ演出スルニ至リタル次第ナリ翻テ事件當時ノ真相ヲ詳述スルニ二十四日午前五時半頃青天白日旗ヲ斃シタル南軍正規軍続々入城シ領事館前鼓樓付近ヲ経テ下関ニ向ヒタルカ本官ハ病床(約一ヶ月前ヨリ左足ノ動脈硬化症即脱疽ヲ病ミ歩行不可能ニテ妻及看護婦ノ看護ヲ受ケ居リタリ)ニ在リテ此報ニ接シ掠奪ハ多クノ場合敗兵ニ依リテ行ハルルモノナレハ已ニ直魯軍力敗退セル以上十中八九危険ハ去リタリト認メ得ヘキト同時ニ少数ナル水兵ヲ以テ幾千ノ支那兵ニ武力對抗ヲ為スコトハ絶対不可能ノコトニ属シ結局如何ナル事件起ルモ無抵抗主義ヲ取ルノ外ナキヲ以テ寧ロ党軍及民衆ノ敵愾心ヲ挑発セサルカ為早キニ及ンテ土囊及機關銃ハ撤去スル方有利ナリト考ヘ右撤去方荒木大尉ニ要求シタルニ大尉モ同感ニテ言下ニ之ヲ撤去シ同時ニ正門扉ヲ開キタリ然ルニ七時頃ニ至リ約三十名ノ党軍兵士当館ヲ訪レ山東軍ハ逃ケ込ミ居ラサルヤト尋ネタルニ付其場ニ居合セタル日本人ヨリ居ララスト答ヘタルニ從順シク引取リタルカ間モナク約五〇名ノ党軍正規兵カ正服正帽ニ小銃ヲ携ヘ疾風ノ如

ナレハ奪回スヘシ日英兩國ハ數年來上海ニ於テ支那人ヲ虐待シタリ等ノ標語ヲ叫ヒ発砲脅迫掠奪兇暴ノ限リヲ尽シ避難者ハ虎狼ニ襲ハレタル群羊ノ如ク四方八方ニ追ヒ廻サレ婦人ハ幾回トナク忍フヘカラサル身体検査ヲ受ケ叫喚悲鳴聞クニ忍ヒス本官ハ大病ニテ且足ノ自由ヲ失ヘル為難ヲ避クルコト能ハサルト本官ヲ以テ領事ト認メラレタル為メ執固ク銃先ニテ脅迫セラレ最後ニハ寝巻夜具迄ハキ取ラレタルモ妻カ終始傍ニ在リテ身ヲ以テ庇ヒ呉レタル為メ辛フシテ安全ヲ得三時間ノ久シキニ亘リ絶間ナク生命ノ迫害ヲ受ケ居リタル折柄偶々一人ノ兵士ニヨリ枕下ヨリ実弾ニ発ラ狙撃セラレタルカ幸ヒ本官ト妻トノ間ヲ抜ケ命中ヲ免レタリ當時本官ノ病室ニ避難シ居リタル數名ノ在留民ハ本官ハ已ニ殺害セラレタルモノト誤認シ室外ニ飛ヒ出シタルモ負傷セル署長ハ職責上飽ク迄本官ト運命ヲ共ニセントシ根本少佐ハ軍人トシテノ責任觀念ヨリ本官カ殺害セラレタル状況ヲ最後迄一人モ見届ケタル者ナシト在リテハ日本人ノ面目ニ関スルモノト考ヘ右兩名ハ本官妻ト共ニ飽迄病室ニ居殘リタル処形勢愈々危急ニシテ本官カ此上室内ニ止マレルニ於テハ木村、根本及妻ノ三人ヲモ結局犠牲ニ供スルニ到

ク当館事務所ニ押寄せ(避難民ハ大多数ヲ事務所二階及館員官舎ニ少数ヲ官邸ニ收容シ居リタリ)事務所館員官舎等各室ニ闖入シタルヲ以テ當時本官ノ傍ニアリタル木村署長ハ事態重大ト認メ直ニ事務所ニ驅ケ付ケ此処ハ日本領事館ナリト説明シテ兵士ノ暴行ヲ阻止セントシタル処早速捕ヘラレテ身体検査ヲ行ハレ所持品全部ヲ奪ハレタル上後横側ヨリ小銃ヲ狙撃セラレテ前腕部貫通傷ヲ蒙リ其儘本官病室ニ驅ケ戻リ又事務所ニ在リタル根本少佐並和田部長ハ風采ノ堂々タル所ヨリ暴兵ニ見込マレテ金庫ノ鍵ヲ出セト強ヒラレ鍵ハ持タヌト答ヘタルニ何レモ銃台ニテ腰部ヲ毆打セラレ此亦前後シテ本官病室ニ驅ケ来レリ此時ニ当リ兵士ノ一隊ハ事務所ヨリ官邸食堂ニ向テ実弾ヲ発射シ呼笛ヲ合図ニ官邸ヲ襲ヒ第一着ニ二階ノ本官病室ニ飛ヒ込ミ便服員ノ案内ニヨリ掠奪ヲ始メ爾來自動車、馬車、人力車等運搬具ヲ用意シテ続々構内ニ侵入シ来レル多數ノ暴兵(百五十名乃至二百名ノ見込)ト合シテ官邸、事務所、館員官舎、使用人室、物置等限ナク横行シ堂々青天白日旗(巻キ居タル為メ文字ヲ見ルコト得サリシ)ヲ携ヘ口々ニ日英帝國主義打破、華俄一家、日本人ノ財産ハ支那人ヨリ巻上ケタルモノ

ルヘキヲ恐レ不自由ノ身ヲ起シツツ「外ニ出ヤウ」ト叫ヒ窓ヲ押明ケベランダニ転ヒ出シタルカ其間髪ヲ出テスシテ暴兵一名入り来リ木村、根本ヲ銃劍ニテ刺シタル為メ兩人共ベランダニ飛ヒ出シ木村ハ巧ニ階下ニ逃レタルモ根本ハ階段口ニテ左右ヨリ暴兵ニ銃ヲ擬セラレタル為高サ三尺余ノ欄干ヲ飛超エ階下ニ落ちタル処幸ヒ下ニ貯水タンク(弾力性ノ「カバール」アリ)アリテ一命ヲ取り止メタリ之ヨリ先キ荒木大尉外兵員十名ハ軍装ナル為暴兵ノ敵愾心ヲ挑発シ反ツテ在留民ニ迷惑ヲ及ホスヘキヲ恐レ官邸北側ノ「ボーイ」室ニ避難シ居リタルカ在留民一同ハ飽迄陸戦隊ノ無抵抗主義ヲ懇請シ且正服正帽ノ儘在留民ト一緒ニ居ルコトハ一同ノ生命安全ノ為甚タ好マシカラサルヲ以テ氣ノ毒乍ラ各兵階級章及帽子ノ如キ標識ヲ一時取り去ラレ度旨本官ニ懇望シ来レルヲ以テ本官ハ已ニ絶対無抵抗主義ニ決シ加之在留民ノ生命カ風前ノ燈火ニモ比スヘキ時ニ当リ右ハ不得已ル要求ナリトナシ荒木大尉ニ協議シタル処大尉モ一同ノ要求ヲ諒トシ在留民安全ノ為ニ忍フヘカラサルヲ忍ヒテ其請ヲ容レタルハ本官及在留民一同ノ感謝ニ不堪ヘサル処ニシテ當時大尉ハ已ニ軍人トシテノ立場ヨリ心中自

殺ヲ決シ居タルモノト察セラル而モ兵士ノ暴行ハ停止スル  
処ヲ知ラス其内数百名ノ無頼漢モ押寄セテ掠奪品ノコボレ  
ヲ拾ヒ一物剩サス取リ尽シタル後或兵ハ自動車庫ヨリ「ガ  
ソリン」ヲ持出シ当館ニ放火スト揚言シタルヨリ一同八十  
一時頃官邸裏庭ニ集合シ一刻モ速ニ何トカ方法ヲ講シ外部  
ノ救助ヲ求ムヘク協議中ナリシカ本官夫妻ハ御真影擁護ノ  
責任上飽迄官邸ヲ下ラサル決心ヲ以テ最後迄楼上ニ止リ居  
リタルモ板坂民会長再三本官ノ許ニ来リ御真影ノ安全ニ関  
シテハ別ニ方法ヲ講スルコトトスヘク差当リ事急ナルヲ以  
テ不取敢裏庭ニ来ルヤウ懇請ノ次第アリタルヲ以テ本官モ  
遂ニ其勦ニ從ヒ階下ニ下リテ早速早崎書記生ヨリ御真影及  
電信符号ヲ収メタル金庫ノ鍵ヲ取り上ケ自ラ炊事場ノ煙突  
破損ノ箇所ヲ見付ケテ其中ニ匿シ一同ニ向ヒ事此処ニ至リ  
タル以上勉メテ冷静ノ態度ヲ持シ一致協力以テ海軍側トノ  
連絡ヲ図ルノ外ナク単独行動ハ甚タ危険ナルヲ以テ全部一  
ヶ所ニ集合スヘキ旨ヲ告ケ幾回トナク一同カ御真影奉安及  
電信符号ヲ収メタル金庫及公金約三千弗ヲ蔵シタル金庫ノ  
鍵ヲ出セト暴兵最後ノ脅迫ヲ受ケ居リタル矢先(官金入金  
庫ノ鍵ハ須藤書記生カ始メ金庫ニ差込ミ同時ニ安全符号ヲ

## 六 南 京 事 件

人ハ右ハ英国軍艦ヨリ砲撃セシモノナリト云ヒ荒木大尉ハ  
英米在留民カ大多数城内ニ残レル事情ヨリ察シ此際之ヲ犧  
牲ニ供シテ外国軍艦カ砲撃スルコトハアリ得ヘカラサルコ  
トト思ハレ多分直魯軍ノ退却援護砲撃ナルヘシトノ意見ナ  
リシモ段々時ヲ経ルニ從テ英米兩國ノ軍艦カ砲撃シツツア  
ルコト明瞭トナリ而モ其ノ一弾ハ当館後方田園ニ落下シタ  
ルヲ以テ官邸一室ニ集合シ居リタル一同ハ一難去テ又一難  
ノ境遇ニ置カレ万一本軍艦カ右砲撃ニ参加スルカ如キコ  
トアラハ城内在留日本人ハ全部惨殺ヲ免レサルヘシトテ一  
同ノ不安其極ニ達シタルヲ以テ本官ハ信用スヘキ支那人二  
名ヲ特使トシテ下関ニ遣ハシ吉田司令ニ本官ノ希望トシテ  
日本側カ砲撃ニ参加スヘシトハ絶対ニ信セラレサルモ何カ  
ノ行違ヒヨリ万一参加スルカ如キコトアラハ城内在留民ノ  
生命尽ク之カ犠牲ニ供セラルヘキヲ以テ斯ル武力的直行  
動ニ依ルコトナク飽迄蕪湖ニ在ル蔣介石ヲシテ在南京党軍  
幹部ニ動乱鎮定方訓電セシムル様取計ハレ度旨伝言シタル  
モ後ニ至リ右使者ハ我軍艦ニ其意ヲ伝ヘサリシ事判明セリ  
恐怖餓渴ノ中ニ一夜ハ明ケテ二十五日ノ朝ハ来レリ知ラス  
如何ナル方法ニヨリテ危険ヲ軍艦ニ通シ九死ニ一生ヲ求め

狂ハセ置キタル為掠奪ヲ免レタリ) 偶々第二軍党代表兼第  
二軍第六師政治部主任肅某(初メ本官ニ名刺ヲ渡シタルモ  
後ニ至リ師団長ノ注意ニ依リ後難ヲ避ケンカ為本官ヨリ之  
ヲ取り上ケタリ) 現場ニ駆付ケ党軍ノ方針ハ外僑ヲ保護ス  
ルニ在ル処先發軍隊中ノ不良分子カ斯ノ如キ暴行ヲ為シタ  
ルハ誠ニ申訳ナク特ニ同文同種ノ日本領事館ニ対シスノ如  
キ不祥事ヲ惹起シタルハ遺憾ノ至リニ不堪暴兵ハ第二軍及  
第六軍ノ所属ナルカ即時嚴重取締ヲ為スヘキニ付安心アリ  
度シト述ヘ同時ニ護衛兵四名ヲ連レ来リ間モナク更ニ第二  
軍第六師長戴某モ現場ニ来リ遺憾ノ意ヲ表シツツ兩人連名  
ヲ以テ「外僑住所不准入内如有侵犯立予槍決師長印党代表  
印」ノ告示数枚ヲ鉛筆ニテ当館用紙ニ書キ付ケ本官ニ交付  
シタルヲ以テ本官ハ館員ヲシテ前後側ノ三門ニ貼リ付ケ残  
余ハ証拠品トシテ早崎書記生ニ保管ヲ托シタリ

右ノ結果大体平穩ニ帰シタルモ付近ノ金陵大学ハ着々掠奪  
ヲ受ケ城内邦人店舗モ掠奪最中ナリシ為一同尚不安ノ念ヲ  
免レス憂色ヲ堪ヘツツ使用人ノ好意ニ依リ支那饅頭及茶ヲ  
取り寄セ餓渴ヲ医シ居リタル折柄午後四時ト思ハル頃下  
関ヨリ城内ニ向ケ五分間置位ニ砲声ヲ聞キタルカ水兵ノ一

ントスルカ一同鳩首協議スルモ妙案ヲ得ス当惑シツツア  
リタル矢先午前十時頃ト思ハル頃第二十四驅逐隊司令吉  
田海軍中佐ハ杉浦大尉以下士卒及通訳数名ヲ從ヘ決死隊ヲ  
組織シテ当館ニ乘リ込ミ一同無事ナルコトヲ見テ感極ツテ  
固ク本官ノ手ヲ握リ双眼熱涙ヲ浮ヘテ一同無事カト絶叫シ  
避難者一同狂喜感激シテ天使ヲ迎フルカ如ク期セスシテ天  
皇陛下万歳ヲ三唱シ奉レリ其時司令ハ來館途中使者ヨリ受  
取りタル程潜発本官宛書面ヲ齎シ文面ニハ治安ノ維持ニ関  
シテハ目下応急手段ヲ講シツツアレハ日本海軍ニ於テハ砲  
撃スルコトナカランコトヲ希望ストノ意味ヲ認メアリタル  
カ當時尚城内在留民側ノ掠奪ハ依然繼續セラレ居リタルヲ  
以テ不取敢吉田司令ニ浅賀書記生ヲ付シ午前十一時頃自動  
車ニテ当館出発程潜ヲ訪問セシメ本官ハ病氣ニテ親シク訪  
問スルコト能ハサル旨ヲ告ケ且ツ速ニ邦人ノ保護ニ関シ最  
善ノ努力ヲ尽サレ度旨告ケシメタルカ午後二時頃吉田司令  
及浅賀ハ第六軍第十七師長楊杰ヲ伴ヒ来リ楊ハ避難民一同  
ノ面前ニ於テ日本語ヲ以テ本官ニ対シ今回ノ出来事ハ誠ニ  
遺憾トスル所ニシテ右ハ決シテ党軍幹部ノ意思ニハアラス  
一部ノ軍隊内部ノ不良分子ト南京共產支部員カ通謀シテ仕

組タル仕事ナレハ暮々モ御寛恕願度ク党支部ハ已ニ解散ヲ命シ尚善後措置ニ関シテハ誠意ヲ以テ交渉ニ応スヘキコトトナルヘキニ付日本側トシテハ飽ク迄寛大ノ態度ヲ以テ本件ヲ処理セラレタシト申出テ同時ニ当館員ノ案内ニ依リ被害実況ヲ限ク視察シタルト同時ニ本官ノ請ヲ容レ御真影奉安並ニ電信暗号ヲ収メタル金庫及官金ヲ収メタル金庫ヲ我カ手ニ依リテ破壊シ内容ヲ持出スコトヲ承認シ(之ヨリ先護衛兵等ハ武力ヲ以テ我水兵カ右金庫ヲ破壊スルヲ妨害シ居リタリ)且領事館並在留民引揚用トシテ司令部用自動車三台ヲ提供シ且護衛兵一小隊ヲ派遣シクレタリ之ヨリ先第四十軍ノ憲兵隊長賀某正午頃本官ヲ來訪シ遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ今回ノ先鋒隊ハ魯滌平ノ第二軍程潛ノ第六軍及賀耀組ノ第四十軍ヨリ選抜編成シタルモノニシテ第二軍ノ兵士ハ紅藍色分ノ「リボン」ヲ腕ニ纏ヒ第六軍ノ兵士ハ同「リボン」ヲ立ネクタイ結トナシ第四十軍ノ兵士ハ頸ニ巻キ付ケ居ルモノナルカ日本領事館ニ襲來シタル兵士ノ中何レカ多ク其ノ何レカ少ナカリシヤヲ本官並ニ避難民一同及居合セタル使用支那人ニ尋ネ結局本官ヨリ一同ノ記憶ヲ綜合シテ第二軍及第六軍ノ兵士カ大多数ニシテ第四十軍ノ兵

士ハ極ク少数ナリシ旨ヲ告ケ同時ニ本官妻カ本官病室ニ於テ拾ヒ拳ケ保存シ居リタル暴兵遺失ノ帽子一個(中ニ姓名ヲ記シ又別ニ他ノ兵士ノ名刺一枚ト孫文ノ写真及ヒ遺訓トヲ印刷セル紙片ヲ差シ挟ミアリタリ目下淺賀書記生保存ス)ヲ示シタル処詳細手帳ニ書付ケ引取りタリ午後四時頃ニ到リ自動車一台ヲ用意シ杉浦海軍大尉和田巡查部長及水兵一名ニ御真影(機密書類ヲモ含ム)ヲ托シ四時五十分無事軍艦檣ニ奉安シ次テ五時頃国旗ヲ卸シ公信類ヲ焼キ捨テ暴兵カ門外ニ打捨テ置キタル自動車ヲ取返シテ車庫ニ収メ官邸応接室ニ半壊トナリ居タルピアノヲモ残シテ後ノ取締ヲ支那軍警ニ托シ一同馬車或ハ自動車ニテ領事館ヲ引揚ケ(此時金陵大学ニ集合シアリタル米人百數十名モ赤十字及紅卍字会ノ援助ニヨリ軍艦ニ引揚ケヲ開始セルヲ見タリ)二里ノ道程ヲ無事通過シテ軍艦ニ向ヘリ下関在留民一同ハ之ヨリ先ニ已ニ軍艦ニ避難シ城内ニ於ケル在留民中二十三日晚領事館ニ避難洩レノモノモ二十四日ヨリ二十五日午前ニ互リ全部領事館ニ集リ一同洩レナク安全ニ撤退シタルカ午後六時四十五分迄ニ驅逐艦檣、桃、浜風ニ收容セラレタリ南京避難民總數ハ百三十一名ニシテ旅行者ヲ合スレハ百

三十五名トナリ書記生巡查計六名ヲ除ク以外ハ本官引率ノ下ニ翌々二十七日午前一時軍艦天竜ニテ南京発二十八日午後四時上海ニ着シ領事館員ノ一部及館員家族全部ハ上海總領事館ニ在留民ハ東西両本願寺ニ收容セラレ

第一六八号(極秘) 本省 4月6日後發

下関方面ノ状態並ニ後藤機関兵流弾ニテ斃レタル顛末ニ関シテハ事主トシテ海軍ニ関シ且正確ナル報告ハ既ニ海軍省ヘ到着セルコトト思ハルルニ付委細ハ同省ニ就キ御承知ノ上公表ノ御必要ニ依リテハ可然御追加ヲ乞フ

尚外国人側ノ被害ハ既報(英米艦長報告ニ依ル)ノ通ナルカ英國總領事館ハ本官等引揚途中瞥見セル処ニ依レハ支那軍隊ノ屯所トナリ居リ又最近南京ニ立寄リテ來滬セル日本人旅行者ノ談ニ依レハ米國領事館モ兵舎トナリ日本領事館ハ閉門ノ儘軍警ニ依リ監視保護セラレ居ルモ日本人小学校及ヒ須藤醫院ハ軍隊ノ屯所ニ充テラレ居ルトノ事ナリ

今回ノ掠奪暴動ハ外国人ノミヲ目標トシテ行ハレタルモノニシテ支那人側ニハ被害ナシ

南京事件解決方法トシテ強制手段ノ効果に

(一)支那側ニ対スル要求貫徹ノ強制手段トシテ考ヘ得ルモノハ(イ)封鎖(ロ)砲撃(ハ)軍事占領等ナル処斯ノ如キ手段カ果シテ如何ナル程度ニ有効ナリヤ頗ル疑問ニ屬ス(ニ)南軍ノ勢力範圍内ニ於テ何レノ港ヲ封鎖スルモ之カ為原始的の自給自足ノ支那國民ニ對シ其ノ經濟的生存ヲ脅威スルカ如キ適切ノ効果ヲ期シ難ク以テ國民政府ノ共產分子ヲ屈服スルニ足ラスシテ却テ最大ノ打撃ヲ蒙ルモノハ在支外國人及各国ノ商工業者ナルヘシ(ロ)次ニ砲撃ハ相手方ノ死命ヲ

六 南 京 事 件

438

昭和2年4月6日

幣原外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

南京事件解決方法としての強制手段の効果に

制シ得ル枢要地点ヲ目標トスルヲ要スル処支那ノ現状ニ於テ大動脈ニ当ルヘキ地点存在セス小動脈ニ比スヘキ地点ハ到ル処ニ散在スルモ之ニ対スル砲撃ハ相手方ニ致命傷ヲ与ヘスシテ徒ラニ無辜ノ人民ヲ殺傷シ有害無益ニ了ルノ虞アリ(ハ)最後ニ軍事占領ニ就テモ砲撃ノ場合ト同様ニシテ仮ニ比較的枢要地点ヲ占領スルトモ支那側ニテハ列國ノ兵力大ナリト見レハ暫ク消極的抵抗ヲ繼續スルニ止メ一旦機会アラハ急ニ数倍ノ兵ヲ集中シテ積極的抵抗ニ転セムコトヲ試ムヘク結局軍事占領ハ支那ニ屈服ヲ強フルノ動機トナラスシテ却テ占領軍隊ニ絶エス不安ノ原因ヲ与フヘシ往年日本ハ尼港事件解決ノ保障トシテ薩哈噠ヲ占領シタルカ為重大ナル困難ヲ經驗セリ今又支那ニ於テ軍事占領ヲ試ムルカ如キコトアラハ其ノ困難ハ薩哈噠ノ場合ニ幾倍スヘキヤヲ知ラス

(二)仮ニ武力使用ノ結果国民政府又ハ国民軍ヲ撃破シ得タリトスルモ排外暴動ノ巢窟タル国民党左傾分子殊ニ共產派ヲ永ク弾圧シ得サルハ明ニシテ彼等ハ随所虚ニ乘シテ出沒シ排外暴行ヲ逞フシ列國軍ヲシテ奔命ニ疲ラシムルノミナラス無政府状態ノ危険ノ為外國国民安住ノ時期ハ容易

439

昭和2年4月6日

幣原外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

南京事件に關し中国側の自発的声明と解決交渉開始後の共同立会調査について

本省 4月6日後発

※  
第一七〇号

貴電第三四一号ニ関シ

係係国公使ニ於テハ矢田宛往電第一〇七号(即チ共同抗議

(四三二文書)

ニ先チ支那側ヲシテ自発的ニ為サシメムトスル声明ノ内容ト事件交渉開始後實際起ルヘキ共同立会調査ノ問題ヲ混同セルヤニ見受ケラルル処当方ノ真意ハ支那側ニ於テ何等カノ形式ニテ全責任ヲ負フコトヲ声明セシメタル後交渉ヲ開始シ右責任履行ノ具体的条件ヲ定ムル為ニハ何レノ途共同調査ヲ行ハサルヲ得サルヘシトスルニ在リタリ交渉ノ順序ニ就テハ往電第一五二号ノ通ニシテ当方ニ於テハ共同調査ヲ責任負担ノ先決問題トスルノ趣旨ニアラス尤モ往電第一六五号ノ通最早支那側ノ自発的声明ヲ必要トセス列國ノ主張ノ通速ニ抗議提出ヲ希望スルモノナルヲ以テ今更右往電

ニ到来セサルヘク事態終ニ收拾スヘカラサルニ至ルヘシ曩ニ西北利亞出兵ノ際ニ於ケル「バルチザン」ノ跳梁ニ似タル事態ハ支那ニ於テハ一層大規模ニ且深刻ニ行ハルヘキヲ覚悟スルヲ要ス

(三)將又日本トシテハ武力使用ノ影響日支貿易カ長期ニ互リテ阻害セラルルハ英米ノ如ク対支貿易カ全貿易ノ一小部分ニ過キサル外國ト異リ到底堪ヘ得サル所ニシテ更ニ之ヲ政治上ノ大局ヨリスルモ単ニ支那政界ノ一派ノミナラス国民全体ヨリ長ク怨恨ヲ招クカ如キ行動ハ極東永遠ノ平和ノ為努メテ之ヲ避ケサルヘカラス

(四)如上ノ見地ニ基ツキ南京事件並一般時局ニ付テモ列國トシテハ及フ限り支那ノ健全分子ニ之カ解決ノ機会ヲ与ヘ百方外交的手段ヲ尽シテ慎重ニ目的ノ貫徹ヲ期スヘク殊ニ有効ナル強制手段ナクシテ蔣介石其ノ他比較的健全分子ノ領袖ニ対シ俄ニ最後通牒ニ類スル措置ヲ執ルニ於テハ偶々彼等ノ没落ヲ早ムルカ然ラサレハ列國ノ威信ヲ損スルヲ免レサルヘシ南京事件其ノ他当面問題ノ解決ニ急ニシテ其ノ行動ニ伴フ永遠ノ結果ヲ輕ンスルカ如キハ極メテ危険ナルヲ憂ヘサルヲ得ス

第一〇七号(四)ノ問題ハ存セサル次第ナルモ今後交渉上ノ御含迄

440 昭和2年4月6日

在漢口高尾総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件に關する抗議は単独抗議の形式に改むるべき旨意見申について

漢口 4月6日後発  
本省 4月7日前着

※  
第一八五号

大臣発公使宛電報第一六五号(六日午後接到)ニ依レハ帝

國政府ハ南京事件ニ関シ愈々共同抗議提出ニ決セラレタル

ヤニ認メラルルトコロ斯クテハ只ニ当方面ノ事態ヲ悪化セシムルノミナラス共同抗議ハ当然突返サルルコト往電第一八二号報告ノ通ニシテ惹テハ交渉ヲ断絶セシメ更ニ又当地事變ノ解決ヲモ困難ナラシムルニ至ルヘシ既ニ漢口事件ノ發生セル今日英米ト事情ヲ異ニセル我方トシテハ単独抗議ノ形式トナシ(協調ヲ破ル意ニアラス)以テ交渉ノ決裂ヲ避クルコト然ルヘキカト存ス御再考ヲ請フ

441 昭和2年4月7日 幣原外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

英国の新提案に関し各国公使と協議方につ  
て

別電 四月六日付幣原外務大臣より在中国芳沢公使宛

第一七三号

在本邦英国大使持参の新提案

本省 4月7日後発

※  
第一七五号

一、六日在本邦英国大使来訪別電第一七三号ノ文案ヲ手交シ蔣介石ノ手ニ依リテ時局收拾ノ望アル限リ彼ヲ屈辱的地位ニ陥レ其没落ヲ早ムルカ如キ措置ハ之ヲ避クルヲ得策トストノ日本政府ノ意見ハ英国政府ノ充分了解スル所ナリ就テハ列国ノ要求ハ先ツ之ヲ国民政府ニ宛テ提出シ蔣介石ニハ同文ヲ通告スルノ形式トスルコトトシタシト云ヘルニ付本大臣ハ本件通牒ノ順序ニ付テハ既ニ在北京関係国代表者会議ニ於テ其ノ得失ヲ審議セル結果先ツ蔣ニ要求ヲ提出シ陳ニハ其旨ヲ同時ニ通告スルヲ得策トスルコトニ議纏リタルモノニシテ現ニ右別電文案ニ依ルモ条件ニ於テ国民軍総司令ノ謝罪ヲ求ムルコトトナリ居

総領事来電<sup>(四三〇文書)</sup>第四三〇号及第四六九号ノ関係ヲ考慮スルニ

英国文案通り「アイデンティック・ノート」トスルコト好マシト思考スルニ付右ノ含ニテ可然措置アリ度

三、転シテ英大使ハ制裁ノ問題ニ関シ去ル四日本大臣ノ内話ノ次第ハ日本ハ主義トシテ制裁ヲ加フルニ異議ナキモ其ノ制裁ノ方法ハ別ニ考量ヲ要ストセラルル意ナリヤト尋ネタルニ付本大臣ハ単ニ制裁方法ニ有効適切ナルモノアルヲ想像シ得サルノミナラス制裁ノ実行カ列国永遠ノ利害ニ及ホス影響ニ顧ミ遽ニ決定シ得ヘキ問題ニ非スト答ヘ置ケリ

(別電)

本省 4月6日後発

※  
第一七三号 別電

英国文案ハ

六 南京事件  
件  
(一)第一項トシテ貴電<sup>(四一五文書)</sup>第三三三三号括弧内 which are also being addressed ヲ which are simultaneously being communicated to the Nationalist Armies of Nationalist Army ト改メタルモノヲ置キ

レルコトヲ指摘シタルニ英大使ハ右順序ノ変更ハ寧ロ日本政府ノ趣旨ニ一層能ク適合スヘシトノ見地ヨリ提議セル次第ナルカ英国政府ニ於テハ強ク之ヲ主張スルノ意向ニ非スト察スル旨ヲ述ヘタルニ付本大臣ハ兎ニ角在支公使ニ右英国ノ新提案ヲ電報シ更ニ関係国同僚ト協議セシムル様取計フヘシト答ヘ置ケリ元來本件交渉ノ権限ニ付国民政府ト蔣介石トノ関係ハ外部ヨリ憶断シ得ヘキ限ニアラサルノミナラス国民政府ト云ヒ国民軍総司令ト云ヒ孰レモ列国ノ公然承認セルモノニアラサルニ付右通牒ノ宛名ニ関シテモ其ノ孰レニ重キヲ置クヤヲ判然明示スルカ如キ形式ヲ避ケ双方ヘ同時ニ且同一ノ形式ニテ提出スル方得策ト思考セラルル尤モ此ノ問題ニ付関係国間ニ議論分レ通牒提出ノ遅延スルハ面白カラサルヲ以テ貴官ノ裁量ニヨリ関係国公使トノ間ニ速ニ適宜協定セラレ差支ナシ

二、次ニ本大臣ヨリ英国文案ニヨレハ本件要求ハ蔣宛ノ分モ陳宛ト同様「ジョイント・ノート」ニ非スシテ「アイデンティック・ノート」トスルノ趣旨ナリト了解スル旨ヲ指摘シタルニ英大使ハ之ヲ首肯シタリ此ノ点ハ在上海

(一)第二、第三、第四項トシテ貴電<sup>(四一六文書)</sup>第三一〇号(1)(2)(3)要求条件ヲ掲ク

(三)第五項トシテ貴電第三一〇号B ヲ unless ヨリ書キ初メ Nationalist Army ヲ Nationalist authorities トシ(此ノ点当方固ヨリ異存ナシ) to our satisfaction their intent ヲ to satisfaction of interested government ト改メ從テ次ノ the interested powers ヲ the said government ト改ム

(四)末項トシテ左ノ一項ヲ付ス  
The covering note to Chiang Kai-shek would be as follows: "I am instructed by.....Minister to hand you the enclosed communication which is being made today to the Nationalist authorities at Hankow."

442 昭和2年4月7日 在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

中国側への南京事件要求通牒発出方に関する  
五国公使会議の件

北京 4月7日後発

※  
第三七六号

貴電第一七五号ニ関シ

四月七日五国公使會議ヲ開キ協議ヲ遂ケタル処(一)本使ハ御訓示ノ通牒ノ宛名ニ関シ漢口、上海共ニ均シク同一ノ形式ニテ提出スル事ノ望マシキ事ヲ述ヘタルモ容易ニ纏ラサルニ付漢口ヲ主トスル多數ノ意見ニ同意シ置キタリ(二)他ノ各公使ハ「ジョイント・ノート」ニ五ヶ国領事共同署名シテ提出スルノ説ヲ支持シタルモ本使ハ「アイデンティック・ノート」ノ説ヲ固執シ同時ニ五国領事打揃ヒテ支那側ニ会见シテ夫々其ノ「ノート」ヲ提出スル事トナラハ本使ニ於テモ同意シ得ヘキ旨述ヘタル処各公使ヨリ今一応日本政府ニ稟議方依頼有リタルニ付承認シ置キタルモ同時ニ日本政府ハ「アイデンティック・ノート」ヲ固執スヘシト答ヘ置キタリ(三)「ノート」提出後南京ニ於テ共同調査ヲ遂行スル件ニ付テハ英國公使ヲ初メ他ノ各公使ハ五国限リノ調査ハ必要ナルモ支那側ヲ加ヘテ共同調査ヲ為スコトハ徒ラニ曠日持久トナリ面白カラストテ同意セス但シ貴電第一七〇号ノ御懸念即支那側ニ於テ全責任ヲ負フ事ヲ声明シタル

※  
第四八四号ノ二

漢口發本官宛電報第一一二号

本官發外務大臣宛電報一八二号ノ二

尚南京事件ニ関シテハ御承知ノ通り國民政府ハ其方針トシテ列強ノ共同的対策ヲ根本的ニ否定スルモノナレハ若シ日英、米ニシテ「ジョイント・ノート」ヲ提出セラルル事モアラハ自分ハ之ヲ突返スヨリ方法ナキ次第ナリ然ルニ凡ソ國際問題(殊ニ日支間ニ於テハ)当事者間ノ单独平和交渉ニヨリ解決シ得ヘカラサル理由ナキニ付テハ日本ニ於テモ此点ニ留意セラレ不必要ナル誤解ヲ避クル事ト致度ク又國民党ハ最近ノ會議ニ於テ外交統一ノ方針ヲ再ヒ「コンファーム」シタル事実ハ御承知ノ通ニシテ右ハ軍閥ノ跋扈ヨリ脱シ支那カ近代の國家トシテ存在ヲ全ウスル上ニ於テ欠クヘカラサル要件ナル事ハ日本ヲ始メ文明國ノ現狀ニ鑑ミ貴官ニ於テモ同感ナリト信ス從テ事苟モ外交事件ニシテ國民政府ヲ拘束スル協定ハ總テ外交部又ハ其正式代表者ニ於テ交渉締結スヘク日本ニシテ真ニ自衛ノ此ノ主張ヲ了解シ國民政府ヲ援助スルノ好意アラハ文武何レヲ問ハス権能ナキモノヲ捉ヘ交渉ヲ開ク事ヲ避クル様セラレタク希望ニ堪ヘ

六 南京事件

後ニ共同調査ヲ行ハントスル御意向ナル事ハ各公使トモ之ヲ諒解シタリ(四)制裁ノ問題ニ付テハ他ノ公使等ニ於テ是非之ヲ必要トストノ意見ナリシニ付本使ハ貴電第一七五号(三)ノ趣意ニ基キ説明シ置キタルカ米國公使ニ「ノート」ノ提出ハ制裁ニ関スル各國ノ意見纏リタル後ニスル方然ルヘキ旨ヲ説キタルニ付本使ハ我方ニ於テハ制裁ノ問題ハ容易ニ決定シ得サル処ニシテ此ノ決定ヲ待ツニ於テハ「ノート」ノ提出益々遲延スヘキニ付兎ニ角制裁ノ問題ハ暫ク之ヲ措キ至急「ノート」ノ提出ヲ実行スル方望マシト述ヘ其結果直ニ英米兩公使ヨリ夫々成ルヘク土曜日朝迄ニ訓電ニ接スル様請訓ノ電報ヲ發送シ(仏伊兩公使ハ他ノ各三公使ノ一致スル決定ニ同意シ得ル權限ヲ有ス)更ニ多分土曜日朝会合スルコトナレリ

443 昭和2年4月7日

在上海矢田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

蔣介石には南京事件交渉の権限なしとする陳友仁の談話につき高尾總領事報告

上海 4月7日前發  
本省 4月7日前着

ス右貴官ヲ通シ貴國政府ニ傳達方煩度シ

尚英國ニ就テハ既ニ「タイチマン」ト連絡ヲ執リ或ハ「ランプソン」再ヒ当地ニ來ルコトナルヘク予期シ居ル次第ナリ云々

右ニ對シテ本官ハ御申出ノ趣ハ直ニ外務大臣ニ電報スヘキ処本官參考迄ニ尋ネ度キハ蔣介石ノ地位並ニ彼ト國民政府トノ關係ナリ最近ノ報道ニヨリ察スルニ日本政府ニ於テハ或ハ蔣ヲ以テ南京事件ノ当面ノ責任者ト見做シ少クトモ事件ノ真相ニ関シ何等「デスカス」スルノ意アルヤニ見受ケラルル節アリ素ヨリ右ノ通りナリトスルモ日本ト蔣トノ間ニ何等特殊ノ關係ナキ事実ハ改メテ説明ヲ要セサルヘシ唯貴官ノ説明ニヨレハ蔣ハ此程度ノ接觸サヘ権能ナキヤニ解セラルル処如何了解然ルヘキヤト申述ヘタルニ陳ハ双方ノ誤解ヲ避ケル為右ノ借問ニ確答ヲ与ヘ得ル機會ヲ得タルヲ喜フ蔣ハ元來革命軍總司令ニシテ外交ニ関シ何等ノ権能ナシ蔣モ亦此事実ハ当地政治委員會ノ電報ニ依リ承知シ居ル筈ナリ彼ハ上海入城以來鐵道方面及交渉員等ノ任命ヲ為シ居ルカ右ハ全ク越權ノ沙汰ナリ上海ハ既ニ戰爭終結セル事ナレハ政治問題ハ國民政府ノ處理ニ委スヘキナリ(陳ハ郭

泰祺ノ任命ニ関シテモ自分ノ子分ナルニ拘ラス之ヲ違法ナリトシ党及政府ニ於テ承認スルヲ得スト付言セリ。素ヨリ戦争ノ遂行ニ関シ緊急ヲ要スル場合ニ関シテハ蔣ニ於テ応急処置ヲナス事差支ナカルヘキモ南京事件ニ関シテハ単ナル軍事事件ノミニアラス重要ナル対外事件ナレハ蔣ニ於テ一切之ニ干与スル権能ナシ右ハ蔣ニ対スル共產党系ノ反感ノ表現ニ非ス所謂国民党内ノ「スプリット」ニ関シテハ世上之ヲ以テ共產党対国民党或ハ国民党内左右両派ノ内争ナリト伝フルモ実ハ然ラス斯ル問題ハ既ニ解決セリ蔣ニ対スル反対ハ単ニ彼ノ独裁的傾向ヲ許シ得サル為ナリトテ党権ノ無効ナル所以及独裁反対ノ主張ヲ繰返シ説明セリ

(5) 右ニ対シ本官ハ蔣ニ於テ交渉ノ権限アリヤ否ヤハ国民政府内部ノ問題ナレハ若シ蔣ニシテ交渉ニ応スル意志アラハ外国側ハ之ニ対シ其権能無キヲ告クヘキ地位ニ非ス要ハ蔣自身ヨリ凡テノ交渉ヲ漢口ニ移ス様声明セシムル事順序ナルヤニ考フト述ヘタルニ陳ハ本日蔣ヨリノ入電ニ依ルニ外国側ヨリ何等提議アリシ旨ノ説明ナク若シ提議アラハ蔣ハ必ス交渉ヲ当地ニ移スコトト確信ス果シテ然リトセハ外国側ニ於テ自ラ蔣ニ対スル申出ヲ避ケラルルハ可ナルヘシト答

ニ今更他各国公使ニ於テ「ジョイント・ノート」トセムコトヲ主張スルハ当方ノ了解ニ苦シム所ナリ就テハ此点矢張り貴見ノ通り主張セラレタシ

二、共同調査ノ件ハ今後支那側ト交渉ノ模様ニ依リ生スル事柄ニシテ此際之ヲ問題トスルノ要ナカルヘシト思考セラル

三、制裁ノ件ニ関スル当方ノ意向ハ屢次往電殊ニ往電第一六八号ノ通ナルカ支那側ノ態度ヲ見テ良法アリヤ否ヤ攻究スルモ遅カラス此際之ヲ先決問題トスル要ナキハ貴見ノ通ナリ尚貴電四制裁問題ニ関スル米国公使主張ノ真意ハ明ナラサルモ米国政府ノ意向ハ別ニ転電スヘキ松平大使来電第一二〇号ニ依ルニ從來トモ斯ノ如キ制裁ヲ加フルコトニ同意シタルコトナク又此ノ種ノ約束ヲ与フルコト能ハストスルニ在リ

445

昭和2年4月8日

第一遣外艦隊司令官より  
大角海軍次官、原軍令部次長宛(電報)

南京事件要求不遂行の際執るべき軍事手段に  
関する日英米の協議について

4月8日後発

ヘタルニ依リ本官ハ右ハ単ニ本官ノ参考迄ニ質問シタルノミナリ日本側ニ於テハ未タ蔣介石ト交渉ヲ開始セリトハ承知セス兎ニ角委細ハ直ニ外務大臣ニ報告シ何分ノ回示アラハ直ニ内報致スヘシト述ヘ引取りタルカ目下当方面ノ空氣ハ日本ノ態度ニ最モ重キヲ置キ殊ニ此程来本官ヨリ陳友仁ニ対シ各種ノ問題ヲ捕ヘ相当深刻ニ警告ヲ与ヘタル事実モ其ノ因ヲナシ茲ニ対日方針ヲ明ニシ以テ其好感ヲ繋キ列国共同干渉ノ危機ヲ脱セントスルモノト察セラル右ハ我对南方政策ノ樹立上最モ重大ノ意義ヲナスモノト思考ス尚本件ニ関スル卑見ハ別電ヲ以テ申進ムヘシ

編注 本電は前電文第四八四号の一を欠く

444 昭和2年4月8日

幣原外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

南京事件要求は各国同文通牒とすべき旨訓令

本省 4月8日後発

※ 第一七九号

貴電第三七六号ニ関シ

一、往電第一七三号英国文案及貴電第三五七号共同請訓ニ依ルニ明ニ「アイデンチック・ノート」トスヘキ筈ナル

4月9日後着

(外務省接受月日不明)

※ 機密第二四八番電

南京事件要求不遂行ノ際執ルヘキ兵力手段ニ関シ英長官ハ吳淞長江砲台、漢口、広東兵工廠、南軍海軍ノ差押ヘ又ハ破壊ヲ行フコトニ政府ノ承認アリトテ日米ト共ニ協議会開催、米ハ前回研究ノ具体的手段ヲ政府ヘ回答セシモ未タ訓令無シ日英米共之ニ一致セシ場合ニハ

(イ) 南京下流 英長官

(ロ) 南京 米司令官

(ハ) 南京上流 英司令官

各々先任指揮官トシテ担当シ各手段毎ニ三国代表間参加各地同時ニ行フコトニ意見一致ス

日本ハ手段ノ採否、具体的手段未決、仏伊又参加スルヤモ知レス実施ハ必要起リタル際更ニ協議スヘク右ハ研究ニ過キス

英ハ広東兵工廠ハ爆撃、同時又ハ其ノ前砲台砲撃、漢口兵工廠ハ砲台ト共ニ砲撃ノ筈、南軍北進ニ依ル北支方面ノ脅威ニ関スル米国側ノ憂慮甚クシク米公使対策ヲ問合ハセ来

レルニ対シ米長官ハ万一ノ際ハ公使館区域ニ立籠ルノ愚ヲ再演セス天津方面ニ引揚ヲ勸告セリト語レリ

446 昭和2年4月(9)日 在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件要求条件に関する四国公使との協議  
について

別電 四月九日着在中国芳沢公使より幣原外務大臣宛  
第一八七号  
上海及び漢口宛右要求条件電訓案  
北京 発  
本省 4月9日後着

※  
第三八六号

貴電第一七七号、<sup>(四四四文書)</sup>第一七九号及第一八〇号ニ関シ  
四月九日四国公使ヲ招キ御訓令ヲ含ミ我方態度ヲ説明シタル  
処英国公使ハ制裁ノ点ニ付固執スルヲ要セス直ニ要求条件  
ヲ提出スルコトニ取計方差支ナキ旨ノ訓電ニ接シタリト  
披露シ米国公使ハ本使ヨリ在米大使來電第一二〇号ノ内容  
ヲ語リタルニ拘ハラヌ末タ斯ノ如キ電訓ニ接セスト述ハタ  
リ伊西公使モ夫々電訓ニ接シ居タルカ要スルニ各公使共  
制裁ノ点ヲ除外セハ直ニ要求条件ノ提出ニ着手シ得ル事明

11th, and simultaneously present to Chen (or Chiang) the terms already in your possession. Identical instructions are being sent to Government (Hankow.) You are authorized to take note of any verbal observations that Chen (or Chiang) may make at the time of presentation of the demands but as we regard the demands as not arguable you should refrain from any discussion. The terms of the demands will be published in the respective capitals and in China on Tuesday accompanied by a statement which will be telegraphed to you separately but which is not for communication to Chen (or Chiang). Please report urgently to the Legation and Foreign Office ( ? ) when you have presented the demands.

Yoshizawa

六 南 京 事 件

447 昭和2年4月(10)日 在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件に關し蔣介石に対する好意的措置に  
つゝ黄郛の感謝にこづつ

カトナリタル為別電第三八七号(上海宛往電第五四号及漢口宛往電第六六号)上海及漢口宛同文電訓案ヲ協定シタリ尚蔣介石既ニ出發後ナリヤモ計リ難キ為上海宛往電第五号同文電報案ヲモ協定セリ

貴電第一七九号御來示ノ次第ハ詳細本使ヨリ各公使ニ説明シ其諒解ヲ得タリ尚段々御訓示ノ御趣旨ヲモ付度シ此ノ上要求条件ノ提出ヲ遅延セシムル事面白カラサルニ付多少或ハ貴意ニ副ハサル点アリトハ思ハルルモ五国協調ノ必要モ有之ニ顧ミ以上ノ通り夫々協定ヲ遂ケタル次第ニ付此辺不惡御諒承アリ度シ

(別電)

Peking, April 9th, p. m.  
Rec'd, April 9th, p. m.

※  
No. 387

Five Governments have now approved the terms of the demands for the settlement of the Nanking outrages. You are hereby instructed to concert with your four Colleagues and go with them on Monday April

上海 発  
本省 4月10日前着

※  
第五二四号

本官発在漢口総領事宛電報第二四六号

八日夜黄郛來訪帝國政府ノ南京事件ニ関シテ蔣介石ノ立場ヲ特ニ諒解セラルル好意的措置ヲ逐一蔣ニ伝ヘタル処蔣ハ大イニ感激シタル旨ヲ述ヘ猶武漢政府ニ対スル対策決定上(一)武漢政府幹部ノ行動(會議ノ演說等)(二)武漢政府ノ公布スル命令(三)武漢ノ一般狀況ニ関スル情報ヲ蒐集スル必要アル処武漢政府ノ「センサー」ノ為入手困難ナルニ付テハ新聞情報程度ノモノニテ宜敷キ故高尾総領事及海軍ノ好意ニテ隨時御通報ヲ願ハレ間敷キヤト依頼アリ依テ本官ハ其程度ノモノナラハ本官ノ参考トシテモ極メテ有益ナルノミナラス「ホームレス」ノコトナレハ不取敢高尾総領事及司令官ニ依頼シ見ルヘシト答ヘ置ケリ

448 昭和2年4月(11)日 在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件に關する國民政府宛申入れは共同通牒となすことに五国公使同意表明について

別電 四月十一日付在中国芳沢公使より幣原外務大臣

宛第四〇二号

漢口政府宛共同通牒提出の趣旨について

北京 発  
本省 4月11日前着

※  
第四〇一号

本官発漢口宛電報第七三号

四月十日夜英国公使館及伊国公使館ニ貴地英国総領事ハ十一日午前十一時伊国領事ハ午後十二時三十分陳友仁ニ夫々面会スルコトナリ且陳ハ五国領事ヨリ同時ニ受クル事ヲ拒絶シタル旨ノ入電アリタル為午後十時五国公使会議ヲ開キ評議シタル処英、仏、伊三公使ハ此上ハ共同通告トナスヨリ致方ナシト述ヘ米国公使モ自分ト同国政府トノ了解ハ同文通牒トナスニアレトモ此場合自分モ共同通牒ニ同意スヘシト述ヘタルニ付本使モ兎ニ角明日ヲ以テ通牒ヲ交付スル事ハ絶対ニ必要ナリト日本独り自説ヲ固守シテ之カ為明日通牒交付ノ「アレンジメント」ニ累ヲ及ホシ五国協調ヲ破リ其結果陳ノ奇計ニ陥ルカ如キハ元ヨリ面白カラサル次第ニ付貴官宛大臣來電第四六号ノ精神ニモ願シ本使ノ責任

be recast as follows :

Under the instructions of the American, British, French, Italian and Japanese Governments, the undersigned are directed by the diplomatic representatives of their several countries in China to present to you the following terms (which are simultaneously being communicated to General Chiang Kai-Shek, Commander-in-Chief of the Nationalist armies) for the prompt settlement of the situation created by the outrages against their nationals committed by the Nationalist troops at Nanking March 24th. Then follows the remainder of the note as at present drafted with the 5 signatures at the end.

Yoshizawa.

449 昭和2年4月11日

在上海矢田総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件要求条件を白崇禧ノ手交についで

上海 4月11日後発  
本省 4月11日後着

ヲ以テ漢口政府宛ノ分タケハ共同通牒トナス事ニ同意ヲ表シタル結果貴地五国領事ニ対シ五国公使ヨリ別電第七四号ノ通至急電訓スル事トナリタリ就テハ右別電ノ趣旨ニ從ヒ共同通牒ニ他ノ四国領事ト共ニ御署名ノ上首席領事ヲシテ五国領事ヲ代表シテ指定面会時刻ニ陳ニ会見ノ上通牒ヲ交付セシムル様然ルヘク取計ハレタシ

(別電)

Peking, April 11th a. m.  
Rec'd, April 11th a. m.

Gaimudaijin, Tokio.

※No. 402. Very urgent. 本官発漢口宛電報第七四号

In view of Chen's refusal to receive simultaneously all the five Consuls, the five interested Ministers have agreed that the demands shall be presented in a form of a collective note signed by the five Consuls, the said note to be presented on behalf of all of them by the Senior of the five interested Consuls at the hour appointed for his reception. The covering note should

※  
第五四九号

本官発在支公使宛電報第四五〇号

貴電第六一号ニ関シ

本日午後三時「アイデンチカル・ノート」ヲ白崇禧ニ手交セリ

450 昭和2年4月11日 外務省公表

南京事件に関する五国政府の国民政府に対する

抗議についで

付記 四月八日宇垣陸相口述要旨

「支那ニ於ケル帝国地歩ノ擁護ニ関スル研究」

南京事件ニ関シ四月十一日在漢口日本総領事ハ英米仏伊四国総領事ト共ニ夫々本国政府ノ訓令ニ基キ国民政府外交部長陳友仁氏ニ左ノ同文通牒ヲ提出シ同時ニ在上海五国総領事ハ右通牒ヲ国民軍總司令蔣介石將軍ニ通告セリ去ル三月二十四日南京ニ於テ国民軍カ日本国民ニ加ヘタル暴虐行為ニ依リテ生シタル事態ノ迅速解決ヲ期セムカ為本官ハ茲ニ帝國政府ノ訓令ノ下ニ在支帝國公使ヨリ貴下ニ対シ左記ノ要求ヲ提出スヘキコトヲ命令セラレタリ尚本要求

ハ同時ニ国民軍總司令蔣介石將軍ニモ通告セララルヘシ

一、虐殺傷害侮辱並損害ニ付責ニ任スヘキ軍隊ノ指揮官及之ニ関与セル者ニ対シ嚴重ナル処罰ヲ加フルコト

二、国民軍總司令ヨリ文書ヲ以テ謝罪ヲナシ該文書中ニ外国人ノ生命財産ニ対スル一切ノ暴行煽動ヲ行ハサル旨ノ明約ヲ含マシムルコト

三、人的傷害及物的損害ニ対シ完全ナル賠償ヲ為スコト  
国民政府当局ニ於テ速ニ右要求ニ応スル意図ヲ明ニシ關係国政府ヲシテ満足セシムルニアラスムハ關係国政府ハ其ノ適當ト認ムル措置ヲ執ルノ止ムヲ得サルニ至ルヘシ

右ニ関スル五国政府ノ声明

(四月十一日公表)

南京事件ニ関シ日、英、米、仏、伊五国政府ハ国民政府当局ニ交付セル同文通牒ニ関シ左ノ声明書ヲ発表セリ

国民軍南京入城ニ当リ三月二十四日朝ヨリ午後ニ亙リ国民軍中ノ制服ヲ着ケタル部隊ニ依リ外国領事及居留民ノ身体及財産ニ対シ組織的暴行ハレ日、米、英、仏、伊諸国民ニシテ虐殺又ハ傷害セラレタルモノアリ其ノ他多数ノ者ハ暴行ヲ蒙リ其ノ生命ニ危慮ヲ及ホシ掠奪並極端ナル侮辱ヲ

(付記)

支那ニ於ケル帝国地歩ノ擁護ニ関スル研究

昭和二年四月八日

四月七日宇垣陸相ヨリ若槻總理ニ口頭ニテ述ヘタル要旨

四月十二日畑陸軍次官持参

近時勃発シタル南京ノ掠奪、漢口ノ暴挙、北京ノ共產党(マツ)リ事件等ノ如キハ目下偉大ナル力ヲ以テ支那ヲ根底ヨリ動揺セシメツツアル所ノ大ナル震動、烈シイ渦巻ノ中ニ生シタル一小波紋ニ過キササルモノト考察シテ宜シイ

乍併当路者トシテハ之ヲ冷眼視シ、放擲シ置ク訳ニモ行カヌカラ勿論遺憾ナル事柄トシテ取扱ヒ相当ノ始末ヲ付ケルモノモ必要ナルカ此等ノ小ナル波紋ニ眩惑セラレ或ハ突発ノ事件ニ憤激シ夫レヲ好機トシテ覇道の野心ヲ弄シタリ又ハ報復的ノ強暴ナル手段ニ訴ヘテ時局ノ前途ヲ益々紛糾セシムルカ如キコトハ避クヘク努メネハナラヌ、須ラク東亞ノ大局ト帝国ノ地位ニ照シ時局ノ推移ニ鑑ミ茲ニ冷静且穩健ナル方策ヲ確立シ其ノ遂行ヲ徹底スルコトカ何ヨリ肝要テアルト認メル方策樹立ノ前提トシテ左記ノ諸点ヲ十分ニ

受ケ又婦女子ハ名状ス可ラサル暴虐ヲ蒙リ日、米、英ノ領事館ハ侵害セラレ其ノ国旗ノ威嚴ハ傷ケラレ南京在住ノ総テノ外国人ノ家屋及營造物ハ組織的ニ掠奪セラレ又焼失セルモノ少カラス

日、米、英、仏、伊各国政府ハ斯ノ如ク其ノ代表者及平和ニ適法ノ職業ニ従事セル国民ニ対シテ明カニ予謀セラレタル暴行ニ鑑ミ責任アル国民政府当局ニ対シ之カ満足ナル匡正ニ付要求ヲ為スノ必要ヲ認メタリ而シテ列国間ニ協定セル要求条件ハ穩当ヲ旨トシタルモノニシテ此ノ際自国ノ威嚴ト国際団体内ノ友邦ニ対スル義務トヲ認識スル何国ノ政府ト雖其ノ体面上匡正ヲ為シ得ヘキ最小限度ノモノニ過キス

是等ノ要求ハ固ヨリ關係諸国政府カ友邦ト信スルニ吝ナラス且ツ其ノ親善協調ノ關係ヲ繼續改善セムコトヲ熱望スル支那国民ノ主權又ハ威嚴ヲ傷クルノ趣旨ニアラスシテ寧ロ現在ノ友好關係ヲ破壊シ且ツ友邦列国国民ニ対スル支那国民ノ不信憎悪及兇暴ヲ煽動セムトスル行動ニ依テ南京事件ヲ惹起セシムルニ至ル支那内外ノ勢力ニ対シテ之ヲ行フモノナリ

考慮判断スルノ必要カアル

判断

一、支那カ共產党化スルヤ赤化スルヤノ問題ハ夫レカ支那国民ノ真正ナル理解並共鳴ニ基キタルモノナリヤ否ヤハ疑問ノ余地大ニ存スルモ外形ノ上ニ於テハ確ニ共產化シ赤化シツツアルノ事実ハ今日何人モ恐ラク否認スルコトハ出来マイ

二、支那ノ共產赤化ノ運動カ下火トナリ範圍カ拡大スル恐ナキヤ否ヤノ問題ハ昨年初秋漸ク湖南湖北ニ顔ヲ出シ得タモノカ冬ニハ江西福建ヲ侵略シ今初春ニハ江蘇浙江ヲ席卷シ今ヤ將ニ河南、安徽、山東ヲモ圧伏セントスルノ趨勢ヲ示シテ居ル、此ノ事実ヨリ推論セハ支那ノ共產運動ハ列強カ袖手傍觀此儘ニ放任シ置ケハ遠キ将来ハイサ知ラス当分ノ間ハ決して下火ニモナラス範圍モ漸次拡大シテ夫レカ直隸滿蒙ニ迄弥漫シ来ルノハ單ニ時日ノ問題タルニ過キスト認メ得ル

三、支那ノ政治及社会ノ組織ヤ思想カ共產化シ赤化スルトモ帝国ニ何等ノ影響ナシトハ今日ニ於テハ何人モ考ヘ得マイ、長江流域ニ多クノ歲月ヲ費シテ植付ケタル帝国ノ

利権や企業カ全ク萎縮シ居留民カ永年ノ努力ニヨリテ築キ上ケタル権利資産ヲ放擲シテ命カラカニ引上ケテ余儀ナクセラレ居ル現在ノ事実丈ケテモ無影響ナリトノ言議ヲ許サヌコトヲ立証シテ余リアル、過去ノ此ノ沿革ヲ顧ミルトキハ将来ニ於テ其ノ惨状カ更ニ拡大蔓延シテ少シモ帝国ヲ毒毒スルノ恐ナシトハ今日何人モ確言スルコトハ出来マイ

四、支那ノ現時ノ排外運動ハ唯一英國ヲ目標トスルモノテアリ帝国カ寄ルナ障ルナ荒立テルナト云フ方針テ進メハ帝国ハ此ノ運動ノ対象物タルヲ免カレ得ルノミナラス却テ日支親善ヲ助長シテ経済的ニハ英ノ失ヒタル地歩ニ代リテ大ナル利益ヲモ取メ得ル様ニナルト考ヘ居タリシ如キ利那のノ迷夢ハ現在吾人ノ眼前ニ展開サレツツアル事実ニ当面シテハ全然醒メタコトト信スル、將又一時英ニ代リテ占メ得タル若干ノ地歩アリトスルモ夫レハ支那ノ秩序恢復後ニ於テハ所謂経済的ノ競争即チ品質価格嗜好等ノ適否ニヨリ、左右セラルヘキ浮萍的ノ地歩タルコトモ分ツタト思ハレル、從テ今日ニ於テハ何人モ日本丈ケカ将来支那国民ヨリ独り好イ子扱ヲ受ケ得ヘシト云フ様

居ル唯今日ノ状勢ヲ随喜シ得意テアルノハ無産労働階級ノ一部ノミニ過キサル実状ニアルコトモ何人モ否認スルヲ得マイ

七、支那国民党内ニ於ケル左右両派ノ分解作用ハ今日ニ於テハ若干其ノ緒ニ就キ北方派モ少シハ結束改善ニ注意シ来リツツアルノ形勢ナルモ尚彼等独力ニテ何レモ共產派ヲ制圧スルノ力十分ナリトハ認メ難ク又兩者ノ協同合作ノ仕事モ第三者ノ斡旋支持ヲ受ケネハ成立シ難キ程度ニ彷徨シテ居ル様テアル

### 対 策

支那時局ノ推移並彼等ノ対日感情ノ状態ハ上述ノ如ク判断シ得ルカラ今日迄帝国カ隱忍自重シテ居タノハ機宜ノ手段ナリシト考フルモ今日以後不相変此ノ態度ヲ継続シテ行ク丈ケテハ到底此ノ大勢ヲ防止スルコトモ軽減スルコトモ出来ネハ之ヲ改善シ或ハ之ヲ他方面ニ轉換スルコトモ困難テアル、即チ帝国トシテハ從來ノ行掛リヤ拘束ヨリ蟬脱シ今ヤ消極雌伏ノ如キ態度ヨリ更ニ積極雄飛ニ移ルヘキ時機テハナイカ無為ノ形ヨリ有為ノ体ニ転化スヘキ秋カ正ニ到来シテ居ル様ニ考ヘラルル即チ大要左記ノ如キ方策ヲ確立シ

ナ迂濶ナ事ヲ考ヘ居ルモノモアルマイ

五、長江流域ニ於ケル帝国ノ地歩ハ主トシテ對外企業家ノ奮闘ニヨリテ築キ上ケラレタノテアル、利害ノ打算ニヨリテ建設セラレタノテアル、從テ今日之レカ擁護ニ巨大ノ国力ヲ要スルコトニナレハ遺憾ナレトモ利害ノ打算上之ヲ放棄シ一時居留民全部ヲ引上ケルモ可ナリト云フ様ナ極端論モ起ラナイトモ限ラヌカ山東、直隸殊ニ滿蒙ニ於ケル帝国ノ地歩ハ利害ノ打算以外ニ尚国民ノ鮮血ヲ以テ書カレタル歴史、深甚ナル国民的感情カ強ク付キ纏ツテ居ルコトヲ決シテ忘レテハナラヌ

六、支那ニ關係ヲ有スル列強ハ今日何レモ支那時局ノ推移ニ就キ非常ニ恐慌ヲ来シテ協調ノ緩解シ破壊シタルヲ悔ミテ居ル様テアル已ムヲ得ス独力ニテ支那ニ対峙スヘキコトアル場合ヲ憂ヘテ長江筋ハ勿論北支那方面ヨリモ漸次居留民ノ引上ケヲ為シ他面ニハ更ニ増兵ヲモ考慮シツツアル、又他方支那ニ於テハ国民ノ恒産アルモノハ南方共產派ノ苛斂誅求所謂彼等ノ声明シ掲ケル所ノ招牌ト彼等ノ行ヒツツアル實際ノ懸隔甚シクシテ軍閥一味ノ遣リ方ト同工異曲タルニ失望シテ切ニ平和ノ招来ヲ熱望シテ

奥地ニ於ケル帝国臣民ノ保護方法ノ進捗ニ伴ヒ漸ヲ追ヒ之レカ実行徹底ニ努ムルコト極メテ緊要ナルヲ感スル

第一、列強間ノ対支協調ヲ緊密ナラシムルコトニ今日迄ヨリモ更ニ歩ヲ進ムルコト、少クトモ列強ノ支那ニ対スル立場ト企図ニ就キ相互ニ隔意ナキ意見ノ交換ヲ為シ以テ他方ニ利用セラルルコトナク帝国ヲ中心トシタル協調ノ完全ナル形成ニ導クコト

第二、列強ノ協調ニヨリテ共產派ヲ包圍スヘキ政策ヲ採ルコト

其一 列強間ノ言論機関ヲ通シテ露國ノ対支態度及支那共產派ノ行動ヲ排撃シテ彼等ノ反省自覚ヲ促スコト

其二 実力ヲ以テ山東、江蘇、浙江、福建、広東ノ要点ヲ押ヘテ封鎖的ノ形ヲ造リ特ニ露國ヨリスル軍器、軍需品等ノ輸入ヲ抑止シ又之レヲ支持ノ基点トシテ漸次貿易及企業ノ恢復ヲ図ルコト

第三、長江上流地域及其ノ南方ニ於ケル共產派ノ抑圧驅除ハ主トシテ南北両派ノ穩健分子ニ軍資ト武器トヲ列強諒解ノ下ニ或ハ協同シテ供給シ彼等ヲシテ其ノ衝ニ当ラシムルコト之レカ為ニハ両派ノ妥協協同ヲ必要トスルヲ以

テ更ニ其ノ成立ニモ相当ノ助力ヲ与フルコト

此等方策ノ徹底的遂行ニハ相当長時日ヲ要スヘキ恐レアルニヨリ最初ヨリ持久ノ覚悟ヲ以テ之レニ当リ從テ提供スヘキ物質ノ如キモ勉メテ節約シ且主トシテ対策第二ノ其ノ一及第三ノ手段ニ依リテ目的ノ遂行ヲ図リ第二ノ其ノ二ノ運用ヲ必要トスル場合ニ於テモ勉メテ海軍ヲシテ当ラシムル如ク処置スルコト

以上ノ方策ニ基キテ中南支那ニ於ケル共產派ノ驅除抑圧ニ勉ムルコトハ北支那及滿蒙(西伯利方面ヨリ侵入スル共產化ニハ本案以外ニ特別ノ考慮ヲ要ス)等ニ及ホスヘキ危難ヲ未然ニ防止シ且現ニ中、南支ニ弥漫拡大シツツアル混乱危害ヲ抑止掃除スヘキ適切ナル手段ニシテ今ヤ帝國カ右ニ関スル決意ヲナシ之レカ遂行ニ邁往スヘキ時機ニシテ今日尚往再遂決スル所ナクンハ將來多大ノ犠牲ヲ払フモ及ハサルノ痛恨事ニ直面スル日ノ遠カラス来ルヘキヲ恐ル若シ夫レ更ニ進ンテ支那ノ堅実ナル統一、帝國地歩ノ増進ニ関スル問題ノ如キハ尚別個ノ策案ヲ要スヘキモ兎ニ角現在ニ於ケル帝國地歩ノ擁護維持カ此等問題ノ解決ニ進ムヘキ必須先決ノ要件ナリト認ムルニヨリ茲ニ此ノ研究ヲ試ミ

南京事変制裁問題ニ関シ過日英國代理大使ニ対シ國務長官カ述ヘラレタル砲撃ニ反対ノ意見ハ尤モノ次第ト思考ス依テ今回ハ制裁問題ニ付決定スルコトナク南方側ニ要求ヲ提出スルニ同意シタルモ万一南方側カコレニ応セサル場合如何ナル制裁ヲ加フヘキヤニ関シ予メ關係国出先海軍官憲ノ間ニ協議ヲ行ハシムルコトニハ米國政府モ異議ナカルヘク米國海軍指揮官ニ対シ右権限ヲ付与セラレタシト言フニアリ

452 昭和2年4月12日 在上海矢田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件要求条件を白崇禧に交付の際の状況  
について

上海 4月12日 発  
本省 4月12日後着

件  
\*第五五七号

往電第五四九号(在支公使宛電報第四五〇号)ニ関シ

右公文交付前五國總領事英國總領事館ニ会合シタルカ英米側ハ若シ白崇禧受取ラサルコトアルヘキニ付其際手筈ヲ定メントノ意見ナリシカ本官ハ必ス受取ルヘシト述ヘタルモ

タル所以ナリ矣

(欄外記入)

陸軍側ノ腹ノ中

一、十六枚目ニ「勉メテ海軍」トアルモ結局陸軍ヲ出ス外ナカルヘシト考ヘ居ルモノノ如シ

一、漢口占領ヲ陸軍ニ於テ研究シタル処長江兩岸ノ要地ヲ占メツツ進軍スル關係上約三ヶ月二個師団ヲ要スル為不可能ト断定セリト云フ

一、広東ハ全然英國側ニテ青島ハ全然日本側ニテ占領スル考案ナカルカ如シ

451 昭和2年4月11日 在米國松平大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件要求に中國が応じない場合關係国出  
先海軍官憲の協議実施方について

ワシントン 4月11日 発  
本省 4月12日後着

\*第一二六号

四月十一日支那問題ニ関シ國務次官ト会谈ノ際同次官ハ本朝英國大使館ヨリ公文接到セルカ其ノ趣旨ハ英國外務省ハ

万一ノ場合ヲ考ヘ手筈丈ケ定ムルニハ異議ナシト述ヘ置キタルカ交渉署ニテハ極メテ慰勸ニ本官等ヲ接待シ白ハ単ニ公文ハ特使ヲ以テ蔣介石ニ届クヘシト答ヘタリ又往電第五五六号面會ノ際郭交渉員ハ本官ニ対シ本日受領セル五國總領事ノ要求ハ意外ニ「マイルド」ナリシヲ喜フ右ハ黃郛ヨリ日本政府ノ尽力与テ力アルコトヲ伝聞シ居リ感謝シ居ル所ナルカ漢口ノ方ハ如何ニナリ居ルヤト質問シタルニ付高尾總領事來電ノ次第ヲ述ヘテ当地ト同シク折角各個ノ公文トナリ居リタルモ陳友仁カ突キ返スト威張り反ツテ列國ノ態度ヲ硬化セシメ急遽「ジョイント・ノート」ニ改メタルナレハ陳ハ勿論突返スナルヘシト説明シタルニ郭ハ我方ニテハ要求ヲ承諾スヘキカ如何様ニ処置シ然ルヘキヤトノコトニ付先ツ至急承諾ノ回答ヲ出シ然ル後共同調査ナリ何ナリ実行方法ニ取リカカルコト然ルヘキ旨申聞ケ置ケリ郭ハ去ルニ臨ミ武力行使ヲ今直ニヤルカ如キコトハナカルヘシト思フカト心配ラシキ顔色ナリシニ付日本ノ関スル限り然ルコト断シテナシ安心セヨト告ケ置ケリ

尚郭ハ英國總領事ニ付批評シ頑迷ニシテ大勢ヲ解セサル同人ノ上海ニ在ル間ハ到底時局ノ安定ハ望ムヘカラスト撫然

トシテ辞去セリ

453 昭和2年4月12日 在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件要求条件を陳友仁に交付の際の状況について

北京 4月12日後発  
本省 4月13日後着

※  
第四一八号

本官発漢口宛電報第七九号

四月十二日五国会議ヲ開ク伊国及英国公使ヨリ通牒交付方訓令ノ通り実行セラレサリシ次第ヲ述ヘ英国公使ハ右ニ関スル漢口來電ヲ読上ケタルカ右ニ依レハ十一日朝陳友仁ノ秘書英国総領事ヲ訪問シ共同通牒ナラハ之ヲ受取り難キ旨告ケタルニ付同総領事及「タイチマン」ノ兩人ハ五国領事トノ同時会見ヲ拒絶シ更ニ共同通牒ヲモ拒絶スルカ如キハ重大ナル事態ナリト述ヘ右秘書ト論弁シタル後「タ」ハ秘書ト共ニ陳ヲ往訪シタル処陳ハ結局二時半迄何等カノ決定ヲ通知スヘシト答ヘタルカ一時過キ秘書再ヒ來訪総領事ニ對シ五国領事ニ同時ニ会見スヘキモ通牒ハ別々ニ交付サレ

ニ非スシテ唯本件制裁ニ関シ有効ナル手段ヲ発見シ得スト云フニ止マルモノト了解シ居レリ果シテ然ラハ右有効ナル制裁手段アリヤ否ヤヲ発見セムカ為ニ在上海關係国海軍司令官ヲシテ審議セシムルコトト致シタキ英国政府ノ意見ナリト述ヘタルニ付

六 南 京 事 件

本大臣ハ固ヨリ自分ハ支那ニ於ケル日本ノ立場ヲ永遠ニ不利益ニ陥ルルコトナク有効適切ナル制裁ヲ加フルノ途アラハ之ヲ攻究スルニ吝ナラサルモ元來制裁ハ懲罰ノ意味ニ非スシテ要求貫徹ノ為ナリト思考スル処過般在上海日、英、仏、米四国司令官ハ制裁問題ニ付一応ノ審議ヲ了シ封鎖、船舶差押、砲台砲撃等七、八項ノ手段ヲ献策シ居レルモ右ハ何レモ列国側トシテ好マシカラサル分子ヲ屈服スルノ目的ニハ適ハスシテ寧ロ列国側ノ友人タル分子ヲ傷ケ列国側自身ニモ害アルモノト云フノ外ナク斯クノ如キ方法ニ依リ制裁ノ目的即支那ニ對スル列国ノ要求ヲ貫徹シ得ヘシトハ信シ得サル次第ナリト応酬シタルニ英国大使ハ右列国司令官ノ献策ニ関スル報道ニ接シ居ラサル旨ヲ述フルト共ニ本大臣ノ意見ニ對シテハ何等答フル所ナク話題ヲ他ニ転シタ

度且該通牒ハ「アイデンチック」ニシテ「ジョイント」ニ非サルヘキ事且共同会見ヲ以テ前例トナスヘカラサルコトヲ告ケタリ

午後三時五国領事外交部ヲ訪問シ英国総領事先通牒ヲ陳ニ交付シタル処陳ハ総領事ニ之ヲ論議スルヲ得ヘキヤト尋ネタルニ付総領事ハ論議シ難キ旨答ヘタル処陳ハ同総領事ヲ辞去セシメタリ続テ米、日、仏、伊ノ順序ニテ各総領事會見ヲ遂ケ英国総領事同様ノ問答ヲナシ全部ノ会見五分開ニ過キサリシトノ事ナリ英国公使ハ右ノ説明ヲナシタル後遺憾ノ意ヲ表シ居リタリ

454 昭和2年4月13日 幣原外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

南京事件に關し制裁の有効性をめぐる英大使との会談について

本省 4月13日後発

※  
第一九九号

十一日在本邦英国大使來訪北京ニ於ケル五国会議之際芳沢公使ハ制裁ニ絶対反対ノ趣旨ノ意見ヲ述ヘラレタル趣ナルカ自分ハ日本政府ノ意向ハ主義トシテ絶対反対ト云フ

455 昭和2年4月13日 海軍省左近司軍務局長より  
第一遣外艦隊司令官宛(電報)

南京事件に關する制裁行為の實行には予め中央の指令を仰ぐべき旨通達について

4月13日發電

(外務省接受日不明)

※  
貴機密二六四番電受領

膺懲手段ニ關スル英長官ノ提案ニ對シ貴官カ適當ニ応酬セラレツツアルハ之ヲ了ス按スルニ列国要求条件ノ解決ニハ今後幾多ノ曲折アルヘク且愈々交渉決裂ノ場合ニ於テモ米國ハ果シテ出先海軍長官ノ献策ヲ容レ英ト共同シテ武断的行動ヲ敢行スヘキヤ大ニ疑ナキ能ハス殊ニ南京事件ハ帝國ト英米トハ其立場ヲ異ニスル点モアリ又各地散在ノ我居留民撤退モ終ラサル今日彼等ト協同シテ強硬手段ニ出ツルコトハ更ニ十分ノ研究ヲ要スヘキ儀ニ付申ス迄モナキコトナカラ其實行ニ就テハ予メ中央ノ指令ヲ仰カルル様致度シ依命

456 昭和2年4月13日 在上海矢田總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件に関する国民政府の対日方針および  
英国の中国政策について高尾総領事の意見具  
申

別電 四月十三日付在上海矢田総領事より幣原外務大

臣宛第五六五号

国民政府の対日方針に関する声明案

上海 4月13日後発

本省 4月14日前着

※第五六三号

漢口発本官宛電報第一二七号

外務大臣へ転電アリ度シ

第二〇二号

在支公使へ転電アリ度シ

第七三三号

南京事件要求通告方ニ関シ十日陳友仁ハ關係国領事會議ニ  
對シ同時会見方ヲ拒否セシ結果北京ヨリ愈々共同通牒ト為  
スヘキ旨ノ新訓令ニ接シタル処コレニ先タチ支那側ニ於テ  
ハ十日領事會議後秘書ヲ当館ニ遣ハシ通告ノ内容ニ関シ内  
密説明ヲ求メタルモ本官ハ何等語ルノ自由ヲ有セサルモ宛  
ニ角会见スル方国民政府ノ為得策ナルヘキ旨ノミヲ告ケ置

皆 Minister for Foreign Affairs Wulan ナル宛名ヲ記  
入シ署名ノ上提示シタルカ本官ハ宛名モ署名モセス一読手  
交シ置ケリ)

陳ハ午後四時更ニ本官ニ会見ヲ求メ既ニ内話セル通(四月  
八日) 国民政府ノ対日方針ニ関スル声明書ヲ用意セルヲ以  
テ幣原大臣ニ伝達相成度右四月二日以来ノ既定方針ニシ  
テ本日ノ關係国「ノート」提示ノ有無トハ全然無關係ナリ  
両三日中ニ公表スル筈ナリトテ大要別電第二〇三号ノ趣旨  
ニ説明ヲ加ヘ朗読セリ(全文郵送ス)

六 南 京 事 件  
本官ハ之ニ對シ極秘ナルコトヲ誓ハシメタル上其ノ趣旨ハ  
或ハ結構ナルヘキモ現在ハ未タ其ノ時機ニ非ス日本ノ輿論  
ハ南京事件以来相当激昂シ居リ又他方ニ於テハ右ニ関シ日  
本ハ他ノ關係列国ト協調スヘキ立場ニアリ從テ政府ハ内外  
ノ誤解ヲ招クヘキ本件ノ如キ計画ニ応スルコトハ至難ナル  
ヘク又本件ヲ発表セラルルコトハ素ヨリ貴方ノ自由ナルモ  
或ハ之カ為貴方ノ希望トハ全然正反對ナル惡結果ヲ生スヘ  
キヲ恐ルト警告シ日本政府ニハ参考迄ニ伝達シ置クヘキモ  
即時発表ハ再考アル方然ルヘシト述ヘタルニ陳モ之ヲ諒ト  
シ同僚ト重ネテ協議スヘシト答ヘ又南京事件ニ関シテハ責

キタル二十一日朝陳ハ更ニ英國總領事ニ對シ秘書ヲ通シ十  
日抗議ニハ反対ナル方針ヲ説明シタル結果「タイチマン」  
ハ非公式ニ陳ト会見シ陳カ依然同時会見ヲ拒絶セハ關係国  
ハ共同抗議ヲ為スノ外ナク然ラハ決裂ヲ見ルハ必然ナリト  
説キタルニ陳ハ同僚ト協議ノ要アリトテ二時半迄回答延期  
方ヲ求メ又仮令会見スルモ(脱)ニ付何等論議スルヲ好マ  
スト語レル由ニテ(凡テ英國側ノ独断的処置ナリ) 十一日  
十時半ノ領事會議ハ共同文書ニ署名シ是ヲ用意スル丈ケニ  
テ打切リトナレリ然ル処陳ハ同日正午内密本官ノ来訪ヲ求  
メ「タイチマン」ト会見ノ次第ヲ語り「タ」ノ言ニ依レハ  
矢張り同文通牒ナル由ナルカ事實ナリヤ万一同文書ニテ  
突キ返ス等ノ事アリテハ誤解ノ生スルヲ恐レルニ依リ此点  
明示セラレタシト言ヘルニ付本官ハ会見ノ極秘ナルヘキヲ  
条件トシ同文通牒ノ筈ナルモ貴方ノ出方次第ニテハ共同通  
牒ト為ス様用意アリト答ヘ同時会見ノ得策ナルヘキ旨ヲ勸  
告セルニ陳モ之ヲ承諾シ後刻「タ」ヲ通シ領事會議ニ同時  
会見ヲ承諾スル旨ヲ申述ヘタリ

午後三時会見ノ結果ハ往電第二〇〇号ノ通ニシテ陳ハ何レ  
ノ領事ニ對シテモ何等述フル所無カリキ(当地ノ總領事ハ  
任有ル政府トシテ適宜処置スル決心ニテ同氏ニテ各個ニ回  
答スヘク日本ニ對シテハ友誼的ナルモ英米ニ對シテハ特殊  
ノ事情アリ未タ其ノ内容決定スルニ至ラズト述ヘタリ本官  
ハ更ニ若シ貴方ニ於テ協議ノ結果本件発表方ニ決定セハ今  
一応事前ニ内報アリ度キ旨申入レ陳ハ之ヲ承認セリ

之ヲ要スルニ国民政府及党幹部ノ意向ハ此際日本ト結ヒ局  
面ノ転回ヲ計ラムトスルモノナルコト明ニシテ其ノ態度ハ  
英租界事件ト比較シテ当地事變後ニ於ケル支那民衆ノ取締  
振ニ就テモ窺知スルヲ得ヘク又陳ノ談ニ依レハ十日来漢セ  
ル汪精衛ニ於テモ日本ニ頼ラムトスル根本方針ニハ極メテ  
同意ニシテ当地ノ状況モ彼ノ来漢ニ依リ党權ノ確立ニ伴ヒ  
逐次改善セラルル見込充分ナル由ナルカ(徐謙、鄧演達等  
共產派ハ目下其所在明ナラス) 若シ帝國政府ノ意向ニシテ  
果シテ穩健分子ニ依リ支那統一ノ実現ヲ希望スルニ在リト  
セハ南京事件ノ解決ヲ機トシ折角醞釀シツアル此機運ニ  
乗シ之ヲ逆用スルコト至当ナルヘク反之方一武漢政府(共  
産激分子トハ絶対区別スルヲ要ス) ヲ毛嫌ヒシ南京事件  
ニ関シテモ飽迄英米ト共同シ之ヲ圧迫セムトセハ其結果ハ  
当方面ヲ愈々共產党ノ跳梁ニ任スルコトナリ又強力ヲ以

テ仮令彼等ヲ驅逐シ得タリトスルモ日本ハ依然英國ノ下積トナルノ外ナカルヘシ茲ニ注意スヘキハ英國ノ對國民政府方針ニシテ本國及北京ニ於ケル強硬論ニ似ス当地ニ於テハ只管其歡心ヲ迎ヘムトスルニ急ナルモノアルハ(例ヘハ「タ」カ極力同文「ノート」ノ手交ヲ果サムカ為努力シタルカ如シ)既ニ疑ノ余地ナク我方トシテハ英國ノ此硬軟兩政策ニ注意シ妄リニ強硬論ニ捲込マルルヲ避クルト同時ニ之ニ出シ抜カレサル様細心ナル注意ヲ要スヘシ

(別電)

上海 4月13日後発  
本省 4月13日後着

※第五六五号

在漢口總領事發本官宛電報第一二八号

在漢口總領事發大臣宛電報第二〇三号

在漢口總領事發公使宛電報第一七四号

(別電)原文ハ長文ナルモ要領ノミ左ノ通

客年十二月外交部長ト日本政府高官トノ累次ノ非公式会見ニ於テ不平等條約「ターミネーション・オブ・レジー

457 昭和2年4月14日

幣原外務大臣より  
在中国芳次公使宛(電報)

ジャンテイ仏國臨時代理大使に対し南京事件

對中国制裁問題に関する我が方の意向開陳に

ついて

付記 四月十三日付

對中国制裁問題に関する在本邦仏國臨時代理大  
使・出淵次官會談録

本省 4月14日發

※第二〇三号

往電第一九九号ニ関シ

十二日及十三日在本邦仏國大使出淵次官ヲ來訪シ最近英國政府ヨリ仏國政府ニ對シ英國ハ制裁ノ問題ニ付決定スルコトナク南方側ニ要求ヲ提出スルコトニ同意シタルモ右制裁ノ方法ニ関シ此ノ際予メ在支關係海軍官憲ヲシテ協議セシムルコト可然ト信スルニ付仏國政府ニ於テモ右ニ同意ノ上必要ノ訓令ヲ發セラレ度旨申出アリタル趣ヲ以テ本國政府ヨリ右ニ對スル回答ニ先チ日本政府ノ意見承知シ度旨訓令ニ接シタリト述ヘタルニ付出淵次官ヨリ同代理大使ニ對

ム」問題主トシテ話題トナリシカ其結果日支問題ノ一般的解決ハ敢テ困難ナラサルコトヲ知レリ

其ノ後日本政府ノ方針ハ南方勢力ノ必然的擴張ニ伴ヒ真面目ナル變更ヲ見タルカ右ハ日本ノ南京砲撃參加拒絕ニ依リ更ニ明トナレルモノニシテ政府ハ其對日政策ニ関シ重要ナル決定ヲナセリ外交部長ハ日本ノ砲撃不参加ハ西洋文明國有ノ暴虐行為ヲ批判シタルノミナラス支那ニ對スル友情ノ表現ナルヲ以テ日本朝野ニ對シ「ナシヨナリスト・チャイナ」ノ要望ノ達成ハ日本ノ正当ナル利益幸福並保障ニ對シ危險又ハ脅威ニアラストノ声明ヲ為スニ決定セルニ付政府ハ伝達方四月二日日本總領事ニ通告シ更ニ四日右声明ハ漢口事件ニ拘ラス變更ナキ点ヲモ通告セリ

將來ノ不祥事ヲ避クル對日政策ヲ實現セムニハ日本政府ニ於テ不平等條約ニ依リ支那ノ政治經濟の屈從ニ基ク日支問題ノ根本的即時解決方ニ進マルルコト必要ナリ

國民政府ハ日本カ代表ヲ任命シ南京、漢口事件解決ノミナラス國際關係ヲ付度シ獨立自主ノ基礎ニ於テ政治經濟並ニ司法關係ヲ規定スヘキ新條約ノ締結ニ當ラシメラル様「インバイト」シタシ

シ十一日在本邦英國大使本大臣ヲ來訪ノ際制裁問題ニ付會議ノ次第ハアリタルモ前記仏國政府ニ對スルカ如キ明確ナル申出ハ無カリシ趣ナリト答ヘタル上本件制裁問題ニ関スル我方ノ意向トシテ(一)往電第一九九号後段本大臣カ英國大使ニ述ヘタルト同様ノ趣旨並ニ(二)五國側ニ於テハ一昨十一日漸ク要求ヲ提出シタルバカリナルニ顧ミ日本政府トシテハ右ニ對スル支那側ノ態度ヲ見極メタル上ニテ初メテ制裁問題ニ付考慮スルコトト致度從テ此ノ際右ニ関シ在支海軍官憲ニ對シ關係國軍憲ト協議方訓令ヲ為スヘキ時期ニ非スト思考スル旨ヲ述ヘ置キタリ

(付記)

※南京事件制裁問題ニ関スル仏國代理大使來訪ノ件

昭和二年四月十二日仏國代理大使出淵次官ヲ來訪シ昨十一日巴里發電信ヲ以テ本國政府ヨリ最近英國政府ハ仏國政府ニ對シ英國ハ制裁問題ニ付何等決定ヲ見ルコトナクシテ南方側ニ要求條件ヲ提出スルコトニ同意シタルモ南方側ニ於テ之ニ応セサル場合ニ加フヘキ制裁ニ関シ予メ支那ニ於テ關係國海軍官憲ヲシテ協議ヲ行ハシムルコト適當ナルヘシ

ト信スルニ付仏国政府ニ於テモ之ニ同意ノ上必要ナル訓令ヲ發セラレ度旨交渉シタル趣ニテ英国政府ニ對シ何分ノ回答ヲ為スニ當リ先ツ以テ日本政府ノ意見ヲ承知シタキ旨訓令シ來レリト語り日本政府ニ對シテモ英国政府ヨリ右様ノ交渉アリタルヤト質ネタルニ付次官ヨリ昨日英国大使大臣ヲ來訪シタルニ付或ハ何等カ話合アリタルヤモ計リ難キニ付後刻大臣ニ尋ネタル上明日何分ノ返事ヲ為スヘシト答ヘ置キタリ

超テ十三日仏国代理大使ヲ招致シ次官ヨリ一昨日「チリ」大使大臣ヲ來訪シタル際南京事件ニ関スル制裁問題ニ付話合アリタル由ナルモ貴代理大使ノ本国政府ヨリ受ケラレタルカ如キ明確ナル申出ハ無カリシ模様ナリ其ノ点ハ扨テ置キ昨日御尋ネノ点ニ對シ日本政府ノ意向ヲ御答ヘスヘシトテ大要左ノ通り述ヘタリ

(一) 一昨十一日漸ク五国側ヨリ支那南方側ニ對シ南京事件ニ関スル要求ヲ提出シタルノミナルニ顧ミ日本政府トシテハ右要求ニ對スル支那側ノ態度ヲ見極メタル上ニテ初メテ制裁問題ニ付考慮スルコトト致度シ從テ此際ハ未タ在支那海軍官憲ニ對シ制裁問題ニ付關係国海軍官憲ト協議

(二) 「タイムリミット」ノ三点ヲ考量シタル上若シ五国公使ニシテ適當ナル「リコメンデーション」ヲ協定スル場合ニハ英国政府トシテハ出來得ル丈之ヲ支持スヘシ英国政府ハ他ノ關係国政府カ強制手段ヲ採ルコトナク支那ノ極端分子ヲシテ關係国民ニ對スル暴行ヲ繼續セシメント欲スルモノトハ信スル能ハス若シ万一ニモ不幸ニシテ斯ノ如キ事實アル場合ニハ英国政府ハ其ノ必要ト認ムル措置ヲ採ルノ自由ヲ留保セサルヲ得ス然ラ英国政府ハ共同ノ危害ノ前途ニ横タハルニ顧ミ五国一致ノ保持セラレンコトヲ最モ熱心ニ希望ス何トナレハ此ノ一致ノ保持ニ依リ始メテ平和ヲ維持シ五国ノ權利ヲ擁護スルノ望ヲ得ヘケレハナリ

459 昭和2年4月15日 在中国芳沢公使より 幣原外務大臣宛(電報)

南京事件要求に對する武漢政府回答およびその経緯について高尾總領事の報告 付記 武漢政府回答

六 南 京 事 件

※ 第四二八号

北京 4月15日後發 本省 4月16日後着

スヘシトノ訓令ヲ發スヘキ時期ニ非スト思考ス (二) 日本政府ハ日本ノ利益ヲ害スルコトナクシテ有効ナル制裁ヲ加フルノ途アラハ固ヨリ之ヲ考慮スルニ躊躇スルモノニアラス去リ乍ラ過般上海ニ於テ關係国海軍司令官カ審議シタル揚子江封鎖、吳淞砲撃、船舶差押へ等數項ノ方法ハ何レモ有効且實際的トハ認メラレス (昭和二年四月十三日出淵次官口述速記)

458 昭和2年4月14日 在中国芳沢公使より 幣原外務大臣宛(電報)

南京事件制裁問題に關する英國の積極的態度 について

※ 第四二六号 北京 4月14日後發 本省 4月15日前着

四月十四日五国会議開催英國公使ハ制裁ニ関スル本国政府來電ヲ披露スヘシトテ誑上ケタルカ其ノ要領左ノ通り 若シ陳ノ回答ニシテ不満足ナル為制裁ヲ加フルコトナル場合ニハ五国共同シテ之ヲ遂行セサル可カラサル処五国ハ先ツ(一)陳ノ回答カ受諾シ得ルモノナルヤ否ヤ(二)制裁ノ性質

漢口發本官宛電報第一八〇号

四月十四日正午陳友仁ハ本官ノ來訪ヲ求メ日本ニ對スル回答文出來上リシ旨ヲ告ケシヲ以テ本官ハ日本ヘノミ回答スル決心ナリヤ將又各國宛ノ分ノミヲ完了セリヤ本官ノミ同僚ニ無斷ニテ之ヲ受クルハ誤解ヲ招ク虞アリト述ヘタルニ陳ハ本日ノ通牒ノ内容ハ日本總領事ヨリ既ニ承知セリ然ルニ蔣介石ト打合ノ都合モアリ現狀ノ如キ不完全ナル通信機能ニ於テ三日内ニ回答スルコトハ技術的ニ不可能ナリ唯南京事件ニ顧ミ日本ノ要求ハ最理由アリト考ヘシヲ以テ真先ニ回答ヲ完成シタルニ付特ニ來訪ヲ請ヒ手交シ他国ニ對シテハ淨書出來次第本日中ニ送付スル目論見ナリシカ若シ右ノ為貴官ヲ「エムバラスト」ストセハ交渉員ヲ通シ英米ト同時ニ送付スルトスヘシ又至急回答方ニ關シテハ自分ニ於テハ最善ヲ尽セシ方ナレハ当方各國ヨリノ通牒ハ受ケ取ラズ從テ關係領事トハ絶対ニ会见セサル決心ナリ元來今次ノ通牒ハ圧制的ナルヲ以テ之ヲ逆用シ宣伝致シ度モ日本カ關係シ居ル為自分ハ沈黙ヲ守リ居ル次第ナリト云ヘルモ本官ハ兎ニ角至急英國總領事ニ對シ回答準備中ナル旨ヲ貴方ヨリ通告面会拒絶ニ基ク行違ヒヲ避ケテハ如何ト勸告シタル

ニ陳ニ於テモ之ヲ尤モナリト同意シタルカ本官ハ回答文ヲ受取ラス其儘引取りタリ

(本官会見ハ陳ヨリ絶対極秘トセラレタキ旨ヲ申入レアリタルニ付本官モ亦望ム処ナレハ承諾シ置ケリ)

右回答ハ二時十五分ノ領事會議ニ赴ク途中交渉員ヨリ受取リタルカ既ニ会合セル各総領事ニ於テモ受取り済ミニシテ米國總領事ハ之ヲ本官ニ示シ本官ニ於テ受取りシヤト質ネタルモ車中ニテ一読セシ日本側ノモノト多少(脱約十語)<sup>(註)</sup>回答ハ別電第一八一号ノ通ナル処第二及第三項ハ日本側ニ特殊ノ条項ニシテ第二項ニ於テハ日本カ外交交渉ニ依リ本件ヲ解決スル意ナルヘキ旨ヲ述ヘ第三項ニ於テハ日本ノ過去ニ顧ミ支那革命ヲ阻碍セサラムコトヲ希望シ居レリ要求条件ニ関シテハ領事館及在留民ノ傷害及損害(北軍又ハ英米砲撃ニ依ルモノヲ除ク)ノ賠償ヲ承認シ処罰及謝罪ニ関シテハ國民政府又ハ國際共同調査ノ結果ヲ待テ処理シタキ旨ヲ提議シ(領事館ノ襲撃ニ付テハ重ネテ陳謝セリ)暴行及煽動ノ防止ニ関シテハ文書ニ依ル保障ノシナラス其ノ実行方法ニ付革命軍軍憲ニ訓令スヘシヲ述ヘ居リ(英米總領事ハ大体ニ於テ予期セルヨリハ満足ナル回答ナリトノ意見

known to international law for the amicable settlement of State differences. The Minister for Foreign Affairs has to point out that the Japanese Government have not previously communicated with him on the subject and that therefore he must read the note under reply as initiating a diplomatic negotiation for the prompt friendly settlement of whatever grievances and losses may have been sustained by Japanese nationals as a result of the disturbances at Nanking on the 24th March last.

III. Relying on Japanese comprehension of the history of the forces which today are operating in China just as similar forces operated in Japan within the past half century and emancipated her from the servitude of the unequal treaties, the Minister for Foreign Affairs indulges in the hope that the Japanese Government in their common vital interests will refrain from taking part in any action or measure in the present situation calculated to interfere with the ex-

ナリ)最後ニ不平等条約ニ言及シ之ニ基因スル問題ノ解決方ニ関シ日本政府代表ト商議スル用意アル旨ヲ付言セリ(海軍無線経由)

編注 別電第一八一号見当らず、依て参考のため英外交文書より採録付記す。

(付記)

*Text of Mr. Chen's reply to the Japanese Consul-General. Hankow, April 14, 1927.*

I. THE Minister for Foreign Affairs of the Nationalist Government is in receipt of the Japanese Government's note dated the 11th April, 1927, formulating terms "for the prompt settlement of the situation caused by the outrages against Japanese nationals committed by the Nationalist troops at Nanking on the 24th March last."

II. As it is hardly credible that the Japanese Government can at the outset desire a settlement of the Nanking incident other than through one of the means

tension of Nationalist authority and power and the early unification of a whole China.

IV. In reply to the Japanese terms calling for "complete reparation for the personal injuries and material damage done," the Nationalist Government are prepared to make good all damage done to the Japanese consulate at Nanking on the ground that whether or not such damage was caused by Northern rebels and others as stated in the preliminary statements issued by the Nationalist Government on the 31st March last, the fact remains that the consulate of a friendly Power on Chinese territory has been violated. As regards reparation for the personal injuries to British nationals and other material damage done, the Nationalist Government are prepared to make all reasonable necessary reparations except in cases where it can be definitely proved that the same have been caused by the British-American bombardment of Nanking on the 24th March, or by Northern rebels and *daggen ts provo-*

*catours.*

V. The demand for "adequate punishment for commanders of the troops responsible for the murders, the personal injuries and indignities and material damage done as also of all persons found to be implicated," necessarily assumes the guilt of the Nationalist forces who captured Nanking. While this guilt is contradicted in the preliminary statement issued on the 31st March, a rigid Government enquiry is being conducted in order to ascertain the exact facts of the case, including verification of the outstanding fact reported to the military council by General Cheng Chien, who took Nanking, that his forces rounded up and captured approximately 30,000 Northern soldiers with rifles, besides thousands of camp followers, inside the city of Nanking itself. General Cheng Chien has also reported that a number of those implicated have been executed. The Nationalist Government propose that the question of punishment should await the findings

to him that the Japanese consulate at Nanking had been attacked.

VII. The Nationalist Government, as a responsible governing body, naturally cannot countenance the use, in any form, of violence and agitation against foreign lives and property; indeed, the protection of foreign lives and property has been repeatedly declared to be the settled policy of the Nationalist Government. The proper authorities of the Nationalist army will, of course, be instructed not only to give a written undertaking in this sense, but to see that effective measures are taken to afford proper protection to foreign lives and property.

VIII. The Nationalist Government, however, would be lacking in candour if they should fail to declare and emphasise that the best guarantee for the effective protection of Japanese and other foreign lives and property in China lies in the removal of the fundamental cause of the present trouble between Nation-

of either the Government enquiry now in progress or of an international commission of enquiry to be immediately instituted by the Nationalist Government and the Japanese Government.

VI. The demands for an apology in writing from the Commander-in-chief of the Nationalist army, including an express written undertaking to refrain from all forms of violence and agitation against foreign lives and property, is, so far as an apology is concerned, justified only on the proof of Nationalist guilt for the disturbances at Nanking. The Nationalist Government, therefore, propose that question of apology should also await the determination of the question of guilt either by the Government enquiry now in progress or by the proposed international commission of enquiry. In the meantime, the Nationalist Government hereby repeat the expression of profound regret which the Minister for Foreign Affairs communicated to the Japanese Government directly it was reported

alist China and the Powers who continue to sustain the regime of the unequal treaties. It is these inequitable treaties that constitute the chief danger to foreign lives and property in China, and this danger will persist as long as effective government is rendered difficult by foreign insistence on conditions which are at once a humiliation and a menace to a nation that has known greatness and is today conscious of renewed strength. The Nationalist Government accordingly are prepared and ready to appoint delegates to negotiate with delegates of the Japanese Government a satisfactory settlement of issues and differences pending between Nationalist China and Japan on terms which, while assuring the legitimate interests of the latter, shall modernise international intercourse between the two countries and define and work out their mutual interests and relations on a basis of equality and reciprocity.

460 昭和2年4月15日

在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

武漢政府の回答に関する五国会議の議事につ

いて

別電一 四月十五日付在中国芳沢公使より幣原外務大

臣宛第四三五号

国民政府に対する第二次通牒案

二 四月十六日付在中国芳沢公使より幣原外務大

臣宛第四三六号

国民政府に対する第二次通牒及び声明案

北京 4月15日後発

本省 4月16日前着

※  
第四三四号

本使宛高尾来電第一(四五九文書)  
一八〇号ニ関シ

四月十五日五国会議ヲ開キタル処他ノ四国ハ陳ノ回答ハ全  
部四国公使ノ手許ニ到着シタルモ我方ニ対スル回答ハ無電  
ノ關係ニテ未タ接到セサルニ付四国宛ノ回答ニヨリ討議シ  
タル処各公使トモ今回ノ要求条件ハ要スルニ主義上ノ基礎  
的要求ニシテ漢口政府ニ於テ無条件ニ之ヲ承認シテ初メテ  
具体的交渉ニ入ルノ誠意アルト認ムヘキモノナル処今回ノ

sented in identic notes certain terms for the prompt  
settlement of the situation created by the outrages  
against their nationals committed by the Nationalist  
troops at Nanking on 24th March.

To these identic notes the Nationalist Authorities  
have not returned on identic reply, but have answered  
each representative separately and in varying terms,  
calculated rather to serve propagandist ends than to  
terminate the incident which has arisen. Not one of  
the demands made has been accepted unequivocally by  
the Nationalist Authorities. Reservation has been  
attached to the acceptance of each one.

The terms presented in the identic notes of 11 April  
were not proposals open to discussion, but the basic  
demands which, the Power concerned are determined,  
shall be carried out.

Only after the Nationalist Authorities have signified  
with a plain and unqualified affirmative that they are  
prepared promptly and completely to comply with

六 附 片 事 件

回答ヲ各国毎ニ能ク吟味スルニ各要求条件毎ニ何等カノ言  
ヒ懸リヲ付シアリ之ニテハ具体的交渉ニ入ルコト困難ト認  
メラルト言フニ意見一致シ其結果別電第四三五号及第四三  
六号ノ通り夫々本国政府ニ稟議スルコトニ決定セリ尤モ本  
使ハ我方ニ対スル回答ハ未着ナルヲ以テ確定的意見ハ之ヲ  
留保シ置キタル次第ナルカ漢口来電第一(四五九文書)  
一八〇号ニ依レハ我  
方宛回答ノ他国側ニ対スル回答ト異ナル点ハ第二項及第三  
項ニシテ其ノ他ノ各項ハ大体他国宛ノ分ト異ナル所ナル  
ヘク從テ共同電稟ニ加ハルコト差支ナキヤニ存ス就テハ本  
使宛第一八一号高尾来電接到次第直ニ閣下ニ転電スヘキニ  
付至急御考究ノ上別電ニ対シ何分ノ御電訓ヲ仰ク

(別電一)

Peking, April 15th p. m.

Rec'd, April 16th a. m.

Gaimudaijin, Tokio.

※  
No. 435

“On 11 April the representatives of the American,  
British, French, Italian and Japanese Governments pre-

these terms can any discussion regarding details take  
place.

Unless, therefore, the Nationalist Authorities state  
unequivocally and without delay that they intend to  
proceed to the integral fulfilment of the terms present-  
ed, the Governments concerned will be obliged to  
concert such measures as may be necessary to obtain  
compliance.”

Yoshizawa.

(附 片 11)

Peking, April 16th a. m.

Rec'd, April 16th a. m.

Gaimudaijin, Tokio.

※  
No. 436

After careful examination of the notes to their respec-  
tive consuls from the Nationalist authorities in reply  
to the identic demands of April 11, the five interested  
diplomatic representatives find themselves in complete

accord in the conviction that the replies are wholly unsatisfactory and unacceptable. They constitute a transparent manouver designed to stultify the demands by producing delay on disunion among the five interested Powers. The notes do not meet the demands, but attempt to obscure by irrelevant matters the plain issue of amends for the Nanking outrages.

The sole point in which they profess to accede to the demands, that is in the assurance of proper respect for the lives and interests of the foreign nationals, is based upon protestations of Nationalist policy, with regard to that policy experience has shown the danger of reliance upon the Nationalist authorities dominated as they are by communist influences whose activities are directed towards delaying indefinitely any such adjustment of difficulties as the Powers have been honestly seeking, and making impossible the continuance of normal friendly relations between China and the foreign Powers. Within Nationalist territory,

the American and British Governments have found it necessary to withdraw their nationals to place where they can be protected or evacuated under cover of force; and in somewhat less degree the same is true of the French, Italian and Japanese Governments.

In Hankow itself, the capital of the Nationalist regime, practically all foreign business has been compelled to close and all foreigners forced to leave except a small number enabled by the protection of naval force to remain through under precarious conditions. And even in the notes themselves the assurance of protection for foreigners is qualified by the veiled threat contained in their relevant reference to the so-called unequal treaties as constituting still a danger to foreign lives and properties in China.

The five diplomatic representatives are absolutely clear in their own minds that an attempt to negotiate or argue on the basis of these notes would merely play into the hands of an unscrupulous dialectician

who does not himself possess either the authority or the power actually to conduct these negotiations in good faith, but who is a mere tool of the Soviet influences now dominant at Hankow, and who under such influences has set himself to evade and obscure the one vital issue while making the discussions a means of further anti-foreign propaganda. They therefore join in recommending to their respective government that they be authorized to present to Eugene Chen through their respective Consuls identic notes of the following tenor:

We also recommend that simultaneously with the presentation of this note the several governments should make, and that the Ministers be authorized jointly to make public in China statement based on the above.

Yoshizawa.

め武漢政府の対日方針発表見合せ方高尾総領

事ノ転電ニツツ

本省 4月16日後發

※ 第一七八号

在支芳沢公使宛番号第二〇五号

漢口ノ転電アリタシ第五四号

(四五六文書)  
貴電第二〇二号ニ関シ

(一) 陳ニ於テハ列国ノ同文通牒ニ対シ各個回答ノ方針ヲ執リ殊ニ英米ト日本トヲ分離シ日本ト結ビテ局面ノ転回ヲ図ラムトスルモノノ如クナル由ノ処今次ノ事件ニ関シ我方ニ於テ共同交渉ノ方針ヲ定メタルハ支那時局ニ対スル大局上ノ考慮ニ基クモノニシテ即チ今次革命ノ暗黒面カ時ニ勢ヲ占メ治安ノ乱レタル際列国ト利害ヲ同シウスル問題ニ付テハ出来得ル限り列国協調ニ依リ我權利擁護ノ目的ヲ貫徹スルニ力メ同時ニ之ニヨリテ支那側ノ統制ナキ暴行ニ付深甚ナル反省ヲ促シ治安ノ維持ト共ニ国民運動ノ真目的ニ邁進セシムルノ機会ヲ与フルニ在リ加之最近改善セラレタル日支国民ノ親交關係ニ鑑ミ目下ノ昂奮セル列国ト紛糾セル支那トノ間ニ介在シ両者ノ衝突ヲ阻止

シ調停ヲ計リ之ヲ善導シテ政情ノ安定ヲ計ルコト最肝要ナリト思考ス

(二)右方針ニ基キ南京事件ヲ考量スルニ

(イ)本件ハ列国ニ対シ同時ニ同様ニ計画的ニ行ハレタル重大ナル排外的暴行ニシテ其ノ性質上当然列国共通ノ問題ニ属シ当然共同ノ交渉ヲ要スルモノナルノミナラス本件交渉ニ際シテハ列国共同ノ措置ニヨリ嚴肅ナル態度ヲ示スコト事態ノ重大ナルヲ自覚セシムル上ニ於テモ必要ナリト思考ス

(ロ)尤モ在支英米官憲ニ於テハ兎角激昂ノ傾アリ殊ニ英國側ハ本件ニ付テモ動モスレハ過大ノ要求ヲ為シ強硬ナル制裁ヲ主張シ事件ヲ紛糾セシムル虞アルヲ以テ我方ニ於テハ共同交渉参加ニ依リ緩和ノ機会ヲ得本件ノ解決ヲ容易ナラシメムコトヲ密ニ希望シ居ル次第ナリ右我方ノ苦衷ハ今次列国間ノ交渉ニ於ケル我方ノ態度殊ニ抗議原案中ヨリ「タイムリミット」ヲ削除セシメタルニ依リテモ御推知ニ難カラサルカ右ノ外制裁問題ニ付我方ニ於テ屢次往電殊ニ在支公使宛往電第一六八号ノ通り列国側ニ対シ特ニ慎重ナル態度ヲ持シ居レルモ亦此辺ノ考慮ニ出ツ

## 六 南 京 事 件

ノ歴史ニ徴シ多クノ革命ニ伴フ暗黒面ニ対シテモ努メテ隠忍ノ態度ヲ持シ今日ニ至レルカ外國人ヲ目標トスル暴行掠奪殺傷ノ頻発ニヨリ暗黒面力遂ニ光明ノ目的ヲ掩ハムトスル昨今ノ事態ニ至リテハ痛切ナル失望ヲ禁スル能ハス国民政府ニ於テモ自ラ此ノ暗黒面ヲ抑止除去シ国民運動ノ真目的ニ邁進スルコトニ深甚ナル反省ヲ要スルノ時期ナリト信ス而モ南京事件ニ至リテハ其暴虐言語ニ絶スル重大ナルモノナルニ拘ラス日本ハ昂奮セル列国ヲ宥メ其ノ要求条件モ抗議ノ形式モ寛大ナラシメタルコトヲ指摘シ国民政府側ノ面目ヲ著シク毀損セスシテ事件ノ解決ヲナスノ機会ヲ与ヘタルモノナルコトヲ説明セラレ大局ノ通觀ヲ誤リ事態ヲ紛糾セシムルヨリハ速ニ列国側ノ要求ヲ容レテ国民政府ノ誠意ト実力トヲ示スノ肝要ナルコトヲ力説セラレ度

(五)尚從來支那革命運動ニ対スル我カ朝野ノ同情ハ如何ニ切ナルモノアリト雖モ南京事件ニ次クニ漢口事件ヲ以テシタル今日國論ノ激昂ヲ緩和スルニハ先ツ以テ本件ノ迅速解決ヲ図ルコトノ急務ニシテ之ニ先チ貴電第二〇三号國民政府ノ対日方針発表ノ如キハ却テ南京事件解決遷延ノ

ルモノナリ

(三)就テハ貴官ハ以上ノ方針ヲ体シ陳ニ於テ本件ニ関スル英米側ノ砲撃云々ニ藉口シテ個別交渉ヲ主張スル場合ニハ南京領事及我海軍ノ報告並當時ノ事態ヨリ推スニ南軍カ居留民ノ集團セル領事館ヲ暴力ヲ以テ襲撃セルニ際シ之カ保護ノ為英米軍艦ニ於テ一種ノ掩護射撃ヲ行ヒ其ノ襲撃ヲ阻止セルハ自衛上乃已ムヲ得サルノ措置ニ属シ日本ハ領事館ノ所在ノ遠隔ナリシ結果救援ノ為決死隊ノ突進ノ外保護防衛ノ途ナカリシナリ斯ル緊急保護方法ニ付砲撃ヲ行ヒタルト否トノ差異アリタリトテ支那側ノ無道ナル暴行ニヨリ列国側ノ蒙リタル重大ナル侮辱及被害ノ性質ニ何等ノ差異ヲモ生セサル旨説明シテ可成英米側ノ立場擁護ニ努メ日本ハ人道上将又支那側ノ無責任ナル裏面ノ勢力ニ深甚ナル反省ヲ促カス為ニモ列国ト共同ニ支那ニ抗議要求セサルヲ得サル旨説述セラレ度

(四)或ハ貴官ノ裁量ニテ機ヲ見テ陳ニ対シ寧ロ内談ノ形式ニテ右(三)ノ共同要求抗議ノ理由ヲ説明セラルルト共ニ前記(二)ノ(ロ)我方ノ苦衷ヲ懇説シ尚日本政府ハ國民運動ノ公明ナル目的ニ対シテハ满腔ノ同情ヲ表スルモノニシテ世界

為支那ノ慣用手段タル夷ヲ以テ夷ヲ制スル苦肉策ナリトノ誤解ヲ招キ更ニ我國論ヲ沸騰セシムルノ意外ナル結果ヲ齎ラスヘキコトヲ懇説セラレ発表見合せ方此上共努力アリ度

462

昭和2年4月19日 在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

南京事件要求貫徹のための制裁措置に関する  
英国政府提案について

別電 四月二十日着在中国芳沢公使より幣原外務大臣

宛第四五五号

右英国公使宛電訓

北京 4月19日後発  
本省 4月19日後着

※  
第四五四号

四月十九日五国会議ヲ開キ英国公使ヨリ別電第四五五号ノ如キ趣意ノ本國政府電訓ニ接シタル旨ヲ披露シ又伊國公使ハ本國政府ヨリ共同電稟ニ同意ノ旨昨日電訓ニ接セル趣ヲ述ヘタリ

(別電)

Peking,  
Rec'd, April 20 a. m.

Gaimudajin, Tokio.  
\*No. 455.

Joint recommendation for the proposed identic replies to Chen presupposes that the governments approving despatch of the reply in these terms are prepared in the last resort to concert active measures to enforce their demands by the application of sanctions.

On the understanding that this is the view and intention of the other governments concerned and that they will all instruct their respective Ministers at Peking to reply in these terms to Chen through their Consuls at Hankow, you are authorized to join this step.

I am instructing British ambassadors at Paris, Rome, Washington and Tokyo to make communication to four governments and to express at the same time the hope of the British government that these govern-

ments will give similar instruction to their Ministers in Peking.

Yoshizawa.

463 昭和2年4月21日 田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

南京事件要求貫徹のための制裁措置に関する  
英国政府の覚書提出および撤回について

本省 4月21日後発

\*第二一六号

十九日在本邦英国大使館参事官出淵次官ヲ来訪シ(四六〇文書)  
貴電第四  
五五号ト同趣旨ノ覚書ヲ手交シタルカ二十日ニ至リ本國政  
府ヨリ本件措置見合方訓令ニ接シタル趣ヲ以テ右覚書ヲ撤  
回セリ

464 昭和2年4月21日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

武漢政府に対する第二次通牒案を至急承認方  
について

北京 4月21日後発  
本省 4月22日前着

第四六一号  
往電(四六〇文書)  
四三四号ニ関シ

其後時局發展シテ南京ニ第三政府ノ出現ヲ見ルニ至リタル  
ヲ以テ本使ハ此形勢ニ顧ミ南京ニ於ケル軍隊ニ対シ最早実  
権ヲ有セサル漢口政府ト交渉スルモ法律上ノ「フィクショ  
ン」ハ別問題トシテ實際上ニ於テハ責任者ノ処罰等ハ不可  
能トナリタルヤニ感セラレタルヲ以テ此辺ノ事情ニ顧ミテ  
此際今後ノ方針ニ関シ關係同僚トノ間ニ一応意見ノ交換ヲ  
遂クルノ必要ヲ認メ四月二十日四公使ヲ招キ右ノ事情ヲ指  
摘シテ其意見ヲ徴シタル処四公使ノ内ニハ或ハ「フィクシ  
ョン」ニ重キヲ置キ過クル者アリ又此ノ際既定ノ方針ヲ変  
更シテ漢口政府トノ交渉ヲ止メ直チニ蔣介石ト交渉ヲ開ク  
カ如キハ時局尚早ナリト為ス向モアリ本使ハ右ニ説ノ内前  
者ニ対シテハ其理論ニ偏シテ實際ニ適セサル所以ヲ説キテ  
反駁シ後者ニ対シテハ同感ヲ表シ置キタルカ結局五國公使  
ノ意見トシテハ此際一日モ速ニ往電(四六〇文書)  
第四三三六号ノ如キ通牒  
ヲ發送シテ事態ノ發展ヲ見ルコトトスヘク其内ニハ漢口南  
京両政府ノ間全然無關係ナルヤ否ヤ判明スルニ至ルヘシト  
云フニ帰着シタリ就テハ御親任早々御多忙ノ次第拝察スル

処ナルモ二十日ノ會議ニ於テ仏國政府同意ノ旨ヲ同國公使  
ヨリ披露アリタル次第第二モアリ即チ英仏伊ノ三国同意済ナ  
ルニ顧ミ帝國政府ニ於テモ至急承認ヲ与ヘラルル様致シタ  
シ

465 昭和2年4月22日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

米國政府の対武漢政府共同通牒不参加をめぐ  
る四國公使會議について

別電一 四月二十二日付在中國芳沢公使より田中外務  
大臣宛第四六九号  
在中國米國公使に対する右米國政府の訓電  
二 四月二十二日付在中國芳沢公使より田中外務  
大臣宛第四七〇号  
在中國英國公使に対する英國政府の訓電

北京 4月22日前発  
本省 4月22日前着

第四六八号  
貴電(四六三文書)  
第二一六号ニ関シ

四月二十一日米國公使来訪本國政府ヨリ別電第四六九号ノ  
如キ電訓ニ接シタリト茫然自失為ス所ヲ知ラス「was

amazed and at a loss. 卜述ヘタルニ付本使モ之ヲ一読シテ喫驚シタルカ米国公使ハ直ニ更ニ英国公使ヲ訪問談合シタル結果英国公使ヨリ五国公使会議ノ開催ヲ要求シ来リタル為二十一日夜当館ニ於テ五国公使會議ヲ開キタル処(仏国公使ノミハ所在不明ノ為来会セス)先ツ米国公使ヨリ英国公使ニ別電第四六九号ヲ説明シ本使ヨリ貴電第二一六号<sup>(四六三文書)</sup>ノ次第ヲ説明シタル処英国公使ハ同国政府ヨリ別電第四七〇号<sup>(四六〇文書)</sup>ノ如キ電訓ニ接シタル旨ヲ披露シ且同国政府ノ意見ニテハ往電第四三五号<sup>(四六〇文書)</sup>陳友仁宛通牒末段ノ「センテンス」ニ対シ五國中ノ一個国タリトモ異存アル場合ニハ列国間ノ協調ヲ維持スル為暫ク制裁問題ヲ差措クコトトシテ右「センテンス」ヲ削除シ差支無シトノコトナル旨披露シタル後四公使ノ間ニ協議ヲ重ネタルカ別電第四六九号ニ依レハ米国公使ハ陳友仁ト此ノ上交渉ヲ為スノ必要ナルカ又ハ賢明ナリト認メタル場合ニ發送スヘキ回答ヲ考量中ナリトノコトニテ今後此上交渉ヲ為ササルヤモ計リ難ク少クトモ差当リ英仏伊三国政府ノ賛同シタル回答案ニ参加セサルハ勿論英國政府ノ意見ノ如ク最後ノ「センテンス」ヲ削除スルコトトナルモ米国公使ハ之ニ参加セサルコト明白トナリタル次

The American Government is not at this time prepared either to apply sanctions or to commit itself on the question of sanctions having regard to the divergence in the texts of the replies made by Chen to the respective power. This Government feels that each country should make its reply separately these replies to be identical only as regards those matters in which the interests of all the Powers are the same. This Government has under consideration a form of reply which might be used in case it should deem necessary or wise to discuss the matter further with Chen.

Yoshizawa.

(別電一)

Peking, April 22nd, a. m.

Gaimusho, April 22nd, a. m.

Gaimudajin, Tokio.

六 南 京 事 件

No. 470.

第ナルカ本使及英国公使ハ米國ニシテ万一交渉ヲ繼續セサル場合ニ於テモ日本(又ハ英國)ハ南京事件ヲ有耶無耶ニ付スルコト能ハサルヘシト述ヘタル上明朝更ニ仏国公使ヲモ加ヘ協議ヲ繼續スルコトト為セリ米國公使ハ非常ニ失望セルモノノ如ク終始首ヲ垂レ明日ノ會議ニハ自分ハ出席ノ必要ナカラント述ヘタルモ本使ハ其ノ然ラサルヘキ旨ヲ説キ是非出席方ヲ求メ置キタリ

(別電一)

Peking, April 22, a. m.

Rec'd, April 22, a. m.

Gaimudajin, Tokio.

No. 469.

This Government does not approve of your joining in the identic notes recommended in your telegram of April 15th. The concluding sentence of the draft note suggested in your telegram contains a specific threat of the application of sanctions in the event that the Nationalist authorities should not meet the demands.

I approve the proposed terms for reply to Chen. You are authorized in concert with your colleagues to present joint or identic notes and to make any minor modifications required to secure agreement.

I continue to assume that the five Powers will insist on the full terms which all were agreed to in presenting but the character of the sanctions to be applied in case of necessity can be discussed among us.

Yoshizawa

466 昭和2年4月22日

在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

五国公使會議にて米國を除く四國は武漢政府

第二次通牒承認の意向に付て

北京 4月22日後發

本省 4月22日後發

第四七二号

往電<sup>(四六五文書)</sup>第四六八号ニ関シ

四月二十二日五国会議ヲ開ク米國公使ハ自分ハ本国政府ノ訓電ニ願シ協議ニ加ハルコト如何カト思ハル旨又々申出

テタルニ付本使ハ仮令決定ニ加ハラストスルモ是迄ノ通矢張り會議ニ列席シテ討議ノ經過ヲ米國政府ニ報告セラレ同政府ヲシテ常ニ討議ノ模様ヲ承知セシメラレ度蓋シ今後ノ事態發展如何ニ依リテハ又々同政府ニ於テ共同措置ニ加ハルコトアルヤモ凶リ難キヲ以テナリト述ヘタル処英國公使ハ全然同感ノ意ヲ表シ仏、伊兩國公使亦之ニ共鳴シタル為米國公使モ大ニ感動シタルモノノ如ク同公使ハ本使ニ対シ貴公使ノ言ハ大イニ自分ヲ「チイヤ、アップ」シタリト述ヘ其儘協議ニ加ハリ居タリ夫レヨリ各公使ノ間ニ意見ヲ交換シタル結果仮令米國政府ノ参加ヲ見サルモ南京事件ノ如キ重大案件ハ之ニ相応スル解決ヲ計ル必要アル以上我々四公使ノ関スル限り四國政府トシテハ從來ノ方針ニ依リ進ムコトトシ又陳友仁宛公文末段ノ「センテンス」モ必スシモ今直ニ制裁ヲ加フルコトヲ意味スルトモ解釈スルノ必要モナキ次第ニ付總テ原案ノ儘採用方各本國政府ニ電稟スルコトニ協定シタリ就テハ英、仏、伊三國ハ五國共同措置ノ場合ニ異存ナカリシニ顧ミ四國トナリタル場合ニモ亦異存ナキモノト推定セララルルニ付帝國政府ニ於テモ速ニ承認ヲ与ヘラルル様希望ス

同様南京事件ニ関シ其ノ実行ヲ迫ルヤ其ノ場合ニハ陳友仁ト列國トノ交渉ハ如何トナルヤ

依ツテ本官ハ

一、ニ就テハ新内閣成立間際ニテ未タ其ノ對支政策ニ関スル何等訓令ヲ得居ラサルヲ以テ何トモ言明シ難キモ本官一個人ノ觀測ニ依レハ直チニ政策ノ根本的變更ヲ為シ若ハ安國軍ノ援助ヲ開始スルカ如キコトアルヘシトハ想像サレス其ノ点ハ杞憂ニ過キササルヘシ又強硬政策云々ハ新聞紙上ニ散見シ居ルモ具體的ニ如何ナルコトヲ意味スルヤハ本官言明ノ限リニ非ス其ノ内對支政策ノ「アウトライン」ニ付聲明アルヘシト答ヘ

二、「サンクシヨン」ニ就テハ自分モ知ラス然シ英國ハ最近有力ナル軍艦二隻米國ハ一隻ヲ急遽漢口ニ溯江セシメタルハ此際意味深キ様觀察セラル然シ之ハ単ニ自分ノ想像ナリ何等根拠アルモノト思ハレテハ迷惑ナリト答ヘ

三、南京政府ノ樹立ニ就テハ自分トシテ其基礎確立シ行キ外國人ノ生命財産ノ保護共產党ノ取締等ヲ充分実行セラルルコトヲ希望ス列國中南方支那ニ於ケル總テノ実力者ヲ覆ヘサムトスルモノハ一國モ非サルヘク要ハ其國民カ

467

昭和2年4月22日

在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

田中新内閣の中國政策に関する郭交渉員の質疑について

上海 發

本省 4月22日後着

※  
第六四二号

南京ヨリ帰來セル郭交渉員ヨリ内密ニ相談致度キ件アリトテ二十一日夜來訪左ノ如キ質問ヲナシタリ

一、日本ノ新内閣成立ト同時ニ張作霖ハ非常ニ喜ヒ居リ何事ヲカ期待シ居ル模様ナルカ果シテ新進外交ノ方針ハ奉天援助ヲ為スニアルヤ世間ハ新内閣成立ト共ニ強硬政策ヲ執ルモノト期待シ居レルカ其ノ強硬政策トハ如何ナルコトナルヘキヤ

二、世間ノ謂フ処ノ五國政府ノ執ラントスル「サンクシヨン」トハ如何ナルコトヲ意味スルヤ又之カ実行ハ南京、漢口兩地ニ対シ同時ニ実行サルル次第ナルヤ

三、南京國民政府カ此際外交部長ヲ任命發表スルトセハ列國ハ如何ナル態度ヲ執ラルルヤ即チ武漢政府ニ對スルト

正当ナル業務ニ従事シ條約上与ヘラレタル權利利益ヲ享有シ得ル程度ノ秩序ヲ為シ得ル有力者アリ從テ經濟的原則其他ニ就キ共同ノ基礎ニ於テ話ノ出来ルモノナラハ其權力者ヲ相手トシテ交渉シ其實力ノ充實ヲ希望スルハ当然ナルヘシ

外交部長任命ノ南京事件交渉ニ及ホス影響ニ就テハ事頗ル機微ノ問題ニシテ只今何トモ意見ヲ表示シ難キニ依リ前掲本官ノ所言ニ依リテ推察セラレ度シト答ヘ置キタリ

468

昭和2年4月22日

田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

仏國臨時代理大使による南京事件第二次通牒

案に対する仏國側意見表明について

本省 4月22日後發

※  
第二一九号

二十日在本邦仏國代理大使出淵次官ヲ來訪シ本國政府ヨリ大要左ノ通ノ電訓ニ接シタルコトヲ内話シ日本政府ノ意向ヲ承知シ度旨申出テタリ

仏國政府ハ南京事件ニ関シ在漢口五國領事ヨリ陳友仁ニ送付スヘキ

第二回公文案並公表文案ニ対シ左ノ方針ニテ承認ヲ与フル意向ナリ

一、右第二回公文送付ノ場合陳ハ恐ラク満足ナル回答ヲ与ヘサルヘシト思考セラルル処其ノ際進テ如何ナル措置ヲ取ルヘキカニ付在支仏国公使ニ於テ他關係国公使ト協議スルコトハ之ヲ承認ス但何等カノ措置ヲ執ルコトニ決ストスルモ之カ実行前予メ仏国政府ノ承認ヲ経ルコト

二、仏国政府ハ右ノ措置ニ付關係国政府一致シテ同意スル場合ニ限り其実行ニ参加スルコト

仏国政府ニ於テハ目下蔣介石カ共產党弾圧ニ努力シ居ル態度ヲ同情ヲ以テ迎フルモノナリ從テ南京事件解決ノ為何等強硬手段ヲ必要トスル場合ニモ蔣ニ対スルト武漢政權ニ対スルトハ自ラ手心ヲ異ニスルコト得策ナリト思考ス

右申出ニ対シ次官ヨリ本件ニ関シテハ英国大使ヨリモ申出ノ次第アルモノ内閣更迭中ノ此ノ際ナレハ此ノ種重要問題ニ付本日ハ何等公式ノ挨拶ヲ為シ得サルモ全然一個ノ私見トシテハ所謂制裁ナルモノニ付今日迄別段有効且実行可能ナルモノヲ耳ニシタルコト無ク武漢政權ニ対シテモ如何ナル

ルニ右ハ陳ニ対シ貴電第四三五号同文通牒ヲ送り同時ニ右共同電稟並通牒ニ基ク声明書ヲ發表スル趣旨ト解セラルル処果シテ然ラハ武漢政府ニ於テ右通牒ニ屈服セサル限り列國側トシテハ茲ニ同政府トノ交渉ヲ打切り(イ)直チニ制裁手段ニ移ルカ又ハ(ロ)国民軍總司令部側トノ間ニ解決ヲ計ル等局面転回策ヲ講スルノ要アルニ至ルヘシ

(四六五文書)

貴電第四六八号ニ拠レハ右交渉打切り後直チニ制裁手段ニ

移ルヘキヤニ就テハ米國ハ日本ト同様反対ヲ表明シ仏モ微

温的態度ヲ示シ英モ亦此ノ際之ヲ差控フルコトナレリ右

ノ結果引続キ武漢政府ト交渉スヘキヤ或ハ交渉ヲ打切り南

京政府トノ交渉ニ移ルヘキヤ慎重考慮ヲ要スル時期ニ達セ

リ元來我方トシテハ実力ナキ無責任者ノ集合タル武漢政府

ニ依リ本件ノ迅速解決ヲ期シ得ヘシト思考シ居ラサリシヲ

以テ曩ニ貴官ノ主張通り本件交渉ノ相手方トシテハ總司令

部一派ヲ主トシ武漢政府ヲ從トセムコトヲ希望シタル次第

ナルカ列國協調ノ保持並迅速通牒發送ノ見地ヨリ交渉相手

方ニ拘泥セサリシコト御承知ノ通りナリヤ今ヤ国民党内部

ニ於ケル總司令部派ト武漢派トノ分裂顯著トナリ前者ニ於

テハ列國ト武漢政府トノ交渉不調トナリ同政府外交部長ノ

## 六 南 京 事 件

強硬手段ヲ加フレハ彼等ヲ屈服セシメ得ヘキカ容易ニ名案ナキカ如ク結局蔣介石一派ニ同情的態度ヲ以テ臨ミ其ノ地位ヲ徐ロニ強固ナラシメ彼等ヲシテ武漢共產派ヲ圧迫セシムルノ大体方針ニ出ツルコト得策ナルヘク長江方面ノ事態定マラハ蔣一派ヲシテ南京事件ヲ始末セシムルコト必シモ不可能ナラサルヘク何レノ途此ノ際陳友仁ヲ相手ニ一挙ニ本件解決ヲ図ラムトスルカ如キハ實際的ニ非サル様思考スト述ヘ置キタリ

469 昭和2年4月23日 田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

### 南京事件第二次通牒案修正提議方について

別電一 四月二十三日付田中外務大臣より在中国芳沢

公使宛第二二二号(甲号)

右修正事項について

二 四月二十三日付田中外務大臣より在中国芳沢

公使宛第二二三号(乙号)

声明書案について

本省 4月23日後発

### 第二二二号

(四六〇文書)

貴電第四三四号ニ関シ貴電第四三六号共同電稟末段ニ徴ス

發言權威ヲ失墜スレハ自ラ其ノ態度ヲ宣明シ責任ヲ以テ本件ノ解決ニ着手スルノ意向ヲ有スル旨ヲ漏シ居レルノミナラス其ノ後武漢政府ノ統制ヲ脱シテ南京ニ獨立政府ヲ建設スルノ運ヒニ至レリ故ニ列國側トシテハ此ノ形勢ヲ善導シ南京政府ニ本件解決ノ機会ヲ与フルコト可然從テ此際武漢政府ノ態度ヲ見極ムル為今一応同政府ニ通牒ヲ發シ其ノ応否ノ回答ヲ求ムルコト必要ナリト思考ス

上記ノ見地ヨリ共同電稟並通牒案ヲ按スルニ支那側回答文中不当ノ点ヲ指摘セス又駁スヘキヲ駁シ居ラサルノミナラス挑発若ハ強迫ニ類スル語句ヲ有スルヲ以テ右公表ノ結果ハ支那側ノ回答ト対照シ世界各国国民殊ニ支那一般人民ヲシテ列國側ノ主張ヲ充分諒解セシムルニ由ナク徒ラニ武漢政府側ノ逆宣伝ニ利用セラレ列國側ノ立場ヲ著シク不利ニ陥入ルルノ虞ナシトセス加之交渉打切後南京政府ニ問題ヲ移ス場合ニモ右通牒案ニテハ之ヲ承認セムトスル南京政府ニ於テモ列國ノ強迫ニ屈服セリトノ悪宣伝ヲ恐レ其ノ儘受領シ得サルヘク同政府一派ノ立場ヲ困難ナラシムルハ想像ニ難カラス

(四六六文書)

從テ貴電第四七二号ノ次第ハアルモ武漢政府ニ対スル通牒

ト雖可成之ヲ穩和ニシ惡宣傳ヲ施スノ余地ナカラシムルト同時ニ新ニ交渉ノ相手方トナルヘキ南京政府一派ヲシテ列國側ノ要求ヲ引キ受ケ易キ状態ニ置クコト肝要ナリト思考ス右方針ニ公使団會議決定セハ米國ノ意向モ充分斟酌セラレ居リ強ク單獨行動ヲ主張スル理由ナキニ至ルヘシ就テハ貴官ハ以上御含ノ上別電甲乙号ノ通り通牒並聲明書ノ修正ノ提議ヲ為シ列國協調ノ基礎立直シニ付御配慮相成度漢口、上海、広東、奉天へ転電アレ

(別電一)

本省 4月23日後発

第二二三号

(別電甲号)

〔貴電第四三五号第二項前段中 in varying ヨリ which has arisen 迄ノ字句ハ仮令武漢政府ノ真意此処ニアリトスルモ列國側公文ノ字句トシテハ無用ニ議論ヲ挑発シ感情ヲ刺戟スルノ結果トナル虞アリ從テ右ハ單純ニ in varying terms which are not calculated to ensure speedy settlement of the incident ト批評スル趣旨ニ修正スルコト妥当

ナルヘク又

(二)同電末項ノ文句ハ既ニ列國側第一回ノ同文通牒ニ掲ケラレタル所ナルモ此際之ヲ繰返スハ支那側ニ於テ之ヲ列國ノ強迫トシテ責任回避ノ口実ニ利用シ宣傳ノ武器ニ供スルハ推測ニ難カラス從テ本項モ亦穩カニ The Government concerned therefore feel obliged to request that the Nationalist authorities will state unequivocally and without delay their intention to proceed to the integral fulfilment of the terms presented ト修正シ反省ヲ促スニ止ムルコトト致度シ

(別電二)

本省 4月23日後発

第二二三号

(別電乙号)

今武漢政府ノ回答ヲ按スルニ主義上列國側ノ三要求条件ヲ必スシモ拒斥セルニアラスト雖

(一)処罰及謝罪ニ付テハ南京事件ノ責任ヲ以テ北軍並ニ其一味ニ負ハセムトスル口吻ヲ以テシ且調査ヲ条件トシ

(二)賠償ニ付テモ英米ノ砲撃又ハ北軍ノ所属ニ基ク場合ヲ除外スト云フカ如キ条件ヲ留保シ又領事館ノ侵害ニ付テモ国民軍ノ暴行ニ基クモノトセス單ニ支那領土内ニ起リタル事件ナルノ故ヲ以テ賠償スヘシト曲説シ殊ニ英、仏ニ対スル分ニハ此ノ際五・三十事件、広東沙基事件及万県事件ノ如ク何等南京事件ト關係ナキ事件ノ調査ヲモ同時ニ行ハンコトヲ主張シ居リ

(三)將來外国人ノ生命財産ノ保障ニ付テハ不對等條約ノ存在ヲ以テ生命財産ノ危険ノ禍因トナシ全然南京事件ト關係ナキノミナラス寧ロ列國ト交渉ノ誠意ト実力ヲ有スル政府ノ實現ヲ俟ツテ始メテ言及スヘキ問題ヲ提起シ責任ヲ他ニ嫁セムトスルカ如キ跡顯著ナルモノアリ  
此ノ故ニ列國側トシテハ其ノ聲明書内ニ於テ之等ノ点ヲ一々弁駁スルコト必要ナリト思考ス例ヘハ

(一)責任有無ノ問題ニ付テハ事件當時遭難者ノ証言其ノ保有セル証拠品並南軍幹部ノ弁明等ニ徴シ今次ノ事件カ南軍正規兵並其一味ノ所為ニ基クモノナルコト極メテ瞭ナルコト

六 南 京 事 件

(二)英米海軍ノ砲撃ノ如キハ當時国民軍カ居留民ノ集團ス

ル領事館ヲ襲撃セルニ鑑ミ之ヲ阻止セムカ為緊急自衛ノ掩護措置ニ出テタルモノナルヲ以テ初メヨリ不法ナル国民軍ノ暴行ト同列ニ論セムトスルカ如キハ公理ニ反スル暴論ナルコト

(三)国民軍トシテ率直ニ本事件ニ對スル責任ヲ負ヒ而シテ其ノ責任ニ基ク賠償処罰謝罪保障ニ付テモ主義トシテ直ニ当然承認スヘキモノナルコト

(四)右賠償処罰謝罪ノ範圍程度即チ列國側要求条件ノ細目ニ至リテハ武漢政府ノ主張スルカ如ク列國側ト支那側トノ共同調査等ヲ経テ之ヲ協定スルコト此ノ種事件解決ニ關スル普通ノ段取りナルコト

(五)尚南京事件ノ解決ト何等關係ナキ事件及問題ハ此ノ際論議スヘキ限りニ在ラス此ノ如キハ人ヲシテ国民政府當局ノ誠意ヲ疑ハシムルニ止ルコト就中不對等條約ノ改訂ニ至リテハ列國側トシテハ既ニ數年以來真面目ニ着手シ來レル所ナルモ支那内部ノ政情ハ殆ト安定ノ期ナク從テ列國トシテハ其ノ熱誠ニ拘ラス右改訂ノ事業ヲ進捗セシムルニ由ナキ地位ニアリ而シテ此ノ情勢ハ広東軍北伐出師以來殊ニ甚タシク最近ニ至リテハ国民政府ノ勢力範圍

内ニ於テハ外国人ノ生命財産ノ安固スラ之ヲ保障シ得サルニ至レル次第ニシテ却テ不平等条約ノ存在ヲ必要ナラシムル理由ヲ証明スルニ帰着スヘク全ク本末顛倒ノ論ナルコト

ノ諸点ヲ丁寧ニ記述シ支那国民一般ニ訴へ且排外暴行ヲ暗ニ使嗾煽動スル共產派並武漢政府ヲ抑ル目的ニ副ハシムルノ要アリ

470 昭和2年4月23日 田中外務大臣より  
在米松平大使宛(電報)

南京事件列国共同交渉の協調立直しを米国側に説得方について

本省 4月23日後発

第一九二号

本大臣発在支公使宛電報第二二二二号ニ関シ

米政府ニ於テ此ノ際列国共同交渉ニ参加スルヲ欲セサルハ主トシテ往電第一八五号通牒案ノ峻烈ナルニ顧ミ自ラ制裁問題ノ渦中ニ投セシメラレムコトヲ虞レタルモノト想像セラルル処右ハ要求ノ形式ニ関スル異論ニシテ解決条件即賠償、謝罪、処罰、保障等ノ原則的承認ヲ取付クルニ於テ

ワシントン 4月25日後発  
本省 4月26日後着

※第一三八号

往電第一三七号ニ関シ

二十五日國務長官ヲ往訪シ貴電第一九二号ノ趣旨篤ト申入

レ此ノ際列国協調ヲ破リ又ハ破ルカ如キ觀ヲ呈スルコトハ南京事件列国要求ノ貫徹ヲ困難ナラシムヘキノミナラス各方面ニ面白カラサル影響ヲ来ス虞アルヲ述ヘタル処同長官ハ協調破壊ノ不可ナルコトニ付テハ全然同感ニテ「マクマレ」ニ対シ協調脱退方ヲ訓令シタルコトナシ唯目下ノ事態ニ於テ支那ニ制裁ヲ加フルコト至難ノ事ニ属スルノミナラス其ノ実行ノ結果ハ有害無益ナルヘク米國ハ只管之ニ引込マレサラシコトヲ期スル次第ナリ而シテ陳友仁ノ回答ハ不満足ニハ相違ナキモ第二次通牒案記載ノ如キ不都合極マルモノトモ認メラレス例ヘハ該回答ハ列国側要求ノ総テヲ曖昧ニ付シ居ル次第ニハ非ス又其ノ応諾ニ留保ヲ付セサルモノモアル訳ニテ通牒案第二項 not one of the demands 以下ハ事実ニ反スルカ如ク又第三項ニテ列国側要求ハ之ヲ

六 南 京 事 件 討議ノ目的トスルニ非ストナセルハ尤モナルモ but the

ハ異論アル筈ナク既ニ米國側ニ於テハ個別通牒ヲ主張シテラ利害共通ノ点ニ付テハ同文トスルモ差支ナキ旨ヲ洩シ居レル次第ナルコト在支公使來電第四六九号ノ通ナリ從テ我方修正案ノ程度ノ形式ナルニ於テハ米國政府ニ於テモ共同交渉ニ参加スルニ吝ナラサルヘク南方ノ時局極メテ重大ナル此ノ際出來得ル限り列国ノ協調ヲ保持スルコト支那側ノ態度ヲ驕慢ナラシメサル所以ニシテ列国共通ノ利益ナリト思考ス將又此ノ際武漢政府ニ対シ今一応ノ交渉ヲモ為スコトナク直チニ南京政府ト交渉ヲ開始スルハ在支公使來電第四六一号ノ通尚早ノ感アリ列国トシテハ特ニ慎重行動スルノ必要アルニ就テハ貴官ハ以上ノ御含ニテ右協調立直し並今後ノ交渉段取ニ関スル当方ノ意向ニ対シ米國当局ニ於テ賛成シ在北京同國公使ニ必要ノ訓令ヲ発スル様同當局説得方至急御配慮アリ度

英ハ電シ英ヲシテ在歐各大使ヘ電セシメラレ度

471 昭和2年4月25日 在米松平大使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件交渉における列国協調の維持を米國務長官に申し入れについて

basic demands 以下ノ文句ハ果シテ妥當ナルヘキヤト述ヘタリ依テ本使ハ制裁等ノ点ニ付テハ從來我方ニ於テモ大体貴説ト同様ノ意見ヲ有シタル次第ニテ其ノ見地ヨリ修正案ヲ提出セル儀ナルカ國務長官ノ指摘セラレタル文句ニ付テハ更ニ適宜修正ノ方法モアルヘク要ハ各國単独行動ヲ避クルニアリト述ヘタル処長官ハ南方派ノ内訌モアリ殊ニ漢口政府ニ於ケル陳友仁ノ地位動搖シ居ルヤノ情報モアルニ付旁茲數日形勢ノ推移ヲ見極ムルモ晩カラサルヘク何レニスルモ貴大使ノ申出ノ次第ハ二十六日大統領紐育ヨリ帰来ヲ待テ閣議開催ノ上篤ト協議スヘシト述ヘタリ  
次テ長官ハ在米英國大使ヨリ貴電第一一六号前段ト同趣旨ノ申出アリタルコトヲ述ヘ米國ハ將來必要ニ迫ラレタル場合ニハ更ニ多少ノ「マリン」ヲ派遣シ得ヘキモ此際英國希望ノ如キ大兵ヲ出動スルノ用意ナキ次第ニシテ其旨英國ニ回答セルカ日本ノ態度如何ト尋ネタルニ付本使ハ同電後段次官ノ談話ヲ告ケ置キタリ

472 昭和2年4月26日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

武漢政府に対する南京事件第二次通牒案修正



稟全部ノ内容ヲ基礎トスルモノト諒解シ右声明案ニ対スル修正ノ意味ニテ前記往電第二二三号ノ通申進シタル次第ナリ或ハ共同電稟ノ声明書トハ通牒文ノミヲ基礎トスル簡單ナルモノト為ス予定ナリシカ the above ノ意義範圍ヲ明瞭ニシ置クコト必要トナリタルニ付テハ右折返シ回電アリ度

475 昭和2年4月27日 田中外務大臣より  
在米國松平大使宛(電報)

武漢政府に対する南京事件第二次通牒發出に  
關し米國務長官説得方について

本省 4月27日後發

※ 第一九七号

貴電第一二三八号ニ関シ

一、第二次通牒案ニ対シ米國政府ニ於テ指摘セル二点ハ我方ニ於テモ同感ナリ從テ同案第二項第三項ニ関シ北京五國會議ニ於テ適當ナル修正案ノ協定ヲ見ルニ於テハ之ニ同意スル所存ナリ

二、米國政府ニ於テハ南方派ノ内訌ニ顧ミ茲數日形勢ノ推移ヲ見タル上直ニ南京政府トノ交渉ニ移ラムトスルノ底意アルヤニ推セラルル処南京政府ノ立場ハ往電第一九八

公使ニ訓令方御勸説相成度

476 昭和2年4月27日 在米國松平大使より  
田中外務大臣宛(電報)

米國務長官が武漢政府に対する南京事件第二

次通牒發出に不同意について

ワシントン 4月27日後發  
本省 4月28日後着

※ 第一四六号

貴電第一九七号ニ関シ

二十七日國務長官ヲ往訪シ御訓令ノ趣旨篤ト申入タル処同長官ハ二十五日及二十六日公使會議ノ模様ニ付「マクマレ」ヨリ來電ニ接セリトテ(制裁問題ニ関シ)「オウソリゼーション」ヲ与ヘラレ居ル日英仏伊公使ハ日本側修正同文通牒ヲ發送シ之ニ対シ回答不満足ノ場合ニハ蔣介石トノ交渉及漢口ニ対スル制裁問題ヲ審議スヘキコトヲ決議セリトノ趣旨ヲ諒聞セタル後米國側ハ今日迄穩健且首尾一貫セル日本ノ対支政策ニ賛成シ居リ且今後トモ列國殊ニ日本ト協調ヲ維持シタキ積リナルモ制裁ノ問題ニ引込ルルコトハ吾人ノ欲セサル処ナリ旁米國トシテハ急速第二通牒ヲ發送

号ノ通ニシテ武漢政府カ南京ニ移転シタル建前ナルヲ以テ同政府ハ南京政府ノ確立ト共ニ当然消滅スヘキモノナルヘキモ武漢ノ現状ニ徴スルニ同政府要人中共産派ノ為ニ抑留同様ノ境遇ニ居ルモノモ少ナカラサル模様ニテ今後南京移転派ト武漢殘留者トノ區別判然スル迄ニハ猶相當ノ時日ト曲折トヲ要スヘク陳友仁ノ如キモ目下去就ニ迷ヒ居レル狀況ナリ交渉ノ相手方ニ就テハ当初日本ノ主張シタルカ如ク總司令部一派(今ノ南京政府派)ヲ主トシ武漢政府ヲ從トシタリシナラムニハ現在ノ權勢ノ儘ニテ交渉ヲ繼續シ得ヘキモ既ニ英國側ノ希望モアリ一旦武漢政府ヲ主トシテ南京派ヲ從トシテ交渉シ来リタルヲ以テ武漢側トノ交渉ニ一段落ヲ付ケタル上打切り南京政府ニ移スノ外ナク右打切りノ為ニハ是非共今一応武漢政府ニ對シ通牒ヲ發シ応否ヲ求ムルコト必要ナリ南京政府ノ地位未タ確立セス武漢政府ノ地位動揺シツアル今日ハ右打切りノ交渉ニ絶好ノ機會ナリト思考ス(貴電第一四〇号御問合セノ次第ハ右ニテ御諒解アリタシ)就テハ以上ノ趣旨ニテ國務長官ト応酬ノ上速ニ北京五國會議ノ議纏リ武漢政府ニ對シ第二次通牒發送ノ運ニ至ル様ニ在支米國

スルコトハ同意シ難シト述ヘタルニ付本使ハ列國ハ今日迄漢口政府ト交渉シ居ル次第第二付更ニ一応其反省ヲ促シ之ニ對スル回答不満足ナラハ夫ニテ漢口側トノ話ヲ切ルコトトセハ差支ナキニアラスヤト説キタルモ長官ハ時局推移ヲ見ルコト然ルヘキ旨ヲ答ヘタリ

思フニ米國側カ此際第二次通牒ノ發送ニ反對スルハ必スシモ漢口側ヲ断念シ直ニ南方<sup>京</sup>側トノ交渉ニ移ランコトヲ希望スル意ニハ非サルカ如ク寧ロ北京公使團等ノ空氣ニモ顧ミ第二<sup>次</sup>通牒發送ノ上ハ当然制裁問題ニ逢着スルコトトナルヘキヲ恐レ只管之ニ引込マレサランコトヲ願望セル結果ナルカ如ク又昨今当地新聞紙ノ論調モ一般ニ冷静トナリ殊ニ制裁ニ反對ヲ表明セル事情モアリ加フルニ前記「マクマレ」等來電ハ余程國務長官ノ注意ヲ引キタルモノノ如シ依テ本使ハ日本政府ニ於テモ制裁ヲ可成避ケタキ為ニ覺書ノ訂正ヲナシタル次第ニ付米國側ニ於テモ今回ノ覺書ニ其ノ希望スル修正ヲ施シテ提出スルコトニ同意アリタキ旨勸説シタルモ遺憾ナカラ同意ヲ得ルニ至ラス

477 昭和2年4月28日 田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

武漢政府への南京事件第二次通牒は米国を加  
えた五国協調のうえ発出すべき意向について

本省 4月28日後発

※  
第二三七号

貴電第四八〇号ニ関シ

(一)第二次通牒案ニ関スル米本国政府ノ態度ハ松平大使来電  
第一三三八号ノ通シテ之ニ対スル我方ノ意向ハ同大使宛  
往電第一九七号ノ通りナリ我方ニ於テハ此際出来得ル限  
リ五国協調ノ上通牒ヲ発シ度キ所存ニテ米国ヲ除ク他ノ  
四国限りニテ通牒ヲ発スルカ如キハ更ニ慎重考慮ヲ要ス  
ト思考シ居ル次第ニ付右ノ御含ニテ通牒案協定方可然御  
配慮アリタシ將又武漢政府ト交渉打切後南京政府ト交渉  
ヲ開始スルニ付テモ五国協調ヲ必要トスル当方ノ意向ニ  
付右ニ御含置キアリ度シ  
(四七三文書)  
(二)貴電第四八六号声明書公表ノ件ハ元来当方ノ発議ニ非ラ  
ス貴電第四三六号ノ如キ声明ヲ発表セムトスル五国公使  
ノ稟請ニ対シ右共同電稟ノ趣旨ノ如キモノニテハ却テ列  
国側ノ為不利益ナラサヤト思考シタルニヨリ之カ修正ノ  
趣旨ニテ往電第二二三号ノ通申進シタル次第ニテ声明ノ

シテ可然御措置アリ度シ

478 昭和2年4月29日

在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

武漢政府あて南京事件第二次通牒を四国限り  
で発出の際の条件について

北京 4月29日後発  
本省 4月29日後着

※  
第五〇三号

貴電第二三二二号第二三五号第二三七号ニ関シ四月二十九日

午前五国会議ヲ開ク先ツ伊太利公使ヨリ米国ヲ除外シタル  
四国限りニテ陳友仁ニ回答ヲ為スコトニ就テハ本国政府ヨ  
リ同意ノ旨電訓ニ接シタル趣ヲ披露シ次テ本使ヨリ右貴電  
第二三二二号(在米大使来電第一三八号)及貴電第二三五号  
(在米大使宛貴電第一九七号)ニ基キ二十五日ニ於ケル在

件 米大使國務長官トノ会谈ヲ説明シタル上前記在米大使宛貴  
電第一九七号ノ主要ナル点殊ニ其ノ一ヲ説明シタル後要ス  
ルニ帝國政府ニ於テハ出来得ルタケ米國政府ヲモ同伴シタ  
キ希望ニテ折角國務長官及在米大使間第二回会见ノ電報ヲ  
待チ居ル次第ナル旨ヲ披露シタル処英仏伊三公使ハ非常ニ

必要ヲ固執スルノ意向ニ非ラス折角四公使間ニ纏リタル  
貴電第四八七号声明案ニ就テハ(イ)米國ヲモ之ニ賛同セシ  
ムル為ニハ我方意見ノ主ナル部分即要求条件ハ原則的承  
認ニテ足ルヘク從テ同条件ノ細目決定ニ至リテハ共同調  
査ニ俟ツニ吝ナラサル趣旨ヲ復活スル要アリト思考ス(ロ)  
全体ノ語調ニ就テモ稍々激烈ニ過キ武漢政府ノ回答ノ不  
当ヲ丁寧ニ指摘スト云フヨリハ寧ロ之ヲ攻撃スルニ急ナ  
ルノ感ヲ与フルモノトシテ少クトモ米國ハ容易ニ参加セ  
サルノ虞ナキヤ(前記松平来電第一三八号参照)米國モ  
参加スル場合ニハ通牒文モ一層穩和ノ調子ニ修正セラル  
ヘシト思考セラルルヲ以テ之ト相呼応スル為ニハ声明書  
案モ語調変更ヲ免レサルヘシ

(三)貴電五国公使會議経緯ニ徴スルニ今後五国同意ノ声明案  
ヲ作成スルコトモ困難ナルヘキヲ以テ五国協調保持並通  
牒迅速發送武漢側トノ交渉打切りノ見地ヨリセハ此際ハ  
別ニ声明書ヲ出サストモ可ナルヘシトノ列國ノ意向ナラ  
ハ之ニ順応セラレ差支ナシ

要スルニ米國側ノ態度決定ヲ俟ツテ通牒文ノ再修正並声明  
書ノ修正又ハ撤回等貴官ノ裁量ニヨリ当方從來ノ方針ヲ体  
失望ノ口吻ヲ洩シタル後右三国公使ノ間ニテ更ニ執ルヘキ  
方針ヲ考究ヲ遂クルコトニ打合せタルニ付本使ハ我方ノ態  
度ハ在米大使國務長官第二回会见ノ結果ヲ見タル後初メテ  
確定スヘキモノナル旨ヲ告ケ散会セリ午後ニ至リ貴電第二  
三八号(在米大使来電第一四六号)接到シ之ニテ米國政府  
ノ態度完全ニ判明シタルニ付本使トシテハ英仏伊三国公使  
ニ対シ確定的態度ヲ表明スル必要アル処事態ノ重要ナルニ  
顧ミ右表明前為念左ノ二点ニ関スル御意見承知致シ度シ  
(一)貴電第二三七号中四国限りニテ通牒ヲ発スルカ如キハ更  
ニ慎重考慮ヲ要ス云々トアリ就テハ帝國政府ニ於テハ四  
国限りニテ通牒ヲ発スルコトニ御異存ナキ次第ナリヤ否  
ヤ若シ御異存ナキ節ハ通牒文及声明書ノ修正又ハ声明書  
ノ撤回等本使ノ裁量ニ御一任アリタルカ故本使ニ於テ適  
宜措置スヘシ

(二)第二次通牒案中米國國務長官ノ指摘セル二点ハ帝國政府  
ニ於テモ同感ヲ表セラレタル処右ハ米國ヲ同伴セシメム  
カ為表セラレタルノミナルヤ換言スレハ四国限りニテ通  
牒ヲ発スル場合ニ於テモ右二点ヲ修正スル必要アリヤ否  
ヤ

尚序ナカラ申上ケ度キハ在支米国公使ハ最初ヨリ他ノ四国公使トヨク協議シ来リタルモ米国公政府ノ態度ニ付テハ交渉ノ發展ニ伴ヒ或ハ危惧スヘキモノアリトハ本使及英國公使ノ間ニ早クヨリ話シ居タル処ナルカ米国公使自身ハ一向斯ノ如キ懸念ヲ表明シタルコトナク從テ往電第四六八号ノ同政府訓電ニ接シタル際ハ非常ニ驚駭ト失望トニ襲ハレタルヤニ見受ケラレタリ

479 昭和2年4月29日 在英國松井大使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件に対する制裁問題等につきチェンバレン英外相と会談について

ロンドン 4月29日後発  
本省 4月30日前着

※  
第一二三号

二十八日日本使「チェンバレン」往訪支那ノ形勢ハ一向良クナラストノ話ヨリ外相ハ南京事件ニ対スル第二次通牒發送ニ付米國ハ制裁ヲ加フルコトニ不同意ナルノミナラス通牒發送其ノモノニ付テモ躊躇シ居レルカ如キ処斯ノ如ク外國人一般殊ニ婦人ニ対スル甚タシキ暴行事件ヲ罰セスシテ看

六 南 京 事 件

ラレタルニ支那ハ之ニ「respond」セサリシナリト「リマーカー」シタルニ外相ハ其ノ通りト肯ケリ斯クテ談話ハ支那ニ対スル大體論ニ移リタルカ外相ハ支那ニハ張作霖蔣介石漢口極端派等色々アルモ何レモ程度ノ違ニテ其排外タル点ニ於テハ甲乙ナク從テ何レモ当ニスルコト能ハス只蔣ハless extremist ナリトノコトナルトコロ最近伝フルトコロニ依レハ張蔣ノ間何等諒解成立スヘシトノコトナルカ日本ノ之ニ対スル所見如何ト尋ネタルニ付本使ハ右ニ関シ政府ヨリハ何等聞ク所ナキモ日本新聞ニ依レハ張作霖下ニハ日本ノ顧問居リ又張ノ參謀楊宇霆ハ日本士官学校ノ出身ナルトコロ蔣介石亦日本ニテ教育ヲ受ケタリトノコトニテ其間自ラ多少ノ脈絡相通スルモノアルヘク尚其外日本ノ有志ニシテ兩者ノ間ニ入り連絡ニ力ムルモノナシトセサルヘシ但シ夫カ如何程モノニナルカハ固ヨリ見当付カス政府別ニ彼等ノ運動ニ干渉セサルカ又敢テ奨励スルコトナカルヘシ例ニ依リ支那ノコトナレハ一向見据付カスト答ヘタルニ外相ハ自分ハ斯カルモノニテモ出来レハ時局ハ多少ナリト緩和スヘシト考ヘ得從テ日本ノ斡旋ノ下ニ張蔣ノ提携實現スルモ決シテ嫉妬スルコトナシト述ヘタリ本使ハ夫レニ対シ自

過セハ支那ハ列國与シ易シト見テ益々増長スヘシサレハトテ米國ヲ除キ四國ノミニテ通牒ヲ送り制裁ノ問題ハ追テ協議スルコトトシテ可ナリヤ此点尚未タ決スルニ至ラスト述ヘタルニ付本使ハ当地新聞ニ依レハ外國同意セスハ英國單獨ニテモ制裁ヲ加フヘシトカ又ハ漢口居留地ヲ奪回スルヲ可トストノ論アル趣ナル処夫ニ付何等政府ニ於テ決意サレタル次第ナリヤト尋ネタルニ外相ハ何等決意セス制裁ノ方法ニ付在上海各國海軍司令協議ノ結果種々ノ方案ヲ建議セルモ孰レモ適當ト思考スルモノナシト答フ本使ハ之ニ対シ目下支那ニアル英國ノ兵力ヲ以テセハ漢口居留地ノ奪回ハ容易ノコトナルヘキモ其ノ結果ハ更ニ反英運動ヲ激成シ却テ面倒ヲ増スニ至ルヘシサレハトテ封鎖ノ如キモ甚タ有利ナラス一方江ヲ上下スル外國船舶ハ絶ヘス支那側ヨリノ砲撃ニ曝サレ居ル模様ナルカ厄介ナルコトナリト述ヘタルニ外相ハ之ニ対シ外國船ハ機関銃或ハ大砲ニテ応酬シ居ルカスノ如キハ其ノ場其ノ場ノコトニテ南京事件ニ対スル制裁トハ同一ニ行カス自分ノ最モ慮ル所ハ南京事件ヲ看過セハ列國愈々侮蔑ヲ招クヘキコトニアリト説ケリ

茲ニ於テ本使ハ英國ハ折角支那ニ対シ Liberal policy ヲ執

分ハ第一革命當時北京及上海ニアリ多少事情ヲ知り居レルカ當時日本ヨリ所謂自薦調停者出テテ兩者ノ間ニ介入シタルカ支那人相手ノコトトテ余リ効能ナカリシ様ナリ只今ノ話モ何程ノコト出来得ヘキヤ不明ナリト挨拶シ置キタリ

480 昭和2年4月30日 出淵外務次官  
テイリー英國大使 會談

武漢政府に対する南京事件第二次通牒文發出  
をめぐる日本の態度につき英國大使不満の意  
表明について

※  
南京事件ニ関シ英國大使來訪ノ件

昭和二年四月三十日英國大使田中新大臣ニ會見ノ為メ午前中來訪ノ際出淵次官ノ室ニ來リ支那一般ノ情勢ニ付意見ヲ交換シタル次第アリタルカ同大使ハ一旦帰宅セル後更ニ電話ヲ以テ至急會見ヲ求メ來リタルニ付同日午後二時面會シタル処同大使ハ先刻帰宅ノ際在支那英國公使ヨリ本國政府宛電報ノ轉電ニ接シタルカ右ニ依レハ最近北京ニ於テ五國公使會議ノ際芳沢公使ハ米國政府ノ主張ヲ容ルル為メ折角日本ノ修正意見ヲ容レテ改作シタル第二次通牒文ニ対シ根本的修正ヲ主張シタル為メ仏國公使ノ如キハ憤慨ノ余リ最

早再ヒ斯ル問題ニ付會議ヲ開ク必要ナシト認ムルヤノ意向ヲ表明セル趣ナリ尚「ラムプソン」公使ハ芳沢公使ノ態度ヲ以テ米國ニ同情ヲ表シ英仏伊三國ヲ袖ニスルモノナルカ如キ感想ヲ有シ居ル趣ナリト付言シ芳沢公使ノ態度ニ付稱ヤ興奮シタル模様ヲ以テ不滿ノ意ヲ表シタリ右ニ対シ次官ヨリ最近ノ北京ニ於ケル五國公使會議ノ模様ニ就テハ未タ芳沢公使ヨリ報告ニ接セサル為メ果シテ如何ナル議論アリタルヤ不明ナルモ芳沢公使ヨリ米國ノ修正意見ヲ主張シテ根本的改作ヲ試ミントシタルカ如キコトハアラサルヘシト信ス貴大使ノ接受セラレタル電報中ニ米國公使ハ米國政府ノ修正意見ナルモノニ関シ如何ナル提議ヲ試ミタルヤ記載シアリヤト質シタルニ米國公使ノ態度ニ就テハ何等記載スル処無シト答ヘタリ最後ニ出淵次官ヨリ日本ハ南京事件ニ関シ飽迄五國協調ニ出テ度キ考ニシテ過日米國政府ニ向テ特ニ勧誘ヲ試ミタル次第ナルカ最近受取リタル松平大使ノ電報ニ依レハ米國政府ニ於テ恐ラク單獨行動ニ出テントスル考ナルヘキカト判断セラルルモ未タ最終的言明ニ接シタル次第ニアラス從テ日本トシテハ尚一縷ノ望ヲ殘シ居ル次第ニテ此ノ際米國ニ同情ヲ寄セ三國ヲ袖ニスルカ如キ考ハ

### 送りについで

本省 5月1日後発

※  
第二四五号  
（四七八文書）  
貴電第五〇三号ニ関シ

一、四國限ニテ通牒ヲ発スルコトハ未タ考慮ノ時機ニ非ス  
在米大使來電第一四六号ニ依レハ米國政府ノ意向ハ急速ニ第二次通牒發送ニ反対セルノミニシテ南方時局ノ推移ヲ見ルコト然ルヘシト云フニアリ未タ共同交渉ヨリ脱退ノ意向ヲ最終的ニ表明シタル次第ニアラス（在米大使來電第一三八号参照）現ニ貴地「マクマレー」モ米國政府ノ意見トシテ此ノ点ヲ明言シ居ラサルニモ鑑ミ此際四國ノミニテ特ニ米國ヲ除外シテ進ムカ如キ措置ハ絶対ニ避ケタキニ付帝國政府トシテハ米國ノ態度ヲ見極ムル為今暫ク四國限通牒發送ニ関スル諾否ヲ留保シ置キ度シ

六 南 京 事 件  
二、元來米國力第二次通牒ニ同意ヲ難シトスル所以ハ二十五日及二十六日ノ公使會議ノ模様ニ付英仏伊公使並貴官ニ於テ制裁問題ニ関シ権限ヲ賦与セラレ居リト「マ」ノ報告ニ基キ協調ヲ維持シタキモ制裁問題ニ引込マルルコトヲ惧ルルニ在ルハ松平大使來電第一四六号ニ依リ明

断シテ無之ニ付可然貴國政府ノ誤解ヲ解カルル様致度シト答ヘ置キタリ

（昭和二年五月二日出淵次官口述速記）

481 昭和2年4月30日  
田中外務大臣宛（電報）

国民政府より南京において公務開始の旨申越  
について

上海 4月30日後発  
本省 4月30日後着

第六八二号

往電第六八二号ニ関シ

郭交渉員ハ二十九日付公文ヲ以テ本官ニ対シ「中国国民党中央執行委員會政治會議ハ国民政府南京定都ヲ議決シ四月十八日ヨリ南京ニ公務ヲ開始セル旨政府ノ通告ニ接シタルニ付貴國政府ニ伝達アリタシ」トノ旨申越セリ  
北京、漢口、広東へ転電セリ

482 昭和2年5月1日  
田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛（電報）

南京事件に關シ四國限りの第二次通牒発出見

ナリ從テ米國ニ対シ少クトモ日本ノ関スル限り制裁問題ヲ考慮スル如キ意向ナク飽ク迄モ外交手段ニ依リ事件ノ解決ヲ希望シ居ルコトヲ明白ニシテ再應協調方ヲ懲慝スルノ要アリ就テハ貴地ニ於テモ適當ノ機會ニ四國公使ニ對シ右日本ノ態度ニ付誤解無キ様説明シ置カレ度シ

483 昭和2年5月1日  
田中外務大臣より  
在米國松平大使宛（電報）

米國政府に對し列國協調に關し再考慮方要請  
について

本省 5月1日後発

※  
第二〇一号  
（四七六文書）  
貴電第一四六号

在支公使ニ對シ往電第二〇二号ノ通り訓令シ置キタルニ就テハ貴官ハ同電ノ趣旨ニ依リ制裁問題ニ関スル帝國政府ノ態度ヲ明確ニ説明シ本問題ニ就テハ從來ト何等方針ヲ變更セルモノニ非ルコトヲ言明シ再應列國協調ニ関スル米國當局ノ考慮ヲ促シ結果回電アリタシ

尚我方トシテハ列國協調ニ重キヲ措クモノナルヲ以テ米國ノ態度如何ニ依リテハ第二次通牒ノ時機ヲ暫ク延期スルコ

トトナスモ致方ナキ義ト思考シ居ルニ付貴官ノ御含迄申添  
ユ

484 昭和2年5月3日 在米國松平大使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件解決交渉は列國協調の必要を認むる  
も第二次通牒発出には反対の旨米國務長官の  
意向表明について

ワシントン 5月3日後発  
本省 5月4日後着

※  
第一四九号

貴電第二〇一号ニ関シ  
(四八三支書)

五月三日國務長官ヲ往訪シ御訓令ノ次第申入レタル処同長  
官ハ在東京代理大使ヨリ出淵次官ノ談話ヲ電報セル次第モ  
アリ旁々制裁ニ関スル日本政府ノ態度ハ充分了解シタルカ  
此ノ際米國政府ノ意見ヲ明確ニ申述フヘシトテ

(一)米國ハ列國協調ノ必要ニハ同感ニシテ一國ニテモ右協調  
ヨリ脱退スレハ他ノ列國ノ主張ヲ弱ムル虞アルコトハ良  
ク之ヲ承知シ居レリ

(二)從テ米國ハ列國ヲ出シ抜き单独ニ蔣介石張作霖其他支那

ノ如何ナル政權者トモ交渉スルノ意向ナク又若シ將來米  
國ニ於テ交渉ヲ開始セントスル場合ニハ予メ列國ニ申出  
ツヘシ

(三)然レトモ今日直ニ第二次通牒ヲ發スルコトニハ依然同意  
シ難シ蓋シ此ノ際蔣介石相手ニ通牒ヲ發シ之ニ庄迫ヲ加  
ヘンカ穩和ナル蔣一派ヲ過激化セシムル虞アリ又武漢政  
府宛ニ之ヲ發スル場合該通牒ニシテ第一次通牒ヨリモ軟  
弱ナルニ於テハ列國側ニテ其ノ主張ヲ弱メタルヤノ印象  
ヲ与フ可ク又一層強硬味ヲ加ヘタルモノナラハ勢ヒ制裁  
問題ヲ惹起スルコトヲ危惧セサルヘカラサルヲ以テナリ  
固ヨリ米國ハ本件要求ヲ全然拋棄セントスルニハ非ス適  
当ノ時期ニ至ラハ賠償其他ノ要求ヲ貫徹シタキ考ナリ  
ト述ヘタリ依テ本使ハ米國側ニ於テ協調維持ノ必要ヲ認  
メラルルコトハ之ヲ多トスル旨ヲ述ヘタル上漢口側トノ  
交渉打切ノ為ニモ今一回タケ 國政府通牒ヲ發スルコト  
ヲ懇望セルモ長官ハ依然自説ヲ翻サス要スルニ右米國側  
ノ態度ハ大統領並ニ閣僚ノ了解ヲ得テ確定シタルモノナ  
ルカ如ク官辺ニ於テモ新聞記者等ノ質問ニ對シ大体右ト  
同趣旨ヲ述ヘ輿論ノ支持ヲ得居ル模様ナルノミナラス大

統領モ往電第一三六号ノ如キ演説ヲ為シタルニ顧ミ旁々  
米國側カ其ノ意ヲ翻シ第二次通牒ノ急速發送ニ同意ノ見  
込ミナシト認メラル尚序乍ラ在支公使發外務大臣宛電報  
第五一三号ニ関シ本使國務長官ト会谈ノ大要同公使ヨリ  
四國公使ニ説明セラレタルヤノ趣ナル処右ハ固ヨリ適宜  
取捨アリタルコトトハ存スルモ若シ國務長官ニ於テ同長  
官ノ談話カ其ノ儘他ノ關係國側ニ伝ヘラレ居ルヤノ印象  
ニテモ受クルコトアランカ自然將來同長官ニ於テ本使ト  
ノ会谈ニ警戒ヲ加フルコト無キヲ保セス右為念

485 昭和2年5月3日 在漢口高尾總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

陳友仁が南京事件に関する共同調査の必要を  
主張について

漢口 5月3日後発  
本省 5月5日前着

※  
第二四五号

五月二日陳友仁ト会見ノ際南京事件支那側回答ノ真意ニ付  
語ル処左ノ通り

六 南京事件  
二日前「ニュートン」別用ヲ以テ來訪ノ際自分(陳)ニ對

シ今次關係國ノ要求ハ責任アル國民政府トシテ当然負フヘ  
キ最小限度ノモノニ過キサレハ速カニ且ツ無条件ニテ承認  
スル方得策ナルヘシトノ意味ヲ非公式ニ申述ヘタリ  
右ニ對シ自分ハ所謂南京事件ノ真相ニ関シテハ列國居留民  
カ何人ヨリ如何ナル損害ヲ受ケシヤハ今日ニ至ル迄關係國  
ヨリ何等正式通告ニ接シタルコトナク只自分ノ發表セル第  
一次声明書トハ趣旨全ク反對ニテ在南京米國領事カ北軍カ  
既ニ撤退セル後ナレハ該事件ハ南軍ノ手ニ依リ且計畫的ニ  
為サレタルハ疑フ余地無キ旨ヲ發表シタル以外ハ大体ニ於  
テ右ト同様趣旨ノ外國側民間報告ヲ新聞等ニ見タルノミナ  
レハ自分トシテ先ツ公平ナル調査ノ必要ヲ感シ之ヲ提議シ  
タル次第ナリ勿論外國人ノ損害ニ對スル賠償ニ関シテハ上  
官ノ統制ヲ離レテ其命ヲ奉セサル兵士カ掠奪等ヲ為スコト  
ハ有リ得ル事ニシテ南軍兵士カ斯カル行為ヲ犯セル事實判  
明セル場合國民政府ニ於テ賠償ノ責ニ任スルニ吝ナラサル  
事ハ既ニ九江英租界事件解決条件ニ鑑ミ明カナルヘク從ツ  
テ列國ノ要求セル第三条件ニ付テハ原則トシテ是ヲ承認セ  
リ  
然ルニ謝罪及処罰ニ関シテハ國民政府トシテ見レハ列國側

新聞記事要求ト同時ニ關係国カ発表セシ声明書ヨリ推察シ南京事件ハ南軍側ニ於テ予メ計画セシ残虐行為ナリトシ即チ国民政府ノ「ギルト」ヲ前提トシ關係国カ要求セシモノト解釈セサルヲ得ス

諸外国ニ対シ極力事端ヲ避ケ幸ニ過去二ケ年間列国カ協調シテ国民党ヲ圧迫スルノ機会ヲ有セサリシ自分等ノ苦心ハ全ク一通リニ非サリシカ右方針ハ今日尚何等ノ変更ヲ見ス事件当時迄北伐軍カ如何ニヨク振舞ヒ以テ非難ヲ受クル余地ヲ与ヘサリシ事実ヨリ考察スルモ列国カ突如南京事件ヲ以テ南軍ノ予定計画ナリト推断シ得ル根拠ハ何処ニアリヤ若シ又斯ル証拠アリトセハ列国ハ何故今日迄之ヲ正式ニ通告セサリシヤ從テ此際国民政府ニ於テ列国ノ言フカ儘ノ要求ヲ承認スルトセンカ其ノ結果ハ暗黙ノ内ニ将来ニ向テ無実ノ汚名ヲ残スコトトナルヘク之ハ自分等トシテ堪ヘ得ル処ニアラス万一系列ニシテ共同調査ヲ欲セサルニ於テハ或ハ國際連盟ノ公正ナル調査ニ訴ヘテモ事実ノ真相ヲ突止メ以テ国民政府ノ名譽ヲ保持セサルヘカラストモ考ヘ居リ此見地ニ於テ為セル回答ハ自分ニ於テハ飽迄「リーゾナブル」ナリト信セサルヲ得ス

### (別電)

#### 第五二〇号

北京 5月4日後發  
本省 5月4日後着

六 南 京 事 件  
英國政府ハ貴電ノ次第ヲ篤ト考慮シタル後漢陽兵工廠砲擊又ハ漢口居留地ノ奪回等ヲ為ササル事ニ確定セリ蓋シ右兩者ノ措置俱ニ之ニ伴フ不利益ノ方利益ヨリ遙カニ大ナレハナリ從テ現下ノ事情ニ顧ミ右兩者何レノ措置ニ出ツル事モ得策ニアラス英國政府ハ右ノ決定ヲ為スト共ニ各關係国カ主義上制裁問題ニ同意セサル事ヲ承知セルカ故或ル特定ノ制裁ヲ加フルノ問題ハ無期限ニ延期スル方然ルヘシト思考ス旁々陳友仁ニ対シ此上何等通牒ヲ發スルモ實際上ノ目的ニ副ハサルヘシ恐喝の通牒乃至断然タル要求ヲ提出スルモ拒絶セラレタル場合之カ貫徹ヲ確保スルカ為メ共同ノ具體的且効力アル措置ヲ執ルノ決心ヲ伴ハサル以上列国ノ權威ヲ低下スルニ終ルノミ右英國政府意見ハ第一次通牒ヲ發シタル五國中ノ四国カ署名シテ第二次通牒ヲ發スル場合列国間ノ協調破レタル事ヲ示スモノナル事実ニ依リ一層強硬ヲ加フルモノト思考ス就テハ貴官ハ直ニ四国公使ニ右英國政

「ニュートン」カ右自分ノ論旨ヲ北京ニ電報セシヤ否ヤハ知ラサルモ自分ノ真意ハ上述ノ如シ云々

486 昭和2年5月4日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

#### 英國政府对中国制裁の不実施を表明について

##### 別電

五月四日付在中国芳沢公使より田中外務大臣宛  
第五二〇号  
右英國公使に対する英國政府訓電

北京 5月4日後發  
本省 5月4日後着

#### 第五一九号

五月四日英國公使ノ請求ニ依リ当館ニ於テ五国会議ヲ開キ同公使ヨリ別電第五二〇号ノ如キ趣旨ノ本國政府來電ヲ披露シタリ依テ本使ハ日本政府ハ目下尚引続キ米國政府ノ意向ヲ確カメ中ナルカ若シ米國政府ニシテ第二次通牒ニ参加スルノ意向ヲ表示シ來ル場合ニ於テモ英國政府ハ尚第二次通牒ヲ發送スル事ヲ欲セサルヘキヤト為念尋ネタル処仏國公使ハ傍ヨリ英國政府ハ必ス制裁問題ヲ提起シ來ルヘシト述ヘタルニ英國公使ハ自分ハ何等明言スル能ハスト答ヘ仏國公使ノ言ヲ首肯シ居レリ

府ノ決定ヲ告クルト同時ニ將來ニ対シ殊ニ英國ノ国旗國民及ヒ財産ニ対シ此上暴行ヲ加ヘラレル際ニ於ケル行動ノ完全ナル自由ヲ留保スヘキ旨ヲ付言セラレタシ

487 昭和2年5月4日 在米國松平大使より  
田中外務大臣宛(電報)

#### 米國大統領が武漢政府に対する南京事件第二

##### 次通牒發出に反対の意向表明について

ワシントン 5月4日後發  
本省 5月5日前着

#### 第五一〇号

一、支那ノ時局ニ関シ在支米國官民側ヨリハ引続キ強硬ナル意見ヲ表示シ來ル旨新聞紙上ニ伝ヘラレ居ル処当國内ニテハ一般ニ米國カ制裁ニ引キ込マルル事ヲ危惧スルノ念強ク政治家中ニモ「ポーター」等ノ如キ引続キ對支利害關係ヲ異ニスル列国トノ協調ヲ脱シ寛大ナル態度ヲ採ルヘキ事ヲ主張シ居リ新聞其ノ他輿論界モ概シテ之ニ贊同ノ意ヲ表シ又政府筋ハ之ヲ否定シ居ルモ閣僚中「フーバー」等單獨行動ヲ主張シ居レルヤノ風説モアリ  
二、右ノ事態ハ鮮カラス大統領並ニ國務長官ヲ動かカスニ力

アリタルモノノ如キ処五月三日新聞記者会見ニ於テ大統領ハ「広東政府ニ送ルヘキ通牒ニ関シ在支日英仏伊四国公使ノ間ニ合意成立シタルヤモ知レサルモ各国政府ノ意見ハ必スシモ一致シ居ラスト承知ス米國トシテハ右ノ如キ通牒案起草セラルルニ於テハ是ニ対シ考慮ヲ払フヘク且出来得ル限り協調ヲ保ツノ意アルモ此ノ際該通牒ヲ発スルコトハ何等ノ利益無シト認ム各国ノ対支利益ハ必スシモ同一ナラス尤モ居留民生命財産ノ擁護ニ関シテハ列國利益關係ヲ同シウス」トノ趣旨ノ意見ヲ発表セリ

三、尚「マクマレー」公使及在上海總領事國務省トノ意見ノ相違アリ「マ」公使ハ辭職ヲ申出タルヤノ風評アル処右ニ付「ホワイトハウス」及國務長官トモ是ヲ否認セリ

488

昭和2年5月4日

在米國松平大使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件の制裁取止めなどに関する英國の通告につき米國極東部長との会談報告

ワシントン

5月4日後發

本省 5月5日後著

第一五一号

※  
合第一四五号

本省 5月5日發

三日在本邦英國大使本大臣ヲ來訪會談要領左ノ通

一、英大使ヨリ對支問題ニ付從來日英兩國ハ出来得ル限り共同措置ヲ執ルコト及支那各派執レニモ加担又ハ干渉セサルコトニ互ニ努力シ来リタルカ右ニ関シ貴大臣モ同様ノ意向ヲ有セラルルコトト信スト述ヘタルニ付本大臣ハ之ニ對シ往電合第一四一号仏國大使ニ對スル内話ト同様ノ趣旨ヲ答ヘタルニ同大使ハ更ニ差当リノ問題トシテ目下北京ニ於テ關係國公使ノ間ニ武漢政府ニ對スル第二次覺書ヲ討議中ノ処「ランプソン」公使ヨリノ報告ニ依レハ芳沢公使ハ米國ニ加担スルモノノ如キ印象ヲ得タル由ナリシカ過日出淵次官ヨリ右「ラ」ノ印象ノ誤レルコトヲ承リ喜ヒ居ル次第ナリト述ヘタルニ付本大臣ハ日本ハ對支問題ニ付極力關係國間ノ協調ヲ保ツコトヲ念トスルモノニシテ從テ芳沢公使ハ右協調ヲ保ツ為努力コソスレ之ニ反スルカ如キ態度ヲ執リタリトハ信セラレスト述ヘ置キタリ

六 南 京 事 件

二、次ニ英大使ヨリ支那問題ヲ離レ現在ニ於テ日英兩國間

五月四日極東部長面會ノ際同部長ハ南京事件ニ関シ英國代理大使ヨリ三日付公文ヲ以テ英國ハ慎重考慮ノ結果制裁ヲ加ヘサルコトニ決意シ此ノ際陳友仁トノ交渉ヲ取止メ第二次通牒ハ暫ク之ヲ見合スコトトセル旨通知シ来レリト述ヘタルニ付本使ハ進ムニシテモ退クニシテモ列國協調ヲ維持シ得タルハ同慶ノ至リナリト応酬シ置タリ右英國通知ハ貴方ニモ有之タルコトト思考スルモ為念尚其ノ折同部長ハ差当リ之ニテ一段落付キタルカ今後列國側ノ逢着スヘキ問題ハ支那ノ党派中ノ或ル者ニ對シ援助ヲ与フヘキヤ否ヤナルヘシト述ヘタルニ付本使ハ支那ノ赤化又ハ排外運動ヲ防止スルニハ穩和派ヲ助ケテ之ニ當ラシムルモ一方策ナルヘキモ從來列國內政不干渉ノ主義ヲ執リ来リタル關係上右ハ慎重ナル考慮ヲ要スヘキカ米國側ニハ何等考ヘアリヤト尋ネタルニ同部長ハ何等ノ考案無キモ米國輿論トシテハ干渉カマシキ措置ニハ反對スル者多カルヘシト答ヘタリ

489

昭和2年5月5日

田中外務大臣より  
在中國芳沢公使宛  
在英國松井大使宛(電報)

武漢政府に対する第二次通牒問題等に関する英國大使との会談について

二何等衝突又ハ紛議ノ種トナルカ如キ問題ナシト思考スル処貴大臣ノ御意見如何ト問ヒタルニ付本大臣ハ全然同感ニシテ日英同盟ハ形ニ於テハ消滅シタルモ其精神ハ今日モ尚存続シ居リ從テ日英兩國ノ間ニ何等紛争ノ種ナキハ欣快ノ至ナリ今後ト雖兩國ノ問題殊ニ支那ニ関スル問題ニ付テハ互ニ右ノ精神ニ依リ忌憚ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ從前ト同シ道ヲ歩ムニ努メタシト述ヘタルニ同大使ハ英國モ全然同感ニシテ英國外相ニ屢次右ノ趣旨ヲ開陳セル旨ヲ述ヘタリ

三、更ニ本大臣ヨリ最近武漢政府ノ地位漸次困難トナリツツアルヤノ報アル旨ヲ告ケタルニ英國大使ハ同國政府ニ於テモ同様ノ印象ヲ有スル旨ヲ述ヘタルニ付本大臣ヨリ右武漢政府ノ状態ハ關係國公使ノ間ニ現ニ審議シツツアル覺書送付ニ當リテモ十分考慮ニ入ルルヲ要スヘク武漢ヨリモ寧ロ南京方面ヲ交渉ノ相手方トスルコト問題ノ解決上或ハ却テ便利ナルニ非スヤトモ思考セラルト述ヘタルニ同大使ハ英本國ノ武漢政府ニ對スル印象ハ前述ノ通ナルモ其結果交渉ノ相手方ヲ陳友仁ヨリ蔣介石ニ變更スヘシト迄ノ決定ニハ至リ居ラサルカ如ク殊ニ少クトモ現

ニ討議中ノ覚書ハ陳宛發送ノ予想ノ下ニ起草セラレ居ル  
点並ニ陳トノ間ニハ既ニ書面往復ヲ為シタル結果本件ニ  
付テハ陳ハ他人ヨリモヨリ多クノ責任ヲ感スヘシト信セ  
ラルル点ハ遽ニ忘ルヘカサル所ト信スト述ヘタルニ付  
本大臣ハ自分トテモ固ヨリ今直ニ交渉ノ相手方ヲ變更ス  
ヘシトノ趣旨ニハ非ス唯影ノ薄キ武漢政府ヲ相手方トス  
ルハ却テ問題ノ解決ヲ遷延スルノ虞アルニ付南京ニ於テ  
交渉ヲ開始シ得ル事態トモナラハ便宜ナルヘシト思考シ  
タル迄ナリ最モ蔣介石一派カ何処迄誠意ト実力トヲ有ス  
ルヤノ点ハ遠カラス判定シ得ヘシト信スト述ヘ置キタリ

490 昭和2年5月6日

在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

今後の南京事件処理方法に關し伍朝枢等と會

談ひついで

上海 5月6日後發  
本省 5月7日前着

第七一五号

郭交渉員ヨリ至急本官ト面會シ相談シタキ儀アリト申出ア  
リ六日伍朝枢ト三名ニテ會食ス先ツ郭ヨリ日本新内閣ノ對

シテ実行致度ト述ヘ郭ハ五国ノ同文通告文ヲ取出シテ本官  
ニ示シ種々質問セルニ付本官ハ何等意見ヲ述フルコトハ迷  
惑ナレハ御免ヲ蒙ルモ三ヶ条トモ実行困難ナルコトハナキ  
ニ非スヤ要ハ南京政府カ「ジャステイス」ヲ「アドミニス  
ター」スル誠意アルヤ如何ニ係ルト答ヘタリ次日支通商  
条約改訂ニ關シ伍ハ日本ハ南京政府ヲ無視セラルルヤト質  
問セルニ付国民政府ノ代表者カ何人ナリヤ決定スレハ勿論  
帝國政府モ交渉ノ經過ヲ南方(支那)拒否スル理由ナカルヘ  
ク支那全般ニ互ル国民的要望ノ如何ナルモノナリヤヲ確實  
ニ擱ムコトハ帝國政府ノ欲スル処ナルヘシ北京政府ノミヲ  
相手トシテ通商条約ヲ改訂スルモ支那ノ半カ南方政府ノ治  
下ニアリテ全然北京政府ヨリ独立セル以上条約ヲ南方ニ実  
施スルコト能ハサルニ非スヤト答ヘ置ケリ

491 昭和2年5月7日

在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件処理の単独交渉は南京政府を相手と

すべき意見具申について

北京 5月7日後發  
本省 5月7日後着

支外交方針ニ關シ伺ヒタル貴下ノ御意見ハ其後事案トシテ  
表ハレ来リタル次第モアリ(往電第六四二号)伍朝枢氏明  
朝南京ニ赴キ多分外交部長ノ職ニ就任スルコトナルヘキカ  
夫レニ付テ予メ貴下ノ御意見ヲ伺置キタキニ付特ニ御來駕  
ヲ願ヒタル次第ナリト述ヘ次ニ伍ハ「テクニカリー」ニテ  
南京政府ハ武漢政府ノ移轉ナレハ南京事件ニ關スル陳友仁  
ノ回答ハ之ヲ無視シ難キニ付右回答ハ大体ニ於テ列国ノ要  
求ヲ容認シタルモノナルカ列国ハ尚不満足ナリトハ如何ナ  
ル点カ不満足ナリヤ等質問アリ本官ヨリ列国ノ不満足トス  
ル点ハ「ノート」ノ字句ヨリモ寧ロ其ノ全体ノ精神ニ誠意ヲ  
認め難カリシ点ニアリト思ハルルカ若シ貴下カ外交ノ局ニ  
当リ誠意ヲ披瀝シテ本件解決ヲ図ラムトセハ列国モ敢テ之  
ニ応スルニ吝ナラサルヘク如何ナル方法ヲ採ル腹案ナリヤ  
ト質問シタルニ若シ列国ヨリ第二ノ「ノート」ヲ發送スル  
コトナシト假定スレハ陳友仁ノ回答ヲ認め右ニ基キ別ニ公  
文ヲ發スルコトナクシテ直ニ列国代表者ト交渉ヲ開始シタ  
ク其ノ方法ハ例ヘハ本日ノ會合ノ如キモノヲ開催シテ意見  
ヲ交換シ陳「オマレ」ノ協定ニテ漢口、九江ノ損害事件  
ヲ解決シタルカ如ク交渉ノ經過ヲ外部ニ發表スルコトナク

第五三三号

南京事件処理方ニ對スル米國及英國ノ態度ハ御承知ノ通り  
ノ次第ニテ先ツ只今ノ処五国協調ヲ以テシテハ何日ニ至リ  
勢揃ヲ為シ得ヘキヤ殆ト見付カス帝國トシテハ列国トノ  
協調可能ナル限リ協調ノ方針ニ出ツルコトノ得策ナルハ議  
論ノ余地ナキ次第ナルモ英米等ノ都合ニ依リ協調不可能ト  
ナリタル際ニ於テモ尚米若ハ英ノ響ニ倣ヒ手ヲ拱イテ再ヒ  
右兩國何レカヨリ心氣一転ノ申出アル迄何等為ス処ナキカ  
如キハ支那ニ於ケル帝國ノ立場ニ顧ミ余リ望マシキコトニ  
アラス且又南京事件其ノモノヲ考フルモ英米ノ都合ハ兎ニ  
角トシテ斯ノ如キ非常ナル暴行事件ヲ放任シ難キノミナラ  
ス若シ南方ニ對シテ之ヲ放任シ北方ニ對シテ南京事件ヨリ  
ハ比較的遙ニ輕微ナル長安丸事件ニ就キ嚴重ナル交渉ヲ為  
スモ北方ハ日本ノ遣口ニ對シ面白カラサル感想ヲ抱クヘキ  
ハ当然ノコトト信ス右ノ如ク考察シ来レハ日本トシテハ此  
際単独交渉ヲ為スヨリ致方ナキヤニ認めラルル処日本カ單  
独交渉ヲ為ス場合ニ於テ予メ他ノ四國ニ我方ノ意向ヲ通知  
シ置クニ於テハ英米ノ二國ハ固ヨリ異議ヲ挿ムヘキ理由ヲ

有セサルノミナラス感情ヲ害スルコトモナカルヘク仏伊二  
 国ノ態度ハ尚不明ナルモ右二国ハ何レノ途非常ニ重キヲ置  
 ク必要ナシ旁々我方トシテハ独自ノ見地ヨリ適當ナル方法  
 ニ依リ單獨交渉ニ出ツルコト然ルヘシト存ス而シテ(一)單  
 獨交渉ヲ為ス相手(二)交渉ノ方法ニ付テハ大イニ考量ヲ廻ラス  
 必要アリ元來本使ハ最初ヨリ陳友仁ヲ相手トスルノ得策ナ  
 ルヤ否ヤニ就テハ大イニ疑問ヲ有シタル次第ナルカ御承知  
 ノ如ク五国協調ノ趣旨ニ依リ漢口政府トノ交渉ニ入りタル  
 次第ナルカ我方單獨交渉ヲ為ス場合ニハ漢口政府ヲ相手ト  
 スルコトハ之ヲ避クルコト然ルヘク  
 蓋シ右ニ付テハ本使ニ於テモ種々ノ理由ヲ有スル次第ニテ  
 一二ヲ申上クレハ陳友仁ノ態度ハ徒ラニ弁論ヲ主トスル傾  
 アルノミナラス而モ露國式ノ掛引ヲ加味シ居リ一向信用シ  
 難ク過去ノ例ニ照ラスニ英國ノ居留地協定ノ如キハ英國ノ  
 大失敗ニシテ(英國公使モ之ヲ認メ居レリ)我方關係ノ事  
 柄ニ於テモ三井無線契約其他過去ニ於ケル北京政府トノ間  
 ニ締結セル協約契約等ハ非法政府ノ締結シタルモノトシテ  
 是ヲ否認スルノ態度ニ出ツルカ故我方ニ於テモ大ニ警戒ヲ  
 要スル次第ナリ

492 昭和2年5月10日

田中外務大臣より  
 在中国芳沢公使宛(電報)

南京事件解決交渉は五国協調によるべきで南  
 京政府を相手とする單獨交渉は慎重考量を要  
 するところについて

本省 5月10日後發

※ 第二六五号

貴電第五三三三号ニ関シ

南京事件解決ニ関シ大局上列国ノ協調ヲ保持スルコト極メ  
 テ肝要ナル次第ハ屢次往電ニヨリ御承知ノ通ナル処我方ト  
 シテハ最近迄五国協調立直シノ為種々米國政府ノ説得方ニ  
 努ムル一方英、仏、伊三國公使ノ米國ヲ除ク四國限リニテ  
 行動セムトノ主張ヲ抑ヘ来リシ行懸アルノミナラス列國側  
 トシテモ武漢政府ト唯タ一回ノ公文往復ヲナシタルノミニ  
 テ直ニ個別交渉ニ移ルカ如キハ正ニ陳友仁ノ術中ニ陥ルモ  
 ノト云フヘク其ノ威信ヲ保持スル所以ニ非ス從テ我方トシ  
 テ此際從來ノ共同交渉ノ方針ヲ變更シ單獨交渉ニ移ルヘキ  
 ヤ否ヤニ付テハ慎重考量ヲ要スル次第ナリ  
 然ルニ本件交渉ニ対スル英米兩國ノ態度ヲ見ルニ兩者共ニ  
 南京事件ヲ此ノ儘不問ニ付セムトスルモノトハ認メ難ク米

更ニ此ノ際特ニ考量スヘキハ閣下發高尾總領事宛電報第二  
 五二号滿蒙問題其他討議ノ為日本側代表者派遣方ニ関スル  
 陳友仁ノ申出ニ顧ミ南京事件ニ付我方ニ於テ單獨交渉ニ出  
 テ陳友仁ヲ相手トスル場合或ハ陳ハ南京事件以外前記ノ如  
 キ問題ヲ提出シ来リ相互懸連セシメテ掛引ヲナス虞ナシト  
 セサルコト是レナリ本來南京事件ハ一個ノ大ナル暴行事件  
 ニ過キスシテ何等永久の性質ヲ帯ヒサルモノニシテ謝罪ヲ  
 ナシ賠償ヲ遂ケ処罰ヲ実行シ保障ヲ与フレハ夫レニテ手打  
 トナルヘキモノニテ勿論政治上ノ事件等ト同視スヘカラス  
 現状ニ於テ事実上着々事ヲ運フヲ以テ主眼トスヘキ性質ノ  
 モノタリ從テ可成ハ暴行軍隊ノ首脳部及ヒ軍隊駐在地ニ於  
 テ交渉ヲナスコト望マシク陳友仁ハ國民政府ノ正当代表者  
 ナリ等ノ法理論ニ拘泥スヘキニ非ス是等ノ見地ヨリ漢口政  
 府ニ対シテハ交渉ヲ現在ノ儘トシ第二次通牒等モ發送セス  
 交渉打切りヲモ聲明セス將來必ス正式交渉ヲモナスコトア  
 ルヘキ余地ヲ殘シ置クト同時ニ南京政府ニ対シ主トシテ実  
 地的(若ハ非公式ニテモ宜シ)交渉ノ方法ヲ以テ解決方努  
 力ヲ試ムルコトト致シタシ右御考慮ヲ仰ク

國政府ノ意向ハ在米大使來電第一四九号ノ通此際急速ニ通  
 牒ヲ發スルハ不得策ナリ適當ノ機會ヲ俟テ賠償其他ノ要求  
 ヲ貫徹シ度シト云フニアリ又英國政府ノ意向モ此際引続キ  
 武漢政府ト交渉スルヲ無益ナリトシ目下南京政府トノ交渉  
 開始方ニ付考量中ナルカ如キコト在英大使來電第一二八号  
 ノ通ナリ他方南京政府側ニ於テハ在上海總領事來電第七一  
 五号ノ通國民政府カ南京ニ移転シタリトノ立前ノ下ニ陳友  
 仁ノ回答ノ後ヲ承ケ列國側ト本件交渉ヲ開始シ度キ意向ヲ  
 漏シツツアリ唯タ同政府ハ未タ草創ノ域ヲ脱セス貴電第四  
 六一号五國公使會議當時ニ比シ幾何ノ進境ヲモ示シ居ラサ  
 ル此際列國側ニ於テ今直ニ同政府ト本件交渉ヲ開始スルハ  
 尚早ノ嫌アリト思考ス故ニ今後同政府ノ基礎相當定マリ其  
 ノ本件解決ニ対スル誠意ト実力ノ認ムヘキモノアルニ至ラ  
 ハ英米其他關係國ニ於テモ同政府ヲ相手ニ公式若クハ非公  
 式ニ交渉ヲ開始スルコトニ敢テ異存ナカルヘク我方トシテ  
 ハ特ニ南方ノ形勢ノ推移ヲ注視シ右機會ノ至ルヲ俟チ再ヒ  
 五國協調ノ方針ノ下ニ南京政府ト交渉ヲ開始スルコト可然  
 在上海總領事宛往電第二二三号南京領事館保護方ノ件ノ如  
 キモ差当り前記南京政府ノ誠意ト実力トヲ判断スルノ一機

会ナリト思考セラレ

右ノ次第ナルヲ以テ前記貴電御意見中結局ニ於テ南京政府ヲ相手ニ本件交渉ヲ行フヘシトノ点ニ付テハ大体同感ナルモ当方ニ於テハ往電第二三七号<sup>(四七七文書)</sup>ノ通令後南京政府ト交渉ヲ開始スルニ付或ハ最後ニハ単独交渉ニヨルノ外ナキコトアリトスルモ先ツ五国協調ヲ眼目トスル方針ニ付右ニ御含置アリ度

493 昭和2年5月11日 在英松井大使より  
田中外務大臣宛(電報)

英国外相下院にて武漢政府への第二次通牒発  
出取止めの事情説明について

ロンドン 発  
本省 5月11日前着

※  
第一三四号

九日外相ハ下院ニ於テ南京事件ニ関シ大要左ノ通陳述セリ  
南京事件ニ対スル第一次通牒ヲ陳友仁ニ交付シタル際ハ陳ハ南方政府ノ外相ニシテ同政府ハ当時長江以南ヲ掌握シ將ニ北方ヲモ支配セントスルノ勢ニアリ從テ該事件ニ対シ責任ヲ負フヘキ政府ト認メタルモ今日陳及其政府ハ単ニ極左

現ヲ待ツ点ニ付テハ賛成ナルモ徒ラニ消極的政策ヲ執ルハ輿論ノ与セサル処ナリトノ趣旨ヲ論セルニ対シ「ガーチア・ニュース」ハ政府ノ決定ニ大賛成ノ意ヲ表シ居レリ

494 昭和2年5月26日 田中外務大臣より  
在上海矢田総領事宛(電報)

伍朝枢外交部長と松井少将の南京事件に関する  
会谈内容について

※  
第三六四号 本省 5月26日後発

六 南 京 事 件  
貴官漢口出張中参謀本部松井少将伍朝枢ト南京事件解決ニ関シ意見ノ交換ヲ行ヒタルニ伍ハ(イ)本件ハ努メテ迅速ニ解決ヲ図リ度キコト(ロ)南京政府側ニ於テハ状況ノ変化セル今日列國ノ態度多少緩和スヘキヲ予期シ居ルコト(ハ)本件ニ関シテハ公式通牒ヲ避ケ内交渉ノ方法ニ依ルコトトシ右ニヨリ意見一致セハ支那側ヨリ之ヲ公表シ円満解決スルコトトシ度キ旨述ヘ尚本件ニ付テハ何レ總領事トモ面会スヘキモ右ノ次第同少将ヨリ日本政府ニ転達セラレ之ニ対スル日本政府ノ意向ヲ至急承知シタキ旨申出アリタル趣ヲ以テ松井ヨリ本大臣宛右我方ノ内意ヲ承知シ度キ旨電報シ来リタル

派ヲ代表スルニ止マリ該派ニ反抗セル蔣介石一派ハ南京ニ別ニ国民政府ヲ創設シ事態ハ全く一変セリ依テ英国其他列國ハ陳ノ回答不満足ナルニ拘ハラズ之ニ対シ第二ノ通牒ヲ送ルモ無用ナリト決定シ今ヤ偏ニ排外運動ヲ斥ケ列國ト共同シ新支那ヲ建設スヘキ政府ノ実現ヲ期待シツツアリ英国政府ハ斯ル政府ト条約ノ修正ヲ商議スルノ用意アルト共ニ右ノ政府ハ其責任ヲ執リ英国民ノ受ケタル暴行ニ対シ賠償ヲ為スヲ要スルコト勿論ナリ吾人ハ終始支那ニ好意ヲ表シ漢口居留地ノ処分ニ付テモ此ノ精神ヲ以テ取極ヲ結ヒタルモ陳及其ノ一派ハ之ニ酬ユルニ暴戻ヲ以テセリ故ニ英国ハ該取極ヲ以テ国民政府自身ノ行為ニ依リ無効トナリタルモノト見做シ居留地ヲ奪回スル充分ノ理由ヲ有スルノミナラス是カ奪回ノ為メノ手段ヲ有スルモ今ヤ Imported policy ハ排除サレタルニ鑑ミ新支那トノ友好關係樹立ヲ念トスルカ故ニ此ノ手段ニ出テサルコトニ決スルト共ニ此ノ際陳ニ対スル第二次通牒ノ發送ヲ提議セサルコトトセリ但シ不法ノ挙アル場合ニ於ケル行動ノ完全ナル自由ヲ保留スルコト勿論ナリ云々

右陳述ニ関シ「テレグラフ」ハ責任ヲ問フニ足ル政府ノ出

ニ就テハ貴官ハ右含ノ上適當ノ機会ニ伍ト会見シ南京政府側ノ真意ヲ突止メラレ結果回電アリ度シ尚本件ニ関スル我方針ニ付テハ右貴官ノ報告ヲ俟チタル上追テ何分ノ儀申進スルコトト致度シ

495 昭和2年5月30日 在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

伍朝枢外交部長より提示された南京政府の南京事件解決に関する声明案について

別電 五月三十日付在上海矢田総領事より田中外務大臣宛第七九七号  
南京事件に関する南京政府の声明案

※  
第七九六号 上海 5月30日前発  
本省 5月30日後着

南京事件ニ関シ二十六日南京ニ於テ蔣介石ト会見ノ際懇談ヲ遂ケ又二十七日帰滬後黄郛並ニ郭交渉員トモ会見ノ次第アリ其ノ結果二十九日伍朝枢ニ面会シタルカ伍ハ本件解決ノ為日本政府ヨリ高官派遣ヲ希望スト述ヘタルニ付高尾総領事宛貴電第七一号ノ趣旨ヲ申聞ケ本官ハ総領事ナルモ本

(別電)

Shanghai 30 May 9. 51 a. m.  
Tokio // 1. 10 p. m.

Gaimudaijin,

※No. 797.

Nationalist government will be responsible for damage done to foreign lives and properties according to the generally accepted rules of International Law.

1. Nanking affair was caused principally by the soldiers of 19th. Division instigated by the Communists. Now entire Division has been disarmed and instigators have been punished while the political commissioner of the 6th army corps Lin Tsu-han is under the order of arrest.

2. Wai Chao-pu will, in the note concerning Nanking incident, express regret; stringent orders have already been or will be issued concerning full protection of foreign lives and properties and statement of the same effect has been inserted in the declaration

アルニ付不取敢上海ハハ別電第三〇七号ノ通り訓令シ置キタル次第ナルカ此際直ニ南京政府ニ対シ本件交渉ヲ開始セムトスルハ往電第二六五号ノ通り時機尚早ノ嫌ナキニ非ルモ同政府ニ於テ自ラ責任ヲ負ヒ本件解決ノ為スル自発的声明ヲ行ハムトスルノ意思アルニ於テハ従来ノ制裁問題ノ如キモ自然解消スルノミナラス関係列国トシテ武漢政府ニ対スル交渉ノ後ヲ受ケ直ニ南京政府トノ間ニ本件協議ヲ開始スルニ異議ナカルヘキニ付テハ貴官ハ別電ノ次第御含ミノ上貴地関係四国代表者ヲ誘導シ本件解決ノ氣運ヲ醸成スルト共ニ其ノ意見略一致スルニ於テハ機ヲ逸セス問題ヲ上海ニ移シ同地ニ於テ関係各国代表者ト南京政府トノ間ニ本件交渉ヲ開始シ得ル様可然御措置アリ度

497 昭和2年6月1日 田中外務大臣より  
在上海矢田総領事宛(電報)

南京政府声明案に対する我方の修正点についで

※第二七二号  
(四九五文書)  
貴電第七九六号ニ関シ

本省 6月1日後発

件交渉ニ当リ得ヘキ旨ヲ述ヘタル処伍ハ南京政府ハ別電第七九七号ノ通り草案ヲ示シ之ヲ自発的ニ声明実行スル考ナルカ右ハ日本政府ノ満足ヲ贏得ル処ナルヘキヤトテ本官ノ腹藏ナキ批評ヲ求メタルニ付当座ノ氣付ヲ申セハ武装ヲ解除シタリトテ「クリミナル」ハ依然「クリミナル」ナリ夫レニテ犯人処罰ノ責任ヲ免レントスルハ無責任ニ非スヤト詰問シタルニ伍ハ真犯人ハ既ニ死刑ニ処シタリ人名表ヲ提出スヘシト答ヘタルニ付斯ル措処ハ日本政府ヲ満足セシメサルノミナラス却テ其誠意ヲ疑ハシムルモノナルヘク再考ヲ要スト存セルカ冤ニ角政府ニ電報シテ訓令ヲ仰ク可シト答ヘ置ケリ

就テハ本件解決トシテ帝國政府ノ御意向御電訓ヲ得ハ本官上京前ニ主義上ノ一致点ヲ見出スコト必スシモ不可能ナラサルカ如ク感セラレタリ

尚別電草案ニ付列国側トモ意見ノ交換ヲ為ス筈ナルカ伍モ相当修正ノ覚悟アルカ如ク見受ケラレタリ

尚其ノ際本件ニ関シ他国総領事ト会谈ヲ開始セルヤト尋ネタル処英國側トハ英國公使ヲ通シ提案シ置ケリト語レリ

of Minister of Foreign Affairs.

3. Nationalist Government will pay compensation to the Japanese nationals where the case is clear that damage was done by the troops. In the cases Nationalist government will pay compensation upon proof that Nationalist Government should be held responsible according to the International Law.

For this purpose a joint commission of the two countries will be instituted for the examination of such cases. Yada

496 昭和2年6月1日 田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

南京政府声明案に關シ四国代表者を誘導して解決の氣運醸成方について

※第三〇六号  
在上海総領事電第七九六号ニ関シ  
(四九五文書)  
伍申出声明案ノ各条項ニ付テハ尚研究ヲ要スヘキモノ多々

本省 6月1日後発

伍申出声明案ニ付テハ当方ニ於テ慎重審議中ナルカ右ニ関シテハ在支公使宛往電第三〇六号通りノ方針ナルニ付貴官ハ最近ノ機会ニ於テ貴官ノ思付キトシテ左ノ諸点ニ付適當南京政府側ノ意向ヲ探ラレ度シ

(イ) 声明案一、処罰ノ項ハ貴官ノ伍ニ対スル応酬ノ通不満足ト認メラルル処右ニ付テハ南京政府ニ於テ修正ニ応スル覚悟アリヤ否ヤ

(ロ) 声明案全文ノ意味ヨリスレハ陳謝ハ当然南京政府之ヲナスヘキ筈ナルニ付声明案冒頭 “Wai Chao-pu” ハ “Nationalist Government” ト改ムルカ又ハ「国民政府ノ名ニ於テ」等ノ字句ヲ適當ノ場所ニ挿入スルコトヲ承諾スル意向アリヤ右ハ重大ナル者ニ非サレトモ為念

(ハ) 我方トシテハ屢次往電ノ通り列国側ト南京政府トノ間ニ立チ適當ノ条件ヲ以テ本件解決方ニ付尽力ヲ吝ムモノニ非ルヲ以テ南京政府側ニ於テモ右ヲ諒トシ例ヘハ損害賠償ノ件ニ付テモ声明案三、ノ如ク何等責任ヲ回避シ若ハ其ノ誠意ヲ疑ハシムルカ如キ字句ヲ用フルヲ避クルト共ニ一切ノ列国側ノ損害ハ其ノ暴徒ニ依ルト将又軍人ニ依ルトヲ問ハス一率之ヲ賠償スルノ態度ニ出ツルコト南京

第六一六号

貴電第三〇六号ニ関シ

六月二日五国公使會議ヲ開キ在上海總領事発閣下宛電報第七九七号伍朝枢声明案ノ写ヲ交付シ御訓示ノ趣意ヲ体シテ四国代表ノ誘導ニ努メタル処仏国公使ハ在上海總領事宛貴電第二七二号矢田總領事ノ思付トシテ南京政府側ノ意向ヲ探ルヘキ諸点ニ就テハ全然同感ノ意ヲ表シ且伍ノ声明案第一項ニ関シ第十九師トアルモ南京事件ノ主タル關係者ハ第十九師ノ兵卒ノミニアラス第十九師ハ共產党撲滅ノ趣意ヲ以テ解散セラレタルモノナルヤモ測リ難ク且第六師モ同事件ノ主タル關係者ナルコトハ第一項ノ第二節ニ於テ自白シ居レル処ニシテ而モ林祖涵ナルモノハ共產党タルカ為ニ逮捕セラレタルモノナルヤモ測リ難ク南京事件ノ關係者タルカ為ナラサルヘク要スルニ第一項ハ眉唾物ナリト思考スト述ヘ英國代理公使ハ「ランブソン」ヨリモ大体同様ノ報道ニ接シ居レルカ同公使ハ九日帰任スヘキニ付右帰任ヲ俟チテ討議スルコトトシタシト述ヘ米国公使ハ最近南京領事「デビイス」ニ出京ヲ命シ同領事ハ「ランブソン」ヨリ前ニ着京スヘキニ付同領事ト相談ノ後ニ本件ノ討議ヲ為シタ

六 南 京 事 件

政府ニトリ大局上得策ナルヘク場合ニ依リテハ英國トノ間ニ九江事件ヲ解決シタル先例ニ抛ルコト極メテ望マシキ次第ニシテ又共同調査ニ付テハ列国側ニハ随分議論ノアル所ナルモ我方ニ於テハ支那側ノ面目維持上將又其ノ国内ニ於ケル立場上之ヲ実行スルコトニハ列国ヲ説得シツツアル内情ナルニ付右ハ表面上存置スルコトニ異議ナキモ實際上極メテ簡單ニシ且出来得ル限り關係五ヶ国並支那側間ニ一括シテ之ヲ行フ等南京側ニ於テ誠意ヲ披瀝スレハ本件ハ列国間ニ協議ヲ纏ムルコトモ困難ナラサルヘキ処其ノ辺南京政府ニ於テ如何ナル覚悟アル次第ナリヤ篤ト勸告懇談ヲ遂ケラレ結果回電アリ度

498

昭和2年6月2日

在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京政府声明案に関する五国公使會議審議状況について

北京 6月2日後発  
本省 6月2日後着

キ旨ヲ述ヘタリ貴電第三〇六号ノ御趣意ハ各公使ニ於テ本使ノ説明ニ依リ好ク諒解シタルモ英米代表者ニ於テ「ランブソン」又ハ「デビイス」ノ着京ヲ俟チタシト主張スル以上致方ナク從テ更ニ数日ノ後改メテ協議スルコトトナリタリ

499

昭和2年6月2日

在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

英公使が南京事件に関する伍朝枢との非公式交渉につき内談について

上海 6月2日後発  
本省 6月2日後着

第八一〇号

往電第七九六号ニ関シ

六月一日英國公使ト会见同公使ハ自分ノ来滬ノ目的ニ付テハ種々世上ニ取沙汰セラレ居ルモ實ハ陸海軍主腦者ト意見交換スルノ外他意ナカリシ旨ヲ語リタル後尤モ南京事件ニ関シ支那ヲ通シテ伍朝枢トノ間ニ非公式ニ交渉ヲ開始シ相當ノ曲折ヲ経テ最後ニ英國側ノ要求ノ最少限度ヲ支那側ニ提示シ目下其ノ回答ヲ待チ居ル旨ヲ述ヘ支那側最初ノ提案

ハ米仏宛ノモノモ自分ノ受取りタルモノト同様ナルニ付貴官ノ接受セラレタル分モ亦大同小異ノモノト思ハルトテ其ノ支那側ニ提示セル所謂最少限度ノ要求ニ付述ヘタリ  
(一) 処罰ノ点支那側原案甚タ満足ニシテ英國ノ要求ハ既ニ処罰セル犯人ノ名簿並ニ将来処罰スヘキ犯人及責任者(軍隊ノ指揮官ヲ含ム)ノ名簿ヲ提出シ英國側ノ満足スルモノタラシムヘキコト

(二) 謝罪ノ件ハ国民政府ノ名ニ於テ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表シ将来ノ保障ニ関シテハ四月十一日提出要求ノ文書ニ基キ布告ヲ出サシメ其ノ文言ハ英國側ノ満足スヘキモノタルコト  
(三) 賠償ニ付テハ支那側ニ於テ賠償ノ責任ヲ承認スレハ兩國委員ニ於テ損害ノ真否程度ニ付調査シ金額ヲ決定スルコトニハ異議ナシ尚同公使ハ本件ヲ英支側ニ於テ協定スレハ他ノ三国モ之ニ均霑スルコトト思ハルル処自分モ毛頭他ノ友邦ヲ出シ抜ク精神ナキニ付以上ノ事情ヲ貴國政府ニ報告セラレタク尤モ極秘ニ扱ハレ度シト付言セリ

500 昭和2年6月3日

在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

英米仏三国の南京政府との接触状況について

本省 6月4日後着

※  
第八二四号

(四九七文書)  
貴電第二七二号ニ関シ

本日三日伍朝枢ニ会见懇談ノ結果左ノ如シ

(一) 処罰ノ点ニ就キ伍ハ(イ)事件カ南京政府定都前ノ出来事ナルコト(ロ)犯罪カ全然共產党ノ所為ナルコトノ二ツノ理由ニ依リ責任ハ当然武漢政府ニ歸スヘキモノナリ從テ南京政府ノ立場ハ徳義上ノ責任ヲ有セサルモ武漢政府ノ移転ト言フ建前ト列國トノ關係ヲ顧念シテ誠意解決ヲ計ラムトスルモノナル故日本政府ニ於テモ此点ヲ諒トシ余リ強硬ナル要求ヲ「プレス」セサル様希望ス例ヘハ程潜等指揮官ノ処罰ノ如キハ南京政府ノ立場ヲ困難ナラシムルモノナリ殊ニ山東出兵問題ノ突発ハ当方面ノ空氣ヲ悪化セシメ益々本件解決ヲ容易ナラシメサルモノアリト述ヘテ容易ニ修正ニ応スル色ナカリシヲ以テ一応論駁シタル後之ヲ後廻シトシ

(二) 外交部ノ文字ヲ「南京政府若ハ国民政府ノ名ニ於テ」ト訂正スルコトヲ申入レタルニ之ヲ承諾セリ

(三) 賠償並共同調査ノ件ニ就キ伍ハ in other cases 以下ノ

六 南 京 事 件

上海 6月3日後発  
本省 6月4日前着  
※  
第八二三号  
(四九九文書)  
往電第八一〇号ニ関シ

昨二日夜及今朝英國公使及英米総領事ニ会ヒタル結果左ノ通訂正ス

(一) 英支間ノ關係ハ交渉ト称シ居ラス第三者ヲ通シテ接触シ居ル形ナリト  
(二) 支那側ヨリノ回答ハ二日夜未タ接到セス  
(三) 仏ハ在支公使ヨリ交渉開始ノ時期ニ非ストノ訓令アリ從テ未タ支那側ヨリ声明書案ヲ受取り居ラス  
尚米國総領事ハ支那側ノ提案ヲ接受セルモ内容ハ陳友仁ノ回答ト大差ナキヲ以テ米國政府ハ之レヲ満足ノモノト認メサルヘシト語レリ

501 昭和2年6月4日

在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

南京政府声明案の修正に関する伍朝枢との会

見結果について

上海 6月4日前発

一句ヲ加ヘタルハ損害ノ調査ニ英米ノ砲撃ニ基クモノアルヘキヤモ測ラレサルヲ以テ支那軍隊ニ依リテ加ヘラレタル損害ニアラサルコトヲ決定スヘシト言フ趣旨ナリト述ヘタルニ付

何レニセヨ文句曖昧ナルニ付右 in other cases 以下 international law 迄ノ一句ノ削除ヲ要求シタルニ之ヲ承諾シ最後ノ文句ヲ次ノ如ク訂正方ヲ提議セリ a Joint Commission of two countries will be instituted for the purpose of determining responsibility in each individual case and amount of compensation.

猶共同調査ハ形式的ノモノトシテ迅速解決スヘキコトヲ申聞ケ其諒解ヲ得タル後(一)ニ返リ論議ヲ尽シ当方ノ調査ニ依レハ加害兵ハ一九師ニ限ラス又其數モ二百名以上ナルコト確實ナルニ付処罰洩レノモノ多クアルヘキニ拘ラス要スルニ南京政府ニ処罰ニ関スル限り既ニ解決済ナリト主張スルヤト突込ミタルニ必スシモ然ラスト答ヘタリ依テ本官ハ貴下ハ此一項ノ修正ニ応スル意向アリヤ否ヤ簡明ナル回答ヲ得タシト迫リタルニ全然応セスト言フ次第ニハアラス(it might be possible)ト答ヘ何人カニ相談ノ上決定スルカ

如キ口吻ヲ洩ラシタルニ付夫レ以上追求セスシテ引取リタ

502 昭和2年6月6日 田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

南京事件解決のため南京政府と交渉方英国大  
使談話について

※第三一八号 本省 6月6日後発

六月四日在本邦英国大使来訪シ南京事件ニ関シ「ランプトン」ハ蒋介石側ト非公式ニ接触シタル処南京政府カ国民革命ノ為ニ真面目ニ努力シ本件ノ解決ニ就テモ真面目ナリトノ印象ヲ得タル旨ヲ述ヘ從而本件ニ関シテモ此ノ際南京政府トノ間ニ其ノ解決ニ一歩ヲ進メ度キ考ナル処如何ト尋ネタルニ付本大臣ハ矢田総領事カ今日迄南京側ト接触シタル所ニヨリ帝國政府ニ於テモ同様ノ感想ヲ得居リ急速ニ本件交渉ヲ開始スルコトニ付テハ本大臣ニ於テモ同感ナルカ其ノ方法トシテハ本件ヲ北京ニ移シ先ツ關係五国公使ノ議ヲ纏メタル上上海各國領事ニ指図シテ南京政府ニ交渉セシムルコトト致度ト謂ヘルニ英国大使モ之ニ同意ナル旨ヲ述ヘ

(三)賠償ニ付テハ其金額ヲ定ムル為英支連合委員会ヲ任命スルコトニ異存無キ旨

(四)英国軍艦ノ南京砲撃ニ付テハ王ヨリ英国側ヨリ遺憾ノ意ヲ表シ且損害賠償相当ノ要求ヲ為シタルニ付自分ハ遺憾ノ意ヲ表スルハ差支無キモ砲撃ノ所為ハ英国側自衛ノ措置ニシテ必要已ムヲ得サルヲ以テ賠償ノ責ニ任スル能ハサル旨主張シ其結果王ハ前記四項目ヲ齎シテ南京ニ赴キ目下蒋介石ト協議中ナルカ自分ノ上海ニ於ケル王トノ交渉ハ勿論英国側ノミニ関シ且非公式ノ交渉ナルカ自分トシテハ交渉進捗ノ見地ヨリスレハ或ル程度迄寧ロ单独交渉ヲ為ス方得策ナルヤニ認メタリト語リタルニ付本使ハ本月二日五国会議ノ際「オメレー」ハ貴公使ノ帰任ヲ待ツテ南京事件ノ討議ニ応スル事トシタシト述ヘタル経緯アルノミナラス兎ニ角五国公使ノ會議ニ於テ一応意見ノ交換ヲ行フ事五国協調ノ歴史ニ顧ミ当然ノ事ト思ハルト述ヘタル処同公使モ同意ヲ表セルニ付本使ハ直ニ九日ヲ以テ五国公使會議ヲ開クノ手續ヲトリタリ

六 南 京 事 件

504 昭和2年6月10日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

タリ  
503 昭和2年6月8日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)  
南京事件解決に関する英国公使との会談につ  
いて

※第六五〇号 北京 6月8日後発  
本省 6月8日後着

六月七日英国公使帰任八日来訪会談二時間ニ亘リタルカ同公使ハ上海滞在中王寵恵トハ殆ト毎日ノ如ク会见シタリトテ南京事件ニ関シ自分ハ王ニ対シ  
(一)処罰ニ付テハ南京政府ハ既ニ罰シタルモノ及ヒ将来罰セントスルモノノ人名表ヲ交付スヘク程潜ニ付テハ例ヘハ将来決シテ何レノ官職ニモ採用セサルノ保障ヲ為スヘキ旨  
(二)陳謝ニ付テハ王ハ蒋介石ヲシテ陳謝セシムル事ノ困難ヲ訴ヘタルニ付外交部ヲ経テ國民政府ノ名ニ於テ陳謝セシムル事トシ且将来此種ノ暴行事件其他排英運動等ヲ為ササル事ノ保障ヲ与フヘキ旨

五国公使會議にて英国公使が南京政府との非  
公式交渉状況報告について

別 電 六月十日付在中国芳沢公使より田中外務大臣宛  
第六六〇号  
北京 6月10日前発  
本省 6月10日前着  
英国公使より王寵恵に交付したる覚書

※第六五八号  
往電第六五〇号ニ関シ

六月九日五国会議ヲ開キ英国公使ヨリ大体右記載ノ同公使ノ談話ト同様ノ陳述ヲナシタル上王寵恵ハ条約ノ改正ヲ提議シタルニ付自分ハ此ノ問題ニ関スル英国政府ノ意向ハ十二月十八日ノ覚書(客年往電第八三二号)及ヒ一月下旬ノ「ステートメント」(往電第一四四号)ニ依リ既ニ明カナリト答ヘ置キタル旨ヲ述ヘ自分ノ得タル印象ニ依レハ支那側ハ五国共同シテ交渉ニ当ル事ヲ嫌ヒ居レルニ付少クトモ或ル程度迄王寵恵ト自分トノ非公式交渉ヲ此儘継続スルコト得策ナルヤニ認メ得ト付言シタリ  
依テ本使ハ米国公使ニ向ヒ貴公使ハ前回ノ會議ニ於テ「デヴィス」領事ト協議ヲ遂ケラルル迄意見ヲ留保セラレタル

カ右協議ハ終了シタル次第ナリヤト尋ネタル処同公使ハ「デヴィス」ノ意見ヲ徴シタルニ「デ」ハ南京政府ハ英国公使ノ述ヘラレタル通南京事件解決ノ希望ヲ有ストノ事ニテ自分モ各国共同シテ交渉スルヨリモ単独ノ方交渉進捗ノ便宜アリト思考シ且英国公使ハ王寵恵トノ間ニ是迄商議ヲ進メタルコトニモアリ或ル程度迄五国ノ為同公使ヲ煩ハシテ此儘交渉ヲ進捗セシムルコト關係國ノ為得策ナリト思考スト述ヘム伊公使モ亦是ニ賛成ノ意ヲ表シタルニ付本使ハ本使ノ受領セル日本政府ノ訓令ハ五国協調ヲ本旨トシ且今日迄共同シテ交渉ヲ遂行シ来リタル事実ニ顧ミ何レノ一國タリトモ非公式ニセヨ単独交渉ノ方法ニ出ツルコトニ付テハ本国政府ノ承認ヲ得ルニ非サレハ本使ニ於テ同意ヲ表スル能ハスト述ヘ尚英国公使及王寵恵ノ交渉カ或ル程度迄達シタル後ハ各国単独ニ交渉スヘシトノ意見ナリヤト尋ネタル処米国公使ハ其際更ニ考量ノ上各国単独ニ交渉スヘキヤ又ハ依然英国公使ヲシテ交渉ヲ継続セシムヘキヤヲ決スルコト然ルヘシト答ヘタルニ付本使ハ本国政府ヘ請訓シテ諾否ヲ決スヘシト答ヘタル処英国公使ハ実ハ王寵恵ト自分トノ交渉ハ全然非公式ニシテ個人的交渉ナルカ故王ハ交渉ノ

含シ置キヲ請フ同公使ノ挙動ニ顧シ上海ニ於テ頗ル秘密ニ交渉ヲ進捗シ多少或ハ拔駟ノ功名ヲ博セントスルカ如キ小ナル功名心アリタルヤモ計リ難キヤニ邪推セラル但シ本使トシテハ王寵恵カ南京ニ赴キ国民政府当局ト協議ヲ遂ケル際果シテ英国公使ノ希望スルカ如ク速ニ圓滿ナル妥結ヲ告クヘキヤ些カ疑ナキ能ハス御参考迄

(附 郵)

Peking, June 10th, a. m.  
Rec'd, June 11th, a. m.

Gaimudaijin, Tokio.

\*No. 660

Private and confidential.

Following is text of memorandum handed by Sir Miles Lampson to Wang Chung-hui in Shanghai on May 31st.

Demand 1.

Adequate punishment of those concerned in the outrage.

六 南 京 事 件

内容ハ何人ニモ洩ササルコトニ致シ居リタル程ニ付日本政府ニ請訓セラルルコトハ自分カ英国政府ニ電報シテ五国政府ノ為交渉シ得ヘキヤ否ヤノ訓電ニ接スル迄一兩日待タレタシト申出テタルニ付本使ハ本日五国公使会議開催ノ次第ハ新聞記者モ之ヲ探知シテ或ハ東京ニ電報スヘク旁自分トシテハ此ノ會議ノ顛末ヲ本国政府ニ電報スルコトヲ一日タリトモ見合スコト能ハス但シ本使ノ電報ニ基キ日本ニ於テ英国政府其ノ他ニ対シ措置ヲ採ルコトヲ見合セ方電報スルコトハ差支ナシト述ヘタル処英国公使モ之ヲ首肯シタリ本使ハ尚英国公使ニ対シ同公使ヨリ王寵恵ニ交付シタル覚書ノ写送付方ヲ要求シタル処同公使ハ之ヲ承認シタ刻別電第(省略)六五九号及別電第六六〇号ノ二通ヲ送越セリ実ハ同公使カ北京着後非公式ニセヨ王寵恵ヨリ飯ニ南京事件解決ノ交渉ヲ受ケタルニモセヨ従来ノ五国協調ノ歴史ニ顧ミ他ノ四國ニ断リタル上非公式交渉ヲ進メタル方然ルヘシト思考セラールモ米国公使ノ如キハ前記ノ通進テ英国公使ニ或程度迄一任スヘシトノ提議ヲナシタル始末ニ付本使モ前記ノ言説以上攻撃スルコトハ見合セ置キタリ尚英国公使ハ頗リニ王トノ交渉ノ内容ノ秘密厳守ヲ切望シ居リタルニ付此ノ儀御

The Nationalist Authorities to furnish to the satisfaction of H. M. Government a statement giving the results of their investigation into the outrage: details (the names, or to be awarded, including a statement of the punishment inflicted on specified Commanders).

Demand 2.

Apology.

An expression of profound regret in writing, and an express undertaking to refrain from all forms of violence and agitation against British lives and property.

The sincerity of this undertaking to be shown by the communication of the Text (to be agreed upon in advance) of a definite written order addressed to all civil and Military Officials prohibiting official support in any form for political strike, boycott or other form of violence or agitation directed against British interests.

Demand 3.

Reparation.

Upon the Nationalist Authorities accepting responsibility for the making of complete reparation for personal injuries and material damage done, a Sino-British Joint Commission can be instituted for the purpose of verifying the actual injuries and damage done to British lives and property by the Chinese concerned and of assessing the amount of compensation due in each case.

Yoshizawa.

505 昭和2年6月14日

在中国堀臨時代理公使より  
田中外務大臣宛(電報)

英公使が南京事件解決は慎重に行うべしとの  
本國政府の方針談話について

北京 6月14日後発  
本省 6月14日後着

第六八八号  
\*(五〇四文書)  
往電第六五八号ニ関シ

六月十三日英国公使来訪ノ際芳沢公使ヨリ南京事件交渉ニ

(一)英国公使ノ他四國側ニ対スル相談ハ英支間ノ单独交渉ヲ容認セムコトヲ求ムルモノノ如ク右ニ対スル米國公使ノ提議ハ英国公使ノ非公式交渉ヲ一種他ノ列國ノ委任ヲモ含メテ其ノ繼續ヲ懲慚セルモノノ如ク兩者ノ意向明瞭ナラサル点アルモ從來ノ五國協調ノ歴史ニモ鑑ミ必要ニ応シ他ノ四國側ニ対シ英支間非公式单独交渉ノ經過ヲ内示スルコトトシテ英國側カ右交渉ヲ繼續スルニ付他國ノ諒解ヲ求ムルモノナリト解スルノ外ナシ就テハ貴官ハ關係國公使ニ対シ右ノ解釈ノ下ニ日本政府ハ前記英支間ノ交渉繼續ニ何等異議ナキ旨明言セラレ同時ニ我方ニ於テモ從來同様ノ趣旨ニテ矢田總領事ニ於テ南京政府側ト非公式交渉ヲナシ屢次關係國公使ニ内報セル次第ナルカ此ノ上共右交渉ヲ繼續スルコトトスヘキ旨ヲ述ヘ諒解ヲ求メ置カレ度

六 南 京 事 件  
(二)右ノ次第ナルヲ以テ今後英國側日本側何レモ前記ノ趣旨ニ依リ相並行シテ南京政府側ト非公式交渉ヲ進ムル場合或ハ兩者ノ結果相一致セス若クハ我方ノミ南京政府側トノ間ニ一定ノ諒解ニ到達シ結局单独解決ニ至ルヘキニ付右ニ御含ミ置キアリタシ

関シテ其後本國政府ヨリ何等訓令ニ接セラレタリヤト尋ネタル処「ランプソン」ハ然リ本國政府ニ於テハ各國政府カ領事館等ヲ通シテ適當ニ南京政府ト交渉ヲ為スコトニ対シテハ固ヨリ異存ナク又「ランプソン」カ王寵惠トノ交渉ヲ続行スルコトニモ異存ナキモ王寵惠ノ南京政府ニ於ケル位置ハ果シテ如何ナルモノカ疑ハシク同氏ノ力ヲ以テ充分事件ノ結果ヲ付ケ得ルヤハ疑問ノ余地アルニ付其辺ノ注意ヲ為ス必要アルヘク要スルニ英國政府トシテハ本件ヲ急速ニ解決スルヨリモ時機ハ遅ルルトモ寧ロ確實ニ結末ヲ付ケムコトヲ欲スル次第ナリト言フ趣旨ノ訓令ニ接シタリトコトヲ語レル由ナリ本件ハ何レ外交団會議ニ披露セラルルコトト思ハルルモ不取敢

506 昭和2年6月14日

田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛(電報)

日本政府は英國側の南京政府との非公式交渉  
繼續に異議なき旨回訓について

本省 6月14日後発

第三二九号  
\*(五〇四文書)  
貴電第六五八号ニ関シ

507 昭和2年6月16日

在中国堀臨時代理公使より  
田中外務大臣宛(電報)

英國公使が五國公使會議において英國政府の  
南京事件対応方針表明について

北京 6月16日後発  
本省 6月16日後着

\*(五〇四文書)  
第六八八号  
往電第六八五号ニ関シ  
十六日五國公使會議ニ於テ英國公使ヨリ本國政府ノ訓令ノ内容ヲ披露セリ右ニ依レハ英國政府ハ曩ニ「ランプソン」ヨリ直接王寵惠ニ提議セル解決要項並其单独非公式交渉方法ト其經過ヲ關係國間ニ内示シ又他ノ關係國ニ於テモ夫々可ト信スル方法ニ依リ英國側ヨリ得タル情報ヲ先方ニ示スコトナク单独ニ交渉ヲ進行セシムルコトヲ承認シ来リタルカ更ニ左ノ如キ注意ヲ与ヘ來レルモノノ如シ

(一)英國政府ハ南京事件ノ解決ヲ熱望スルモ夫レハ充分実力アリ且責任ヲ取り得ル政府ヲ相手トスヘキコトヲ肝心トシ此点ニ於テ南京政府カ果シテ合格スルヤ否ヤ又合格スルトシテモ王寵惠カ南京政府ニ何程ノ勢力アリヤハ猶疑

問ニ属スルカ故ニ交渉ハ非常ナル警戒ノ下ニ之ヲ行フヲ要ス

(二) 本件交渉ニ当リ英国政府ハ南京政府ニ対シ解決ヲ迫ル如キ態度ハ之ヲ避ケ飽迄先方ヨリ動キ来ルヲ俟チ受動的ニ交渉ニ応スルノ態度ヲ失ハサルコト

(三) 英国公使ト王寵惠トノ交渉ノ経過ヲ関係国間ニ内示スルコト差支ナキモ之カ為英国ハ決シテ他ノ関係国ノ代表トシテ南京政府ト折衝スルモノニアラス

次テ本官ヨリ貴電第三二九号御来示ノ趣旨ヲ披露シタルニ対シ仏国公使ハ然ラハ南京事件ノ交渉ハ今後「インデペンデント、アクシヨン、キヤリド、ウイズ、パーフェクト、リーズン」ノ時代ニ入りタルモノト諒解スト述ヘタリ猶英国公使ハ情報ヲ「ブール」スルコトニ依リ各国ノ單獨交渉ノ歩調ノ区々乱雜ニナルヲ避ケ得一国カ他国ヨリ進ミ過クルト云フコトナキ利益アリト言ヘルカ其点ニ関シテハ貴電第三二九号第二項ノ御内意ト一致セサルモノト認メタルモ右ハ必スシモ指摘スル必要モナキコトト思ヒ其儘ニ為シ置キタリ

二

付記一

南京事件解決に關する南京政府側宣言案  
南京政府側の南京事件解決基礎案に対する考察

上海 7月12日午後發  
本省 7月12日午後着

第九五一号

往電第八二四号ニ関シ

郭交渉員十二日伍外交部長ノ代理トシテ本官ヲ来訪シ別電第九五二号南京事件解決基礎案ヲ示シ右ハ支那側ノ讓歩シ得ル「アットモースト、リミット」ナルカ国民政府ハ此ノ基礎案ニ依リ本件ヲ解決スヘキ用意整ヒ居ルニ付右日本政府ヘ伝達アリタシト述ヘタリ

尚交渉員ハ本官ノ質問ニ対シ英国ニ対シテハ王寵惠ヲ通シ其ノ根本ニ於テ本案ト大差ナキ基礎案(英国ハ南京砲撃セラル事実アルニ依リ此ノ点ニ関シ日本ニ対スルモノト相違アルハ勿論ナリト付言セリ)ヲ示シタルカ右ハ固ヨリ非公式ノモノニシテ關係国ニ対スル公式ノ申出テハ茲ニ貴官ニ対シテ為スヲ以テ嚙矢トスト答ヘ国民政府ハ日本トノ間ニ一日モ速ニ本件(脱)ル旨繰返シ述ヘタリ

508 昭和2年6月24日

在中国堀臨時代理公使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件交渉其の後の経過につき英国公使内話について

北京 6月24日午後發  
本省 6月24日午後着

第七二三号

往電第六八八号ニ関シ

二十四日英国公使ニ面会シ南京事件ハ其後發展シタリヤト尋ネタルニ少シ有リタリ十五日王寵惠カ南京ニ行キ十六日上海ニ歸レリ上海ノ英国総領事ヲ通シテ寄セタル「メッセージ」ニ依レハ王寵惠ノ方ヨリ英国側ノ解決要項ニ対シテ數個ノ修正ヲ申込ミ来レリ其ノ修正ハ「ランプソン」個人トシテ本件解決ノ趣旨ヲ没却スルモノト思ハルルカ故ニ鄭重ナル措辞ヲ以テ決然拒絶スヘキノ意見ヲ倫敦ヘ言ヒ遣リタリ倫敦ヨリ回答アリ次第五国会議ニテ報告スヘシト内話セリ

509 昭和2年7月12日

在上海清水総領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

伍外交部長より南京事件解決基礎案提出につ

(付記一)

南京事件解決ニ関スル南京政府側宣言案

(昭和二年七月十二日郭交渉員ヨリ在上海清水総領事代理ニ手交)

南京事件解決基礎

第一、支那共和国国民政府ハ南京事件カ南京ニ於ケル国民政府成立前共產主義者ニ依リ煽動セラレタルモノナル事実ニモ拘ラス本事件ノ調査ヲ為シ然ル後本事件ニ関シ一般のニ承認セラレタル国際法ノ規則ニ從ヒ責任ヲ負フヘシ

第二、国民政府ハ本事件連累者ニ対シ既ニ取ラレタル措置ニ関スル詳細ナルステートメントヲ日本政府ニ交付スルモノトス(本ステートメントハ予メ非公式ニ日本政府ニ通知シ其ノ承認ヲ經ヘキモノトス)

第三、外交部ハ公文ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表明シ且国民政府ハ政府吏員ノ日本人生命財産ニ対スル総ユル形式ノ暴行及煽動ヲ禁止スル為メ明確ナル約束ヲ為スヘシ(前記宣言履行ノ為發セラルヘキ禁止令ノ写ハ予メ非公式ニ日本政府ニ通知シ其ノ承認ヲ經ヘキモノトス)

第四、国民政府ニ於テ国際法ノ一般の規則ニ従ヒ責任ヲ負ヒタル上ハ關係支那人ニ依リ日本人ノ生命及財産ニ対シ為サレタル現実ノ損害ヲ審査シ且各場合ニ付支払ハルヘキ賠償額ヲ評価スル為日支共同委員会組織セラルヘシ

第五、国民政府ハ現存条約ノ廢棄及平等並領土主權相互尊重ヲ基礎トセル新条約ノ即時締結ヲ要望ス

編注 本稿は在上海清水総領事代理より田中外務大臣宛別電第九五二二号に基づいて本省に於て作成したものとされる。

### (付記1)

南京政府側ノ南京事件解決基礎案ニ対スル考察

(昭和二年七月十四日)

一、南京政府ノ責任ニ関シテハ(1)「国民政府成立前共產主義者ニ依リ煽動セラレタルモノナル事実」ナリト云ヒ同政府ニ於テ責任逃レノ如キ言辞ヲ用ヒ或ハ(2)「調査ヲ為シタル後」ト云ヒ直ニ無条件ニ責任ヲ負フノ意味ヲ表明セサルノミナラス(3)「一般的ニ承認セラレタル国際法ノ規則ニ従ヒ」ナル字句ハ結局責任ヲ回避セシメ出来得レ

外務大臣宛第八二四号

英国と中国との間の解決基礎案修正案

二 七月十九日付在中国堀臨時代理公使より田中外務大臣宛第八二五号

解決基礎案項に挿入すべき英艦による砲撃案

北京 7月19日後発

本省 7月20日前着

第八二三号

貴電第三五一号ニ関シ

英米両公使ノ招請ニ基キ七月十九日英国公使館ニ五国公使會議ヲ開キタルカ英国公使ハ先ツ同公使ト王寵惠トノ非公式交渉ノ経過ヲ披露シ五月三十一日同公使ヨリ王寵惠ニ往電第六六〇号ノ覚書ヲ内示シ種々折衝ノ結果六月三日若シ

王ニ於テ南京政府ノ承認ヲ得レハ大体英国政府ニ取次キ得

ヘキモノト認ムル程度ノ解決基礎案修正案別電第八二四

号ヲ協定シ自分ハ翌四日上海発帰燕シタル次第ナルカ其後

六月十六日ニ至リ王ヨリ更ニ南京政府ノ「オーソリゼイシ

ョン」ヲ得タルモノトシテ「バートン」ヲ経テ再修正案

(右ハ上海發閣下宛電報第九五二二号第四項及第五項ノ間ニ

ハ(3)ヲモ削除セシメ率直明快ニ責任ヲ負フ旨ヲ声明セシムルコトト致度

二、処罰ノ項ハ原案ニテ差支ナカルヘシ

三、謝罪ノ項ハ一応国民政府ヲシテ謝罪セシムルコトニ交渉致度但結局ハ原案通り落着スルモ差支ナカルヘシ

将来ノ保障ノ項ニ付我方ニ於テ保障ヲ取付度ハ寧ロ一般支那人ノ暴行乃至煽動ニアルヲ以テ原案中「政府吏員ノ暴行及煽動云々」ハ是非前記ノ趣旨ニ改メシムルコトヲ要ス

四、賠償ノ項ニ付「国民政府ニ於テ国際法ノ一般の規則ニ従ヒ責任ヲ負ヒタル上ハ」ノ字句ハ前項一ト同趣旨ニ依リ削除セシメ度

五、不平等条約ノ問題ハ本件解決トハ別個ノ問題ナルニ付宣言案中ヨリ抹消セシムルノ要アリ

510 昭和2年7月19日 在中国堀臨時代理公使より  
田中外務大臣宛(電報)

英米両国公使招請による五国公使會議の議事

報告

別電一 七月二十日付在中国堀臨時代理公使より田中

軍艦ノ砲撃ニ於ケル別電第八二五号ノ如キ一項ヲ追加シタルモノニシテ七月十二日南京政府ヨリ米國側ニ提出シタルモノト内容全然同一ナリ)ヲ提出シ来レル処右ハ全然新ナル提案ト認ムヘク自分ハ斯ノ如キ提案ニ付協定スヘク「オウソライズ」サレ居ラサルヲ以テ本国政府ニ請訓シタル処(五〇八文書) (往電第七二三号参照) 本国政府ハ再修正案カ(一)事件責任者中ノ未処分者ニ対スル将来ノ処罰ニ関スル事項(二)南京政府カ将来「ストライキ」「ボイコット」等一切ノ排外運動ニ対シ政治的ノ煽動ヲ為サストノ誓約(右ハ蔣介石ヲシテ親シク陳謝セシメサル代リニ英國側ニ於テ是非挿入シタルモノ)及(三)賠償責任ノ完全ナル承認ノ英國政府ニ於テ最重要視スル点(英國公使ハ国際法原則ニ基ク云々ヲ体好キ逃ケ口上ト見居レリ)三事項ヲ欠如シ居ルヲ以テ到底承認シ難キニ付之ヲ拒絶シ往電第六六〇号ノ原案ニ帰リ強硬主張スヘキ旨訓令ニ接シタルヲ以テ「バートン」ヨリ王ニ其旨回答シ再考ヲ促サシメタル処王ハ南京ニ赴キ自身要路ト協議スヘキコトヲ約シ七月十日發赴寧シタル次第ナリト語リタルヲ以テ本官ハ貴電第三五一号御來訓ノ次第モアリ閣下發上海宛電報第三二二二号ハ未タ接到シ居ラサリシモ大体

上海発閣下宛電報第九五一号及同第九五二号ノ次第ヲ披露シ右ニ対スル閣下ノ上海ニ対スル訓令振ハ電報未着ノ為未タ承知シ居ラサル旨ヲ述ヘタル処英国公使ハ南京政府カ七月十二日右ト略同様ノ提議ヲ日米ニナシタルハ或ハ王寵恵南京着後相談ノ結果英国ノ態度ノ強硬ナルヲ見テ他ノ二国ニ個々ニ提議シ英国ヲ牽制セントノ魂胆ニ出テタルモノト思ハルル節ナキニ非サレトモ自分ハ其点ハ確信シ得ス併シ英国トノ交渉ハ前記ノ如キ次第ナルヲ以テ本官未接到ノ電報カ或ハ何等南京側提案ヲ基礎トシテ交渉ヲ開始セシムヘシトノ訓令ナルヤモ知レス又他国側ノ自由ヲ牽制スルノ意志ハ毛頭ナキモ今少シ英国側交渉ノ成行ヲ待タル方共同ノ利益ナラント述ヘタルヲ以テ本官ハ兎ニ角右ノ趣政府ニ電報スルト共ニ清水領事ニ対シテモ「バートン」ト協調シテ交渉ニ当ル様電報スヘシト答ヘ尚前記上海宛貴電第三二二号カ簡単ナルモノナルヲ以テ写ヲ各公使ニ送付スルニ止ムヘク若シ複雑ナルモノナレハ更ニ会議ヲ開ク様申出ツヘシト述ヘ置キタルカ米国公使ハ七月十二日郭交渉員ヨリ日米側ニ抗議ヲナシタルハ或ハ王寵恵ノ南京ヲノ折衝ノ失敗ナルヤモ知レサルカ兎ニ角王ヨリ英国側ニ対スル回答ヲ今

ally accepted rules of International Law.

Para. 2 The Nationalist Government to furnish to the British Government a detailed statement of the measures already taken (or to be taken) against those implicated in the incident. (the statement to be communicated unofficially in advance and accepted by the British Government.)

Para. 3 An expression of profound regret in the Note from the Ministry of Foreign Affairs and an express undertaking on the part of the Nationalist Government to refrain from all forms of violence and agitation against British lives and property (copy of prohibition implementing the above declaration to be communicated unofficially in advance and accepted by the British Government.)

六 南 京 事 件

Para. 4 Upon the Nationalist Government accepting responsibility, (for the making of complete reparation for personal injuries and material damage done) a Sino-British Joint Commission will be instituted for

数日待ツコトハ無益ニ非ストテ英国公使ノ態度ヲ支持シタリ尚仏伊側ニ於テハ本件交渉ハ何等発展シ居ラサルモノノ如ク仏国ハ全然英国側交渉ノ模様ヲ俟チ居リ伊国ハ僅ニ宣教師一名殺サレタルニ過キササルヲ以テ余リ「インテレスト」ナク宣教師一名殺サレタルカタメ条約改正ノ約ヲ支那ニ与フルニ至ルヘキヲ寧ロ意外トスル態ニ見受ケラレタリ  
(別電一)

Peking, July 20th p. m.  
Rec'd, July 20th p. m.

Gaimudajin, Tokio.  
No. 824.

Wang Chung-hui's formula June 3rd.

Para. 1 The Nationalist Government of the Republic of China, after investigation of the Nanking incident, inspite of the fact that, it was instigated by the Communists prior to the establishment of the Nationalist Government at Nanking, assumes responsibility for the incident in accordance with the gener-

the purpose of verifying the actual injuries and damage done to British lives and property by the Chinese concerned, and of assessing the amount of compensation due in each case.

Para. 5 The Note from the Ministry of Foreign Affairs of the Nationalist Government will refer to the bombardment of Nanking by British warships and the Nationalist Government earnestly hopes that the British Government will express regret (and make adequate reparation to the sufferers concerned.)

The reply from the British Government will be somewhat as follows:

"The British Government regrets that circumstances were such that the measures taken were absolutely necessary for the protection of British lives and property (in these circumstances no question of reparation can arise)".

Para. 6 Request of the Nationalist Government for the abrogation of existing Treaties and the imme-

date conclusion of a new Treaty on a basis of equality and mutual respect of territorial sovereignty.

The reply from the British Government will be to the effect that the attitude of the British Government has always been friendly and sympathetic towards the aspirations of the Chinese people for a fundamental revision of existing Treaty relations as evidenced by the Declaration of December 18th, 1926, and the Seven Proposals of January 28th, 1927, the execution of which depends mainly upon the manifestation of a spirit of goodwill and sincerity on the part of the Nationalist Government.

Hori

(別電11)

Peking, 19th, p. m.  
Rec'd, 20th, a. m.

Gaimudajin, Tokio.  
\*No. 825.

Para. 5 The note from the Ministry of Foreign Affairs of the Nationalist Government will refer to the bombardment of Nanking by British warships and the Nationalist Government expects that the British Government will express regret. The reply from the British Government will be somewhat as follows:—

“The British Government regrets that circumstances were such that the measures taken were absolutely necessary for the protection of British lives and property.”

昭和二一年七月二十二日  
在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件に関する交渉開始を暫く見合せヨリ

云

上海 七月二十二日午後  
本省 七月二十三日午前

\*第九九一号

往電第九九〇号伍ト会见ノ際南京事件ニ論及シタルニ伍ハ至急解決ハ南京政府ノ切望スル処ナリ貴下ニ於テ往電第九

(五〇九文書)  
五一号支那側覚書ヲ基礎トシテ交渉ヲ開始セラルル希望アラハ自分ハ貴下ト南京ニ同行シ胡漢民、蔣介石等同席シテ急遽原則丈ハ協定ヲ遂ケタシト述ヘタルニ付自分ハ進テ

右交渉ニ応スル考ナルカ英国其他ノ外国トノ経緯如何ト質問シタルニ英国ニ対シテハ返事ヲ待チ居レルカ実ハ英国ハ本件解決ヲ急キ居ラスト云ヘルニ付何故ニト反問シタルニ言葉ヲ濁シタル後英国ハ南京事件ヲ解決スレハ上海駐兵ノ如キ益々其理由ヲ失フ為ナリト述ヘ日本ハ何モ英国ニ気兼スル理由ナキニアラスヤ依テ至急貴下ハ日本政府ヨリ南京事件解決ノ「オウソリゼーション」ヲ得ラレタシト語レリ然ルニ翌二十二日朝英国総領事本官ヲ来訪シ南京事件ニ関スル英国側トノ交渉ノ経過ヲ略述シ事実ハ英国側ニテ支那側ノ「ムーブ」ヲ待チ居レルナリ何レニセヨ本件交渉ヲ日本側ニテ急カサル様願タシ詳細ハ追テ懇談スヘシト述テ引取りタリ右ハ在支公使発閣下宛電報第八二三号英国公使ノ意見ニ基クモノト存セラルル処本官ハ右英国側ノ注意モアリ交渉開始ヲ暫ク見合セ模様ヲ見度シト存ス若シ政府ニ於テ右英国側ノ横槍ニ拘ハララス交渉開始ノ御意向アラハ往電第九五一号ニ対スル我方ノ対策至急御回訓ヲ仰ク

昭和二一年七月二十三日  
田中外務大臣より  
在上海矢田総領事宛(電報)

南京事件処理に關し英国交渉の成行を待たれ

たい旨同国大使の申出について

付記 南京事件交渉問題に關する措置案

(昭和二年七月二十六日)

本省 七月二十三日後發

\*第三三〇号

二十日在本邦英国大使出淵次官ヲ来訪南京事件交渉ニ関シ北京發本大臣宛電報第八二三号末段ト同様ノ趣旨ヲ以テ此際帝国政府ニ於テ今少シ英国側交渉ノ成行ヲ待ツコトセラレ度旨申出タルニ対シ

次官ヨリ本件ハ各国総領事ニ於テ各別ニ交渉ヲ為スコトナリ居レル次第ナルモ

未タ上海総領事帰任ノ報ニモ接セサル次第ニモアリ少クトモ此処一週間位ノ中ニ同総領事ニ於テ本件交渉ヲ再開スル運ニ至ルヘシトハ思考セラレサル旨答ヘ置タル趣ナリ

(付記)

南京事件交渉問題ニ関スル措置案

(昭和二年七月二十六日)

一、最近ニ於ケル英国側ノ策動

七月十九日北京五国公使會議ニ於テ英国公使ヨリ本件英支交渉ノ経過ヲ述ヘ堀代理公使ヨリ七月十二日南京政府ヨリ我方ニ交付シタル協定案ニ付説明ヲ与ヘタル後英国公使ハ日本側ニ於テ今少シ英支交渉ノ成行ヲ待タレ度旨ヲ希望シ米国公使又之ヲ支持シタル趣ナルカ越テ二十日在本邦英国大使ハ出淵次官ニ対シ前記在支英国公使ト同様ノ趣旨ヲ述ヘ更ニ二十三日在本邦英国大使館参事官ハ大使ノ命ニ依リ出淵次官ヲ来訪シ別添本国政府訓令ノ趣旨ヲ述フル所アリタリ惟フニ右英国側ノ態度ハ英支間交渉力目下ノ処到底急速ニ進捗セサルヘキニ顧ミ此際日本側ニ於テモ支那側トノ間ニ他ノ關係国ヨリモ遙カニ容易ナル条件ヲ以テ单独解決ニ至ルコトアルヘキヲ惧レ米國ヲ抱込ミテ日本側交渉ノ進展ヲ阻止セムトスル底意ナルヤニ認メラレ米國又英國側申出ヲ支持スルノ態度ニ出テ居レルカ如シ

二、南京政府ノ態度

一致シ又ハ我方ノミ一定ノ諒解ニ到達スルカ如キ場合ニハ在支公使宛往電第三二九号ノ趣旨ニ依リ其旨關係國ニ披露ノ上单独解決ニ至ルコト致度

513

昭和2年9月27日

田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛 (電報)

南京事件交渉に關する英国側提議に對する回答について

付記 九月十四日木村局長より有田局長へ引継用  
南京事件交渉

※  
第四一九号

貴電第一〇〇五号ニ関シ

我方ハ英國側トハ事情ヲ異ニスルモノアルノミナラス南京ノ政情ニモ鑑ミ今俄ニ英國公使提議ノ如キ措置ニ出ツル必要ヲ認メサル次第ニ付英國公使ニ対シテハ右御含ノ上可然挨拶シ置カレ度シ

(付記)

※  
昭和二年九月十四日木村局長有田局長引継用

一方南京政府ニ於テハ五月二十日以来王寵惠「ラムプン」ノ間ニ交渉ヲ重ネ其行詰ノ形勢トナルヤ七月十二日日米兩國ニ対シ解決案ヲ提議シタルカ右ハ英國側ノ態度強硬ナルヲ看取シ他關係國ニ個々ニ提議シ以テ英國ヲ牽制セントノ魂胆ヲ有セルモノノ如ク即チ列國側ノ单独交渉ヲ利用シテ解決条件ヲ簡易ナラシメムトスル下心ニ出テ居レルモノノ如ク認メラル

三、我方ノ対策

前記關係國並南京政府ノ態度ニ鑑ミ我方トシテ一方英國側ノ執拗ナル申出ニ聽従スルノ要ナキノミナラス他方南京政府ヲシテ徒ニ列國牽制ノ手段ヲ弄セシムルハ面白カラサル次第ナルニ付テハ此際我方トシテハ南京側ノ我方ニ対スル解決ニ対シテモ我方トシテ将来幾多改正ヲ主張スヘキ余地ヲ有スル今日依然六月十六日北京五国公使會議ニ於ケル申合即チ

(イ) 我方及英國ニ於テ夫々南京政府トノ間ニ单独非公式交渉ヲ繼續シ

(ロ) 隨時其ノ経過ヲ關係國間ニ示スルコトノ方針ニ從ヒ個々ノ交渉ヲ進ムルコトト致度而シテ将来兩者ノ結果

南京事件交渉

本件交渉ハ昭和二年六月十五日北京五国公使會議ニ於ケル關係國間協議ニ依リ各国任意ニ支那側(南京政府側)トノ間ニ单独交渉ヲ進メ隨時右交渉ノ経過ヲ關係國側ニ披露スルコトニ決定ヲ見タルカ爾來英國側ハ王寵惠ヲ通シ又我方ハ伍朝枢ヲ通シ夫々南京政府トノ間ニ交渉ヲ繼續中ナリシモ七月上旬以來南方時局變転ノ影響ヲ蒙リ本件交渉ハ事實上何等進展ヲ見サル現状ニ在リ

尤モ英國側ハ王寵惠ヲ介シテノ交渉進捗セサルニ引換ヘ我方矢田總領事及伍朝枢間交渉漸次進展ノ兆アリタルニ鑑ミ先方ニ於テ单独解決ニ至ルコトアルヘキヲ慮レ七月中旬頻ニ我方交渉ヲ阻止セムトスル態度ニ出テタルモ我方ニ於テハ前記六月十五日會議ノ方針ヲ變更スルノ要ヲ認メス此上トモ日英单独交渉ヲ繼續シ満足ナル結果ヲ得ル見込立ツニ至ラハ茲ニ初メテ正式解決ニ付其形式等即チ共同又ハ单独ニ解決スヘキヤ等ニ付關係國間ニ充分ニ協議決定スルノ方針ニ出スルコト可然ト認メ右ノ趣旨ヲ以テ英國側始メ關係國側ニ応酬シ置キタリ

514 昭和2年10月24日

在中国芳次公使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京政府より南京事件交渉再開方申入れに對する英國側回答について

北京 發

本省 10月24日後着

※第一一二三号

二十四日英國公使來訪十月十四日南京政府ヨリ上海英國總領事ヲ通シ南京事件ニ付交渉再開方ニ関シ非公式照會ヲ受ケタルヲ以テ右ニ對シ二十一日南京政府カ真面目ニ交渉ノ相手トスル程度ニ確立セリトハ思ハレサルノミナラス程潜カ最近南京軍事委員會ノ會長ニ任命セラレタル事實ニ鑑ミ本件交渉ヲ再開スル意向無キ旨回答シタル処若シ南京政府ヨリ日本政府ニ對シ交渉再開方ニ関シ何等申出有リタル場合ニハ通報アリタシトノ趣旨ノ本使宛親展書ヲ手交ノ上本使ノ意向ヲ尋ネタルニ付日本政府モ亦目下ノ処南京政府ト交渉開始ノ意向ナキ旨答へ置キタリ

515 昭和2年12月16日

田中外務大臣より  
在上海矢田總領事宛(電報)

甚ナル遺憾ノ意ヲ表スヘシ

- 二、國民政府ハ本件ニ付責ニ任スヘキ軍隊ノ指揮官及之レニ関与セル者ヲ嚴重処罰シ其措置ヲ詳細ニ記載シタル書面ヲ日本政府ニ交付スヘシ(本書面ハ予メ非公式ニ之ヲ日本政府ニ通報シ其ノ承認ヲ經ヘキモノトス)
- 三、國民政府ハ政府吏員及其ノ他ノ支那國國民ノ日本人身体財産ニ對スル總ユル暴行及煽動ニ對シ嚴重ナル制裁ヲ設ケテ之ヲ禁止スルコトニ付明確ナル約束ヲ為スヘシ(右宣言履行ノ為發セラルヘキ禁止令ハ予メ非公式ニ其ノ写ヲ日本政府ニ送付シ其ノ承認ヲ經ヘキモノトス)
- 四、國民政府ハ本事件ニ於テ支那人ニ依リ日本人ノ身体及財産ニ對シ為サレタル一切ノ傷害及損害ヲ完全ニ賠償スヘシ

(付記)

※高 裁 案

(昭和二年十一月二十一日)

南京事件交渉再開方ニ関スル件

一、交渉停頓ノ現状

南京事件交渉ハ本年六月十五日北京五國公使會議ニ於ケ

南京事件交渉再開に関する訓令について

別 電

十二月十六日付田中外務大臣より在上海矢田總領事宛第四三四号

修正解決基礎案

付記 高裁案(十一月二十一日)

南京事件交渉再開方に関する件

本省 12月16日後發

※第四三三三号

南京事件ハ國民的感情ヨリモ成ルヘク速カニ解決ヲ図ルノ必要有ルニ付貴電第九五二号支那案ヲ修正セル別電第四三四号ニ依リ速ニ非公式交渉再開ノ運ト致度交渉開始ノ時機ハ目下貴地ニ開會中ノ予備會議終了シ新シキ基礎ニ於ケル南京政府成立ノ際ヲ適當ナリト思考セラルルモ此点ニ関シテハ貴見回電アリタシ

(別電)

本省 12月16日後發

※第四三四号

一、支那共和國國民政府ハ南京事件カ國民革命軍所屬軍隊ノ所為ナルニ依リ本事件ニ對シ完全ナル責任ヲ承認シ深

ル協議ニ依リ各國任意ニ支那側トノ間ニ单独交渉ヲ進メ隨時其ノ經過ヲ關係國側ニ披露スルコトニ決定シ爾來我方ハ伍朝樞ヲ通シ南京政府ト交渉ヲ繼續シ來リタル処七月十二日伍外交部長ノ代理トシテ郭交涉員ヨリ在上海清水總領事代理ニ對シ本事件解決基礎案(別紙丙号)ヲ呈示スル所アリタルカ之ニ對スル帝國政府ノ意見ヲ回答スルニ至ラサル間ニ南方政府ノ變転ヲ來タシ爾來未タ政情ノ安定ヲ見サル為本件交渉ハ其ノ儘停頓シ居ル状態ナリ他國側ノ交渉モ大体同様中断ノ状態ニ在リ

二、交渉再開ノ可否

然ルニ最近漢寧ノ合同ヲ見ルヤ南京政府ハ本件交渉ノ再開ヲ希望スルニ至リタルモノノ如ク英米ニ對シテハ既ニ非公式ニ此ノ意向ヲ通シタル趣ニテ我方ニ於テハ未タ斯カル非公式照會ニ接シ居ラサルモ近ク本邦ヲ訪問スヘキ許崇智等ハ本件ニ関スル帝國政府ノ意向ヲ探ル使命ヲモ有スルヤニ伝ヘラルル次第モアルヲ以テ此ノ際本件交渉今後ノ方針ヲ決定シ置クノ要アルヘシ

前記英米ニ對スル南京政府側ノ内照會ニ對シ英國ハ南京政府ハ未タ交渉再開ニ価スルタケノ鞏固ナル基礎ヲ有セ

ス又程潜ノ如キ事件ノ元兇トモ云フヘキ者ヲ幹部ニ任命スルハ不都合ニシテ誠意ヲ欠クモノナリト為シ交渉再開ノ意ナキ旨ヲ回答シタル趣ニテ米国モ大体同様ノ意向ナル処此ノ種事件ニ付在再交渉ヲ延期スルトキハ南方政府トノ良好関係ノ樹立ニ対シ障碍トナルノミナラス其ノ間諸般ノ事情ノ変化ト共ニ交渉愈々困難トナリ遂ニハ其ノ機ヲ逸シ有耶無耶ニ終ルノ虞ナシトセス依テ我方トシテハ南京政府ニ於テ本件ヲ解決セントスル意思アルニ於テハ成ルヘク速カニ交渉ヲ再開スルコト適當ナルヘシ

三、交渉再開ノ時機

交渉再開ノ時機ハ近キ内ニ支那側ヨリ何等我方ニ渡リヲ付クルカ如キコトアラハ其ノ機ニ乗スルヲ可トスヘク若シ斯カルコトナシトセハ南京政府ノ政情ノ稍落付キタル時ヲ見計ヒ最近ノ機会ニ於テ話ヲ持出スヲ適當トスヘシ其時機ハ矢田総領事ノ判断ニ一任シテ差支ナカルヘシ

四、解決案ニ関スル我方態度

本件解決案ノ内容ニ付テハ我方トシテハ当初ヨリノ要求事項タル(一)責任者及関与者ノ嚴重ナル処罰(二)国民政府ノ謝罪(三)将来ニ対スル保障並(四)人的傷害

516 昭和2年12月17日

田中外務大臣より  
在上海矢田総領事宛(電報)

南京事件交渉再開に関する訓電中の字句訂正  
について

本省 12月17日後発

※  
第四三六号

往電第四三三号中ニ「目下貴地ニ開会中ノ予備会議終了シ」トアルヲ「明年一月南京ニ開カルヘキ正式会議終了シ」ト訂正アリ度シ

517 昭和2年12月24日

在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件解決交渉に関する英国側の意向につ  
いて

北京 12月24日前発  
本省 12月24日後着

及物的損害ニ対スル完全ナル賠償ノ四点ニ依然重キヲ置クヘク而シテ此ノ趣旨ヲ達スルニ於テハ文句ノ如キサシテ問フ所ニアラサルモ本件交渉再開ノ上ハ勢ヒ本年七月我ニ呈示シタル南京政府側ノ解決基礎案カ交渉ノ出発点トナルヘキヲ以テ之ニ対スル我方ノ意見ヲ決定シ置クノ要アリ今該基礎案ヲ見ルニ我方要求ノ四点ヲ大体包含スルモノト認メラルルモ尚逃路ヲ設ケタルヤニ疑ハルル節ナキニ非サルニ付此点ニ対シテハ適當ナル修正ヲナサシメ度ク又該案中ニハ第五項トシテ現行条約ノ廃棄及新条約ノ即時締結ヲ要求シアル処右ハ全然別個ノ問題ナルヲ以テ本件ト関連シテ之ヲ議スルコトハ断然拒絶スルヲ要スヘシ

五、訓令

以上ノ方針ヲ決定セラレタル上ハ早速在上海総領事ニ対シ右ノ方針ニ依リ最近ノ適當ナル機会ニ本件交渉ヲ再開スル様訓令相成可然哉

右仰高裁

※  
第一三六二号

往電第一三二二一号ニ関シ

二十一日英国公使来訪ノ際同公使ハ本使ノ問ニ対シ政府ヨリ未タ回電ニ接セストノコトナリシカ故ニ更ニ電報ニテ督促方依頼シ置キタル処二十三日貴電第五七九号接到シタルニ付他用ヲ兼ね同公使ヲ訪問シタルニ同公使ハ只今回訓ニ接シタリトテ該電訓ヲ読上ケタルカ其趣意ハ英国政府ノ観ル処ヲ以テスルニ日本政府ノ意見ハ要スルニ「ロウカルインテレスト」ヲ目的トスルモノニテ且之カ為南京事件ノ解決ヲ期待スルト言フ次第ニアラサルカ故ニ日本政府カ事前ニ英国側ニ協議セラレタル好意ハ感謝スルモ参加スルコトハ見合セタシト言フニ在リ之ニテ關係四国ノ態度モ判明シタルニ付テハ貴電第五四五号ノ御趣旨ニ顧ミ漢口総領事宛電報第一〇七号ノ通り指図シ置キタリ